
2021年度 学修の手びき

和光大学 大学院
社会文化総合研究科

目 次

1	2021年度 学年暦 主要行事予定	4
2	学生証について	6
3	指導教員について	6
4	大学からの諸連絡について	6
5	履修登録について	8
6	単位修得・成績について	9
7	修士論文の手続きと審査	11
8	修士論文の審査のみ残している学生への学費の特別措置	12
9	修了について	13
10	授業について	13
11	離学研修制度について	14
12	休学・復学・退学・除籍・再入学	14
13	証明書について	16
14	科目等履修生制度について	19
15	授業一覧表	21
	●心理学専攻	
	心理学コース	22
	●社会文化論専攻	
	現代社会文化論コース	23
	発達・教育臨床論コース	24
	現代経済・ビジネスコース	26
16	講義要目	27
	●心理学専攻	
	心理学コース	28
	●社会文化論専攻	
	現代社会文化論コース	37
	発達・教育臨床論コース	45
	現代経済・ビジネスコース	49
17	修士論文および修士論文要旨の作成・提出について	59
18	教職課程（専修免許）授業一覧表	61
19	和光大学大学院学則 履修規程等	65
	和光大学大学院学則	66
	和光大学大学院履修規程	72
	和光大学学位規程	74
	和光大学大学院退学、除籍、休学・復学取扱規程	76
	和光大学大学院再入学規程	78
	和光大学大学院科目等履修生規程	79
20	2021年度大学院履修登録マニュアル	81

はじめに(重要) 大学からの諸連絡は、すべてG棟入口の大学院掲示板に貼り出されます。休講掲示板はB棟です。
見落としによる不利益がないよう、十分に注意してください。また、掲示板の補助として「和光ポータル」を用いることがあります。

1 2021年度学年曆

主要行事予定

は授業日です。

☐ は補習講義、試験、集中講義期間などです。

4月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	4月5日 春セメスター入学登録 7日 オリエンテーション 9日～ 春セメスター授業開始 9日～15日、22日～23日、5月1日～6日 春セメスター履修登録期間 9日～5月6日 修士論文本題目届提出期間（2021年度秋セメスター修士論文提出予定者） 29日 休日授業
5月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	4月9日～15日、22日～23日、5月1日～6日 春セメスター履修登録期間 5月8日 修士論文中間発表会（2021年度秋セメスター修士論文提出予定者）
6月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	6月9日 修士論文題目変更届提出期限（2021年度春セメスター修士論文提出予定者）
7月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	7月9日 修士論文提出期限（2021年度春セメスター修士論文提出予定者） 上旬 入学試験 20日 修士論文中間発表会申込み期限、修士論文仮題目届提出期限（2022年度春セメスター修士論文提出予定者） 22日 休日授業 23日、24日 春セメスター補習講義期間（23日休日実施含む） 7月29日～31日、8月2日～4日 春セメスター試験期間
8月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	8月5日～7日、9日、10日 集中講義期間（9日休日実施含む） 11日～ 夏期休業（9月12日まで）
9月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	9月6日 春セメスター成績公開 修了判定結果発表 13日～18日 秋セメスター履修登録期間 修士論文本題目届提出期間（2022年度春セメスター修士論文提出予定者） 11日 修了証書・学位記交付 修士論文発表会 秋セメスター入学登録 オリエンテーション 13日～ 秋セメスター授業開始

2021年度学年暦

主要行事予定

■ は授業日です。
□ は補習講義、試験期間などです。

10月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 ²⁴ / ₃₁ 25 26 27 28 29 30	10月9日 修士論文中間発表会（2022年度春セメスター修士論文提出予定者） 下旬 入学試験
11月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 ③ 4 5 6 7 8 9 10 ⑪ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 ②③ 24 25 26 27 28 29 30	11月上旬 大学祭（全学休講予定） 11日 和光学園創立記念日振替休日 下旬 入学試験
12月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	12月7日 修士論文題目変更届提出期限（2021年度秋セメスター修士論文提出予定者） 24日～1月5日 冬期休業
1月	日 月 火 水 木 金 土 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 ⑩ 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 ²³ / ₃₀ ²⁴ / ₃₁ 25 26 27 28 29	1月6日～8日、11日～13日、17日 秋セメスター通常授業 7日 修士論文提出期限（2021年度秋セメスター修士論文提出予定者） 14日～16日 大学入学共通テストに関わる入構禁止 18日～20日 秋セメスター補習講義期間 20日 修士論文仮題目届提出期限（2022年度秋セメスター修士論文提出予定者） 21日、22日、24日～27日 秋セメスター試験期間 下旬 入学試験
2月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ⑪ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 ②③ 24 25 26 27 28	2月21日 修了判定結果発表 下旬 入学試験
3月	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 ②① 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3月上旬 入学試験 8日 秋セメスター成績公開 中旬 修士論文発表会 18日 修了証書・学位記交付 21日～ 春期休業 31日 修士論文中間発表会申込み期限（2022年度秋セメスター修士論文提出予定者）

入試の前日は入構制限があるので、必ず大学HPで確認してください。

2 学生証について

学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。学生であることによって受けられる社会的ないくつかの特典を享受するときに使用するものであり、大学には一定の責任が生じます。このことから大学では学生証の取扱いを慎重にしていますので、大学院生の皆さんもよく理解してください。

登校時は常時携帯し、本学教職員が提示を求めるときはこれに応じてください。

有効期限

有効期限は原則2年間です（ただし3年課程生、4年課程生については各課程の修業期間となります）。住所変更、改姓などが生じた場合は教学支援室に学籍変更届を提出してください。退学・除籍になった場合は、学生証をすみやかに返却してください。

学籍番号

学籍番号は、入学年度、所属、個人番号を示します。

入学手続きを完了した学生に学籍番号が与えられます。この番号は学生証等に記載され、修了後も変わらず残されます。

例) 21 M ☆□9

「入学年度」(2021)

大学院生はM

個人番号

☆はコースを示します

- 1 = 現代社会文化論コース
- 2 = 発達・教育臨床論コース
- 3 = 現代経済・ビジネスコース
- 4 = 心理学コース

□は入学セメスターを示します

- 0 ~ = 春
- 5 ~ = 秋

※再入学生の学籍番号は、別途、既在籍期間に基づいて決定されます（本冊子15ページ参照）。

3 指導教員について

指導教員とは

日常的に大学院生の研究指導にあたるのが指導教員です。指導教員は研究指導計画をたて、それに基づいて修士論文作成を指導します。入学セメスターのはじめに相談のうえ指導教員を決め、下記の手続きをしてください。指導教員は所属コースの研究法担当者（本冊子22～26ページ参照）の中から選んでください。

指導教員届の提出

「指導教員届」を教学支援室に提出してください。提出期間は、入学セメスターの履修登録期間（本冊子8ページ参照）と同じです。

指導教員変更届

変更前指導教員の承諾を得た上で「指導教員変更届」を提出してください。次セメスターから新指導教員となります（用紙は教学支援室にあります）。

指導教員がサバティカル・休職等のため次セメスターに不在となる場合は、必ず指導教員変更届を提出してください。

4 大学からの諸連絡について

大学では、休講、教室変更、学生の呼び出し、その他必要な連絡事項は、特別な場合を除きすべて掲示板で連絡します。掲示板の補助として「和光ポータル」でお知らせすることがあったり、コースによってはメールなどを用いることがあります。

電話による問い合わせや相談は、間違いが生じやすいため、特別な事情が無い限り対応できません。教学支援室の窓口で直接問い合わせ・相談を行ってください。

(1) 掲示板

登下校の際には必ず確認し、見忘れ、見落としがないようにしてください。往々にして掲示を見落として、期限が過ぎてから駆け込んでくる学生がいます。このようなことのないよう十分注意してください。見落としたために生じた不利益について、大学は責任を負いません。

授業に関する内容は、担当教員から依頼があったものが掲示板に掲示されます。大学院以外の授業に関することは、当該の掲示板で確認してください。

(2) 和光ポータル

和光ポータルは、インターネットを通じて履修登録を行ったり、休講情報や教室変更情報などの学内情報が確認できるWEBシステムです。和光ポータルでは大学生活を送るうえで大切な情報を配信しますので、毎日ログインをして最新の情報を確認してください。

和光ポータル ログイン画面について

以下のいずれかの方法でアクセスしてください。ブックマークをしておくくと便利です。スマホの機種によっては「PCサイト版」を利用できることがあります。

●PCサイト版

[和光大学HPトップ]→[和光ポータル]をクリック
学修の手びき表紙のQRコードからアクセス

URL <https://portal.wako.ac.jp/>

●スマホ版

URL <https://portal.wako.ac.jp/sp>

なお、和光ポータルにログインするためには、和光大学アカウント（ユーザ名とパスワード）が必要です。入学登録時の配付資料に「和光大学アカウント発行通知書」を同封していますので、確認してください。

パスワードが分からなくなった場合は、学生証を持って図書・情報館のメディアサロンで確認してください。有料（100円）でパスワードを再発行します。

下記のようにPCサイト版でのみ利用可能な機能があります。

和光ポータル PCサイト版・スマホ版 利用可能機能比較表		
	PCサイト版	スマホ版
履修登録・抽選希望登録	○	○
学生時間割表	○	○
教員時間割表	○	○
授業時間割表	○	○
シラバス照会	○	○
成績照会	○	○
アンケート回答	○	○
安否確認回答	○	○
学籍情報照会	○	○
学籍情報変更申請	○	○
課題提出	○	×
アンケート	○	×
Q & A	○	×
授業評価回答	○	○
授業資料	○	×
WEBノート	○	×
クラスフォーラム	○	×

5 履修登録について

(1) 春セメスター 履修登録日程

(本冊子72ページの和光大学大学院履修規程もあわせて読んでください)

入学登録	4月5日(月)
オリエンテーション	4月7日(水)
授業開始	4月9日(金)～
履修登録期間	4月9日(金)～4月15日(木) 4月22日(木)～4月23日(金) 5月1日(土)～5月6日(木)

(2) 秋セメスター 履修登録日程

入学登録、オリエンテーション	9月11日(土)
授業開始	9月13日(月)～
履修登録期間	9月13日(月)～9月18日(土)

(3) 履修登録時の 注意事項 指導教員と相談する

登録方法について

履修する授業については、各自の研究計画に基づいて指導教員と相談の上、登録を行ってください。

- ①履修登録期間に和光ポータルの「履修登録」画面から履修する授業を登録します。
履修登録期間中は、自由に追加・削除・訂正が可能です(「確定」ボタンを押した後でも、再度「履修登録」画面を開き直すと変更できます)。
期間終了とともに登録が確定します(以後は追加・削除・訂正はできません)。
- ②集中講義は、「履修登録」画面(時間割表示)の「前期」の「集中」ボタンで登録してください。
- ③履修登録の入力を終えたところで「チェック」をすると、エラーや単位修得状況を確認できます。エラーが表示された授業は全て削除され、履修できません。必ず「チェック」ボタンを押してから確定してください。
- ④確定した時間割を和光ポータルから印刷し、「履修登録内容確認書」とあわせて指導教員の確認と押印を受け、履修登録期間中に教学支援室まで提出してください。期限を過ぎたり、提出のなかった場合、履修登録は無効となります。
- ⑤当該セメスター中は、和光ポータルの「学生時間割表」画面で各自の履修登録の状況を確認できます。

注意：履修登録はセメスターごとに行ってください。

春セメスターの履修登録期間には秋セメスターの登録画面も開きますが、秋セメスターの開講授業は登録しないこと。(ただし、学部専門科目については「学部専門科目の履修」を参照)

最終セメスターの履修登録

最終セメスターには、履修登録画面に「研究指導」と「修士論文」があらかじめ登録されています。これを確認し「チェック」ボタンを押して確定してください。

他の授業科目を登録しない場合や、修士論文のみの在籍者(本冊子12ページ8を参照)も、必ずこの作業を行ってください。

- ①「研究指導」は削除することができます。修士論文の提出を延期する予定の者は「研究指導」を削除してください。
修士論文の提出に必要な手続き(本冊子11ページ7を参照)を済ませていない等の理由で、履修登録画面にあらかじめ「研究指導」が登録されていない場合は、「研究指導」を追加登録することはできません。
- ②「修士論文」は学籍上の最終セメスターであることを示すもので、授業科目として登録されているものではありません(単位は0となります)。修士論文を提出しない場合も削除できません。

学部専門科目の履修

指導教員が必要と認めた場合は各学部の専門科目を一定数履修できます(次ページ6の必要単位表参照)。共通教養科目、外国語科目は履修できません。

- ①学部専門科目には履修に制限を設けている授業があり、それらを履修するためには、履修登録期間に先立って手続きが必要になります。履修希望者は学部用の「学修の手びき」をよく

資格取得について

読んで、手続きしてください。詳しくは教学支援室の窓口で確認してください。

※制限のある授業の手続きは、後期開講の授業を含め4月に行われます。

手続きの結果履修を認められた場合は、自動的に履修登録されます。後期開講の授業についても、春セメスターの履修登録期間から登録画面に表示されます。

②通年開講の学部専門科目は、秋セメスターからの履修登録はできません。

資格取得を希望する者は、履修登録期間前に教学支援室資格係に必ず相談してください（本ページ6「単位修得・成績について（2）取得できる資格」を参照）。事前に相談のない場合は取得できない可能性があります。

（4）履修登録期間に提出する書類

提出物

- ・履修登録内容確認書
- ・指導教員届（新入生のみ）
- ・修士論文本題目届（該当者のみ、本冊子11ページ参照）

提出先

教学支援室

提出期限

履修登録期間最終日16：30締切

6 単位修得・成績について

（1）修了要件

- 2年課程生：4セメスター以上の在学
3年課程生：6セメスター以上の在学
4年課程生：8セメスター以上の在学

本冊子72ページの和光大学大学院履修規程もあわせて読んでください。

修了要件

①4セメスター以上の在学

ただし、3年課程生は6セメスター以上、4年課程生は8セメスターの在学が必要です。

2年課程生、3年課程生あるいは4年課程生として決定した後の変更は認められません。

②必要単位の修得（下表参照）

		小計	合計
必修	研究指導（修了予定セメスターで登録）	6 単位	30単位
選択必修科目 および 自由選択科目	下記の単位を含めなければなりません。 ・所属するコースの選択必修科目10単位以上	24単位	
	下記の単位を含めることができます。 ・所属するコース以外の選択必修科目 ・学部専門科目（指導教員が必要と認めた場合のみ。8 単位上限。）		

※大学院の授業科目はすべて、1度単位を修得した科目を再度履修することができます。

③修士論文の合格

修士論文の諸手続きについては本冊子11ページ「7 修士論文の手続きと審査」を読んでください。

（2）取得できる資格

教育職員専修免許状
（社会、地理歴史、公民）

本大学院研究科社会文化論専攻で取得できる資格は次のとおりです。

- 中学校教諭専修免許状（社会）
- 高等学校教諭専修免許状（地理歴史、公民）

受講手続

専修免許状を希望する者は、教学支援室資格係に相談の上、春セメスター入学者は4月6日（火）～4月13日（火）に、秋セメスター入学者は9月13日（月）～9月15日（水）に、必ず教学支援室で受講の手続きをしてください。※ただし、それぞれの教科の一種免許状取得者に限ります。

（注意）大学院生として、教職課程の中学校一種免許状、高等学校一種免許状、ならびに諸資格課程の受講はできません。ただし、これらに必要な単位を取り残して大学院に進ん

授業一覧表

免許状「大学一括申請」について

(3) 国家資格・資格
認定機構が運営
する資格

詳細については心理学教員に問い合わせてください。

(4) 公認心理師取得
プログラム

1. 受講申請の時期

だ者は、同時に学部の「科目等履修生」として登録することで、免許等の取得が可能となります。しかし、この場合科目等履修生として一年間に履修できる科目の上限は3科目(半期科目は0.5科目として扱います)ですので注意してください。

本冊子61ページの「教職課程授業一覧表」を参照してください。

教職課程の所定の単位を修得した授与資格者は、授与権者である都道府県教育委員会へ授与手続きをすることにより免許状が交付されます。

本学の場合は、東京都教育委員会から一括して授与されるので、授与希望者は「教員免許状大学一括申請」説明会(10月～11月に開催予定)に参加し、「教育職員免許状授与申請書(大学一括申請用)」の確認・署名・捺印・手数料納付(1教科3,300円※金額は2020年度現行)等の手続きをとってください。なお、手続き対象者は、一括申請要領により、秋セメスター修了者に限ります。

なお、この説明会に参加しなかった者は、大学一括申請の対象外となり、個人で申請をすることになります。また、下記の場合も個人申請となります。

- ①春セメスター教職課程判定での合格者
- ②他大学で修得した単位を使って免許状を申請する場合

●公認心理師

保健医療、福祉、教育など様々な領域で活躍することが期待される心理援助に関する国家資格です。法律で定められた10科目(実習含む)を履修することにより、国家試験の受験資格が得られます。

なお、公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、学部で所定の科目を履修している必要があります。

公認心理師の取得については、(4) 公認心理師取得プログラムを参照してください。

●学校心理士

一般社団法人学校心理士認定運営機構が発行する資格です。機構が求める8領域に対応した科目および2つの基礎実習を履修し、1年以上の実務経験を積むことにより受験資格を取得できます。修了後、資格試験に合格することで学校心理士になることができます。

なお、実務経験は「心理実践実習 A・B」で代替できます。

●臨床発達心理士

一般財団法人臨床発達心理士認定運営機構が発行する資格です。本学で資格取得に必要な開講科目を履修することおよび200時間の臨床実習を行うことで、申請資格を取得できます。申請後に機構が行う資格審査に合格すると、臨床発達心理士になることができます(万一、単位が不足する場合には、機構が実施する「指定科目講習会」によって補うことができます)。

公認心理師取得プログラムは、公認心理師の受験資格取得のために「大学院における必要な科目」の単位等を修得するためのプログラムです。

社会文化総合研究科心理学専攻に在籍し、希望する大学院生の中から、本プログラムの受講者を選抜します。

本プログラムの受講を許可されたものは、以下の科目を履修することができます。

- 心理実践実習 A
- 心理実践実習 B

受講を許可された学生は以下の受講申請手続きを行ってください。

- 春学期入学生 3セメスター目の4月
- 秋学期入学生 2セメスター目の4月

2. 手続き方法

下記期間のみ受け付けを行い、申請が完了していない場合はプログラムの受講許可が取り消されます。

受付期間 2021年4月9日（金）～15日（木）※土日を除く

受付時間 9：30～13：00、14：00～16：00

持ち物 ①必要事項を記入した受講申請書

②公認心理師取得プログラム実習費（50,000円）

③学生証

受付場所 教学支援室

※一度納入した実習費は一切返還しません。

(5) 成績の発表

各セメスターの終了時に和光ポータルで成績を公開します。公開日時は掲示等でお知らせします。

成績評価

評価	単位認定評価基準	備 考
秀	100～90点	
優	89～80点	
良	79～70点	
可	69～60点	
合	100～60点	
×	59点以下	成績証明書には表記されません
	未評価	成績証明書には表記されません

(6) 修了見込証明書について

次の条件を満たした学生の申請により発行します。

在学期間が2セメスター以上で、修了要件上の16単位以上を修得していること。

なお、科目等履修生としての資格課程科目はこの16単位には含まれません。

3年課程生、4年課程生は、修了予定の1セメスター前から発行します。

発行開始日については掲示板でお知らせします。

7 修士論文の手続きと審査

(1) 修士論文の提出時期

最終セメスターの1月または7月に提出します（第4セメスター。ただし、3年課程生は第6セメスター、4年課程生は第8セメスター）。詳しい日程は学年暦（本冊子4～5ページ）を参照してください（提出期限を厳守すること）。

(2) 修士論文仮題目届

修士論文提出予定セメスターの2セメスター前に指導教員の印またはサインをもらい、教学支援室に提出してください。ただし、サブタイトルの記入は必須ではありません。詳しい日程は学年暦（本冊子4～5ページ）を参照してください（提出期限を厳守すること）。

(3) 修士論文本題目届

修士論文提出予定セメスターの1セメスター前の履修登録期間に提出します。指導教員の印またはサインをもらい、教学支援室に提出してください。ただし、サブタイトルの記入は必須ではありません。詳しい日程は学年暦（本冊子4～5ページ）を参照してください（提出期限を厳守すること）。

(4) 題目変更届

本題目届提出以降、題目を変更する場合には、指導教員の承認を得て題目変更届を教学支援室に必ず提出してください。ただし、サブタイトルの記入は必須ではありません。なお、題目変更は、論文提出期日の1か月前までとします。変更届の用紙は教学支援室にあります。題目変更については本冊子60ページ1－（9）もよく読んでください。

(5) 修士論文中間発表会

中間発表会申し込み

修士論文提出予定者は、提出予定セメスターの1つ前のセメスターに行われる中間発表会で、執筆中の修士論文の内容についての報告を行わなければなりません。発表会の日程は、学年暦を参照してください。

なお、中間発表会には、すべての大学院生が参加してください。

発表予定者は修士論文中間発表会発表申請用紙に指導教員の印またはサインをもらい、期日までに教学支援室に申し込んでください。

2022年度春セメスター（2022年7月）に修士論文を提出する者：2021年7月20日（火）締切

2022年度秋セメスター（2023年1月）に修士論文を提出する者：2022年3月31日（木）締切

(6) 修士論文および要旨の提出

論文・要旨作成要領

本年度の提出締切日は以下の通りで締切時刻はいずれも16:30です。

春セメスター：2021年7月9日（金）16:30締切

秋セメスター：2022年1月7日（金）16:30締切

提出先は教学支援室です。

修士論文は4部作成します。また、論文の要旨を作成し、4部すべてに綴じこんでください。

論文および要旨の作成にあたっては、本冊子60ページを参考にしてください。

正しく要領に従っていない場合は受理できません。

(7) 修士論文提出までの流れ

春セメスター入学生

仮題目届提出

本題目届提出

中間発表会

題目変更期限

修士論文提出

秋セメスター入学生

仮題目届提出

本題目届提出

中間発表会

題目変更期限

修士論文提出

修士論文提出の2セメスター前の1月

修士論文提出の1セメスター前の4月履修登録期間

修士論文提出の1セメスター前の5月第2土曜日（申し込みは3月）

最終セメスターの12月

最終セメスターの1月

修士論文提出の2セメスター前の7月

修士論文提出の1セメスター前の9月履修登録期間

修士論文提出の1セメスター前の10月第2土曜日（申し込みは7月）

最終セメスターの6月

最終セメスターの7月

(8) 修士論文審査

修士論文の審査基準

主査および副査2名が、査読と口頭試問を行い、合議の上、主査が最終評定を行います。

深い学識と専門的な能力を培い、変化する社会に対応し、十分に貢献する専門的能力を有すること。

(9) 修士論文発表会

修士論文審査終了後に行います。日程については掲示板に貼り出しますのでよく注意の上、大学院生は全員出席してください。なお、2021年度は、春セメスターは2021年9月11日（土）、秋セメスターは2022年3月中旬を予定しています。

(10) 修士論文の保管と利用提供

審査に合格した修士論文は、図書・情報館にて保管し、閲覧・複写等の利用に供します。利用提供についてはあらかじめ執筆者本人の許諾を得た上で実施します。論文提出時に教学支援室で利用の許否についての書類を必ず記入してください（本冊子60ページ参照）。

8 修士論文の審査のみ残している学生への学費の特別措置

修了に必要な単位（研究指導6単位を含む）と在学期間を満たし、修士論文の審査のみを残して、在学を継続する場合は、「修士論文」のみを履修登録することにより、学費の特別措置を受けることができます。本冊子71ページ別表（3）の4の備考欄を参照し、詳しくは、教学支援室にお問合せください。なお、修士論文以外の授業科目（研究指導を含む）を登録した場合は、学費の特別措置を受けることができません。「修士論文」の履修登録については本冊子8ページ5の（3）を参照してください。

9 修了について

(1) 修了判定

最終セメスター修了の段階で、本冊子9ページ6-(1)の修了要件を充たし、かつ学費の納入を済ませている者について、研究科委員会での修了判定を経た上で、修了を認めます。

修了判定の結果は、春セメスターは9月初旬、秋セメスターは2月下旬に和光ポータルおよび大学院掲示板で発表します。必ず、学生本人が直接、確認してください。

(2) 学位の授与

修了と同時に、次の学位が授与されます。

修士（学術）

10 授業について

(1) 授業について

授業時間

和光大学大学院の授業は、以下の時間帯に行われます。

1 限	9 : 00~10 : 30
2 限	10 : 40~12 : 10
3 限	13 : 00~14 : 30
4 限	14 : 40~16 : 10
5 限	16 : 20~17 : 50
6 限	18 : 00~19 : 30
7 限	19 : 40~21 : 10

時間割外オンライン

曜日時限を割り当てず、オンラインで授業が行われるものです。

※原則、月曜日1限までに資料、課題が配信され、同一週の土曜日6限までに課題提出する授業です。

(2) 休講

①個別授業の休講

次の場合、個別授業の休講措置がとられます。

- 1) 担当教員が病気、学会出張などのため、当該時限に出講できないとき。
- 2) 担当教員が、急な事情により、授業開始時刻に教室に到着できず、30分を過ぎてもなお授業開始の見通しが立たないとき。
- 3) 担当教員が長期にわたり出講不可能となったとき。

②全学休講要件

地震・台風・雪などにより全学休講となる場合は、午前中の授業（1・2限）については午前7時をめぐり、午後の授業（3限以降）については午前10時30分をめぐり、和光ポータルおよび本学ホームページにてお知らせします。全学休講が疑われる場合は、その都度和光ポータルおよび本学ホームページを確認してください。

また、次の場合には全ての授業が休講（全学休講）となります。

- 1) 入学試験、創立記念日、大学祭など全学的な行事により、大学が全学休講と定める日。
- 2) 地震・台風・雪・ストライキなどにより、J R山手線、J R中央線、J R南武線、J R横浜線、小田急線のいずれかが全面運休した場合は次の休講措置を講ずる。
 - ・ 1時限目および2時限目の授業を休講とする場合：午前6時30分の運行状況で判断し、午前7時をめぐりホームページおよび和光ポータルに配信する。
 - ・ 3時限目以降の授業を休講とする場合：午前10時の運行状況で判断し、午前10時30分をめぐりホームページおよび和光ポータルに配信する。
- ※事故等による一部分の運休の場合は、授業を行います。
- 3) 大学において、全学的に授業を行うことが著しく困難となる事態が発生、または発生すると予測される場合。

注意：入学試験日は通例、学生の構内立ち入りが禁止されます。特別な事情のある大学院学生は、事前に指導教員と相談してください。

③休講の情報

授業が休講の場合、B棟の休講掲示板に貼り出します。通常の大学院掲示板とは異なりますので注意してください。また、和光ポータルからも休講情報を参照できますが、あくまでも補助的なものです。休講情報は必ず休講掲示板で確認してください。

11 離学研修制度について

離学研修制度は、長期フィールドワーク研究など、大学院生の学外での研究活動を支援するために和光大学大学院が設けている、ユニークな制度です。

- ① 離学研修をする大学院生は、あらかじめ指導教員とよく相談のうえ、研究テーマ・研究計画に加えて長期間大学を離れざるを得ない理由・事情が明確に盛り込まれた「離学研修計画書」を教学支援室に提出し、大学院研究科委員会の承認を受ける必要があります。計画書は離学研修 Semester 開始の3か月前までに提出してください。
- ② 離学研修中の授業料は、離学登録料が1 Semesterにつき3万円で、施設設備資金は不要です。
- ③ 離学研修期間は1年（2 Semester）以内とします。特に延長が必要な場合は、指導教員と相談のうえ、新しい離学研修計画書に延長が必要な理由を添えて教学支援室に提出し、再度研究科委員会の承認を受けてください。ただし、離学研修期間が合計2年を超えることはできません。

離学研修期間は修了に必要な在学年数に含まれません。

12 休学・復学・退学・除籍・再入学

（1）休学について

病気・その他事情があつて、3か月以上続けて就学の見込みがない場合、以下の手続きによって、休学を願い出ることができます。

休学期間は、1 Semesterの開始から終了までとし、2 Semester分の休学まで願い出ることができます。再度願い出を行えば通算4 Semesterまで休学が可能です。

なお、休学した場合は、休学期間分、修了が延期されます。

① 手続の流れ

- 1) 「休学願」用紙を教学支援室で受け取ってください。
- 2) 必要事項をもれなく記入し、本人・保証人連署の上、指導教員と相談し、署名・捺印を受けた後、教学支援室に提出してください。
- 3) 提出された「願」は、研究科委員会の議を経て、学長が許可します。
- 4) 許可されると「休学許可通知」が自宅に届きます。

② 提出期限

「休学願」は、原則として、休学しようとする Semester 開始の1か月前までに教学支援室に提出してください。

（例）春 Semester から休学希望の場合→3月1日までに提出してください。

秋 Semester から休学希望の場合→9月1日までに提出してください。

（締め切り日が日曜日等で窓口閉室日の場合はその前日が締め切り日となります）

③ 休学が許可されたら

- 1) 休学した Semester 分だけ、修了は延期されます。
- 2) 休学期間の授業料及び施設設備資金は半額です（詳しくは、事業室経財係にお問い合わせください）。
- 3) 休学期間中の履修登録は無効になります。

（2）復学・休学延長について

休学期間の終了をもって自動的に復学となります。

休学延長を希望する場合は、改めて期限までに「休学願」を提出してください。

「復学許可通知」は復学日を過ぎてから自宅に届きます。「復学許可通知」が届く前であっても、復学する Semester の最初の授業から出席してください。

(3) 退学について

病気・その他事情により退学したいときは、「退学願」を以下の手続きに従い、教学支援室に提出してください。

① 手続の流れ

- 1) 「退学願」用紙を教学支援室で受け取ってください。
- 2) 必要事項をもれなく記入し、本人・保証人連署の上、指導教員と相談し、署名・捺印を受けた後、教学支援室に提出してください。
- 3) 提出された「願」は、研究科委員会の議を経て、学長が許可します。
- 4) 許可されると「退学許可通知」が自宅に届きます。

② 提出期限

「退学願」は下記の提出期限内に、教学支援室に提出してください。
 秋semester終了後(3月31日付)退学を希望する場合→4月20日までに提出してください。
 春semester終了後(9月30日付)退学を希望する場合→10月31日までに提出してください。
 (締め切り日が日曜日等で窓口閉室日の場合はその前日が締め切り日となります)
 ※授業料未納の状態で退学を希望されている場合、この期限を過ぎると、次の「(4) 除籍について」に基づき、除籍対象として扱われることになるので十分に注意してください。

(4) 除籍について

「許可なく授業料を滞納し、催告してもこれに応じない者(大学院学則第23条)」は除籍されます。この場合、学籍は学費が納入済みのsemester末で失われることになります。
 家計の事情その他やむを得ない理由から、学費を期限までに納入できないときは、学費の延納を願い出ることが出来ます。詳細は学生支援室に問い合わせてください。
 ※「除籍」になると、離籍後に発行できる証明書が「退学証明書」ではなく「除籍証明書」になります。

(5) 再入学について

本大学院を退学または除籍になった者が復籍を希望する場合、再入学を認めることがあります。

① 手続の流れ

- 1) 本大学院を退学した者、除籍になった者が再入学を希望するときは、「再入学願」用紙を教学支援室で受け取ってください。
- 2) 必要事項をもれなく記入し、本人・保証人連署・捺印の上、在籍当時の指導教員と面接の上、再入学したい理由等を説明し、署名・捺印を受け、成績証明書を添えて、教学支援室に提出してください。
- 3) 提出された「願」は、研究科委員会の審査を経て、学長が許可します。
- 4) 許可されると「再入学承認通知」が自宅に届きます。

② 提出期限

「再入学願」は、春semester再入学希望者は2月中旬まで、秋semester再入学希望者は7月初旬までに教学支援室に提出してください。
 各semesterの提出締め切り日については、「再入学出願手続要項」を参照してください(春semester再入学の「要項」は1月初旬、秋semester再入学の「要項」は5月初旬に発表されます)。

③ 単位認定

再入学すると、旧学籍在籍時に修得した単位は認定されますので、各semesterの入学登録・オリエンテーション時に成績証明書を持って、教学支援室をたずねてください。

④ 再入学後の学籍

既に在籍した期間を差引いた在籍可能期間を持つ年次・semesterに再入学します。また、旧学籍在籍時と同じ課程での再入学となります。
 修了するためには、各課程の修了要件から、既在学期間を差引いた期間の在学が必要となります。必要単位も再入学する年次・semesterの要件が適用されます。

⑤ 学費について

再入学する場合の学費は、再入学する年次・semesterの学生と同額になります。ただし、入学金等については半額となります(詳しくは事業室経財係にお問い合わせください)。

※休学・復学・退学・除籍・再入学については本冊子76～78ページの各規程を参照してください。

13 証明書について

(1) 取扱証明書一覧

		所属	証明書の種類	交付期日	手数料				
証明書自動発行機（A棟1階）	証明書発行申請書は不要です	学部生	在学証明書	その場ですぐに交付されます	200円	現金を証明書自動発行機に投入			
			成績証明書 ※注1		200円				
			卒業見込証明書 ※注2		200円				
			卒業見込・成績証明書 ※注1.2		200円				
			健康診断証明書 ※注3		200円				
			学生旅客運賃割引証（学割証）		無料				
			学業成績原簿（単位修得簿）		200円				
		大学院生	在学証明書		200円				
			成績証明書 ※注1		200円				
			修了見込証明書 ※注2		200円				
健康診断証明書 ※注3	200円								
	学生旅客運賃割引証（学割証）	無料							
研究生	健康診断証明書 ※注3	200円							
科目等履修生	健康診断証明書 ※注3	200円							
特別聴講学生	健康診断証明書 ※注3	200円							
郵便での申請は出来ません	在学中	学部生	学位授与見込証明書 ※注4	翌日	200円	和光大学証紙（A棟1階券売機にて販売）			
			履修登録証明書	2週間程度	300円				
			在学証明書（英文）	2週間程度	300円				
			成績証明書（英文）	2週間程度	300円				
			G P A証明書 ※注7	2週間程度	200円				
			G P A証明書（英文） ※注7	2週間程度	300円				
			卒業見込証明書（英文）	2週間程度	300円				
			学生証（再発行）	3日後	1,000円				
		大学院生	学位授与見込証明書 ※注4	翌日	200円				
			在学証明書（英文）	2週間程度	300円				
			成績証明書（英文）	2週間程度	300円				
			修了見込証明書（英文）	2週間程度	300円				
			学生証（再発行）	3日後	1,000円				
		資格課程	教職免許取得見込証明書	2日後	300円				
			基礎資格及び単位修得証明書	1週間程度	300円				
			教員採用試験用人物証明書	1週間程度	300円				
			諸資格取得見込証明書	2日後	300円				
		保育士	指定保育士養成施設卒業見込証明書	2日後	300円				
			保育士養成課程修了見込証明書	2日後	300円				
		研究生	研究生証明書	翌日	200円				
			研究生証明書（英文）	2週間程度	300円				
			研究生証（再発行）	3日後	1,000円				
		科目等履修生	履修登録証明書（科目等履修生）	翌日	200円				
			科目等履修生証（再発行）	3日後	1,000円				
		その他	大学院受験調査書 ※注5	2日後	400円				
			本学様式以外の証明書	2週間程度	300円～				
		郵便での申請も可能です	離籍者（卒業・退学・除籍）	学部生 大学院生	卒業（修了）証明書 ※注9		当日	200円	和光大学証紙（A棟1階券売機にて販売） 郵送申請の場合は手数料分の切手
					卒業（修了）証明書（英文）		2週間程度	300円	
					成績証明書		当日	200円	
					成績証明書（英文）		2週間程度	300円	
					G P A証明書 ※注7		2週間程度	200円	
					G P A証明書（英文） ※注7		2週間程度	300円	
					学業成績原簿（単位修得簿） ※注8		当日	200円	
					学位授与証明書		翌日	200円	
					退学証明書 ※注9		翌日	200円	
					退学証明書（英文）		2週間程度	300円	
資格課程	除籍証明書 ※注9			翌日	200円				
	除籍証明書（英文）			2週間程度	300円				
	学力に関する証明書			1週間程度	300円				
	基礎資格及び単位修得証明書			1週間程度	300円				
保育士等	諸資格単位取得証明書 ※注6			1週間程度	300円				
	指定保育士養成施設卒業証明書			2日後	300円				
	保育士養成課程修了証明書			2日後	300円				
	幼稚園教諭免許所有者 保育士試験免除科目専修証明書			2日後	300円				
研究生	研究生証明書			翌日	200円				
	研究生証明書（英文）			2週間程度	300円				
科目等履修生	科目等履修生証明書			翌日	200円				
	成績証明書			当日	200円				
専攻科生	修了証明書			翌日	200円				
	成績証明書			翌日	200円				
聴講生	聴講生証明書			2日後	200円				
				2日後	400円				
	大学院受験調査書			2週間程度	300円～				
その他	本学様式以外の証明書			2週間程度	300円～				

- ※注1 成績公開日以降は最新の成績まで反映された証明書が発行されます。
- ※注2 卒業見込証明書、卒業見込・成績証明書、修了見込証明書の発行には条件があります。
 ※算定単位として教職諸資格課程専用科目（授業コード8000番台）は含まれません。
 ※休学期間は在学期間に含まれません。

《学部生》

①卒業見込判定条件

下記条件を満たした場合、卒業見込証明書を発行できます。

- ・在学期間3年間以上であること。
- ・既に修得した単位に加え、履修登録状態にある授業の単位を全て修得したと仮定した場合に、卒業要件を満たすこと。

②卒業見込判定時期

以下の時期に卒業見込判定を実施し、判定結果によって卒業見込証明書の発行可否が決まります。そのため、5月上旬の判定では卒業見込証明書が発行可能でも、9月上旬の判定で発行不可になるケースがあります。

- ・前期履修登録確定後（5月上旬）
- ・前期成績確定後（9月上旬）
- ・後期履修訂正確定後（9月下旬）
- ・後期・通年成績確定後（3月上旬）

詳細な日程は掲示にてお知らせします。

《大学院生》

①修了見込判定条件

春・秋セメスター入学者共、下記条件を満たした場合、修了見込証明書を発行できます。

- ・在学期間2セメスター以上
 ※3年課程生は4セメスター以上、4年課程生は6セメスター以上
- ・修了要件上16単位以上修得済

②修了見込判定時期

以下の時期に修了見込判定を実施し、判定結果によって修了見込証明書の発行可否が決まります。

- ・春セメスター開始時（4月）
- ・春セメスター成績確定後（9月上旬）
- ・秋セメスター開始時（10月）
- ・秋セメスター成績確定後（3月上旬）

詳細な日程は提示にてお知らせします。

- ※注3 年度始めに本学の健康診断を受診した学生のみ発行できます。問い合わせは医務室（G棟1階）まで。
- ※注4 学位授与見込証明書の発行基準は、卒業見込証明書・修了見込証明書の条件に準じます。
- ※注5 大学院受験調査書は、教員記入欄（推薦書・所見欄等）への記入が済んだ後に申請してください。
- ※注6 本学では相当する課程が無いため、「社会福祉主事任用資格」「児童福祉司任用資格」「社会福祉士」についての証明書発行はできず、資格の有無について確認することができません。必要に応じて「卒業証明書」および「成績証明書」を発行し、ご自身または提出先にて要件を確認していただくこととなります。
- ※注7 発行対象は2016年度以降入学の学部学生（再入学生は旧学籍が2016年度以降入学）です。
- ※注8 発行対象は2010年度以降入学の学部学生です。
- ※注9 離籍者（卒業・退学・除籍）の方には「在学証明書」は発行していません。在学の実事実または在籍期間の確認が必要な場合には「卒業（退学・除籍）証明書」にて在学した期間を証明することができます。

(2) 証明書発行 ・申請方法

① 証明書自動発行機

A棟1階エントランスの証明書自動発行機から発行ができます。

1. 発行可能日時

春・秋セメスター授業期間の月～金 9:00～18:00 土 9:00～16:30

祝祭日は授業を実施する日のみ稼働します。

夏期・冬期など授業期間以外、または入学試験等学内行事による稼働スケジュールは、別途案内します。

2. 交付

その場ですぐに交付されます。

3. 必要書類・手数料

学生証が必要です。手数料は現金を証明書自動発行機に投入してください。

② 教学支援室窓口での 発行申請

「証明書発行申請書」の記入・提出が必要です。申請書は教学支援室にあります。HPからのダウンロードも可能です。

1. 窓口受付日時

春・秋セメスター授業期間の月～土 9:15～13:00 14:00～16:30

祝祭日は授業を実施する日のみ受け付けます。

夏期・冬期など授業期間以外、また入学試験等学内行事による窓口スケジュールは、別途案内します。

2. 交付

証明書一覧の交付期日が「当日」となっている証明書は、数十分程度で交付されます。

それ以外の証明書については、当日の交付はできません。改めて窓口まで受け取りにいらしていただくか、必要額の切手を貼った返信用封筒をお持ちいただき、郵便にて送付することも可能です。

3. 必要書類・手数料

本人確認のため公的機関発行の本人確認書類（運転免許証・保険証・パスポート等）をお持ちください。

手数料として、和光大学証紙が必要です。A棟1階の券売機にて販売しています。

郵便にて返送をする場合は、切手を貼り返信先を記入した返信用封筒もご用意ください。

4. 代理人による申請

卒業生本人以外の方が代わりに証明書を申請することができます。このときは卒業生本人による署名・捺印のある委任状および代理の方の本人確認書類を必ずお持ちください。

③ 資格課程に関わる 証明書について

1. 発行対象者について

原則として、在学時に資格課程を受講申請し、履修している方のみ発行可能です。不明な点がある場合は、教学支援室窓口（資格担当）にお問い合わせください。

2. 「学力に関する証明書」の申請にあたって

発行申請書裏面（もしくはPDF2ページ目）の注意事項をよく確認してから、申請を行ってください。

④ 注意事項

1. 夏期・冬期休業期間、ゴールデンウィーク期間の証明書発行

発行できる証明書の種類や証明書自動発行機の利用時間が授業期間と異なります。掲示・HPを確認してください。

業務の都合により交付期日を過ぎることがありますので、余裕をもって申請してください。特に、お盆・年末年始期間などは、一覧表の期日より遅れることがありますのでご注意ください。

2. 証明書に記載される「氏名」について

在学生は「証明書申請時」、離籍者（修了・退学・除籍）は「離籍時」に大学に登録されている戸籍上の氏名にて発行されます。大学に登録している「通称名」や離籍後に変更した氏名での証明書発行はできませんので、予めご注意ください。ただし、やむを得ない事情により、これ以外の氏名による発行を希望する際は教学支援室までお問い合わせください。

14 科目等履修生制度について

本学大学院に開講されている授業科目は、当該科目担当教員の研究および授業に支障がない限りにおいて、大学院研究科委員会の選考・承認を経た上で、科目等履修生として聴講を認めています。

出願受付・選考は、各セメスターごとに行います。科目等履修生として履修できる科目は1セメスターで6科目までです。ただし、正規学生の受講者がいない場合、その科目は開講しません。

科目等履修生制度については、本冊子79ページの和光大学大学院科目等履修生規程もあわせてお読みください。

(1) 出願資格

- ① 本学の定める大学院入学資格を有する者（詳しくは教学支援室へお問い合わせください）。
- ② 外国人の場合は、前項とあわせて出願の際に日本に1年以上滞在可能もしくは更新可能なビザを有していること（大学院の科目等履修生として履修できる単位の上限12単位では、在留資格『留学』を更新できません）。

(2) 出願申請手続要項

教学支援室窓口で科目等履修生出願申請手続要項と出願書類を配付します。

春セメスター：3月下旬（日曜日除く）

秋セメスター：9月初旬（日曜日除く）

各手続期間には、窓口業務を行わない日もあります。必ず要項で窓口日程を確認してください。

(3) 履修料・保険料

履修料：1単位につき13,000円

学生教育研究災害傷害保険（学研災）保険料：800円

(4) その他

- ① 登校の際には、科目等履修生証を常時携帯してください。
- ② 科目等履修生は、科目等履修生証で図書・情報館の資料が利用できます。
- ③ 本学では、科目等履修生に対する危機管理の観点から、科目等履修生全員に「学生教育研究災害傷害保険（学研災）通学中等傷害危険担保特約有り」に加入していただいています。
この保険についての詳細は、授業開始後に配付する「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」をご覧ください。
- ④ 科目等履修生には大学実施の健康診断を全員受診していただきます（有料）。

15 授業一覧表

●心理学専攻

心理学コース

..... P 22

●社会文化論専攻

現代社会文化論コース

..... P 23

発達・教育臨床論コース

..... P 24

現代経済・ビジネスコース

..... P 26

2021年度 社会文化総合研究科 心理学専攻 心理学コース
授業一覧表

第1 セメスターから受講可能な科目

修了要件	科目群	授業コード	科目〔授業〕名	単位数	担当者	開講セメスター		曜日	時限	備考
						春	秋			
10単位	選択必修	心理支援の基礎								
		—	発達臨床心理学	2	—	—	—	—	【学】【発】2021年休講	
		M302	教育心理学	2	伊藤 武彦	○	—	水	6・7	隔週開講
		M303	青年心理学特論	2	高坂 康雅	—	○	木	3	
		M510	教授・学習心理学	2	馬場 正太郎	○	—	水	3	【学】
		M511	公認心理師特論	2	高坂 康雅	—	○	木	2	
		心理支援の展開								
		M521	保健医療分野に関する理論と支援の展開	2	大島 裕子	—	○	月	3	【公】
		M522	福祉分野に関する理論と支援の展開	2	菅野 恵	—	○	木	1	【公】
		M523	教育分野に関する理論と支援の展開	2	高坂 康雅	○	—	木	2	【公】【学】
		M524	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2	熊上 崇	—	○	木	3	【公】
		M525	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	坂井 敬子	○	—	木	3	【公】
		M526	言語発達論	2	小野里 美帆	○	—	集中講義		【発】隔年開講 2022年度休講予定
		M527	情動発達論	2	鈴木 ゆみ	○	—	時間割外 オンライン		【発】
		M528	教育心理学演習	2	伊藤 武彦	—	○	水	6・7	隔週開講
		M529	教育相談・キャリア教育論	2	山田 智之	○	—	集中講義		【学】
		心理支援の実践								
		M541	心理的アセスメントに関する理論と実践	2	松坂 利之	○	—	土	1	【公】【学】
		M542	心理支援に関する理論と実践	2	末木 新	○	—	金	2	【公】【学】【発】
		M543	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2	一瀬 早百合	○	—	火	3	【公】
		—	心の健康教育に関する理論と実践	2	—	—	—	—	—	【公】隔年開講 2021年度休講
		—	発達臨床支援論	2	—	—	—	—	—	【学】【発】2021年度休講
		M546	学校カウンセリング	2	菅野 恵	○	—	木	1	【学】
		—	言語発達支援論	2	—	—	—	—	—	【発】隔年開講 2021年度 休講 2022年度開講予定
		M548	情動発達支援論	2	鈴木 ゆみ	—	○	時間割外 オンライン		【発】
		M549	特別支援教育論	2	金子 なおみ	○	—	土	3・4	【学】【発】隔週開講
		心理支援の実習								
		M561	発達・教育臨床実習Ⅰ	2	辻 あゆみ	○	—	月	1	【学】【発】
		M562	発達・教育臨床実習Ⅱ	2	辻 あゆみ	○	—	月	2	【学】【発】
		M563	心理実践実習 A	2	高坂・末木・菅野・ 一瀬・熊上	○	—	土	5	【公】公認心理師取得 プログラム受講者のみ
		M564	心理実践実習 B	2	高坂・末木・菅野・ 一瀬・熊上	—	○	土	5	【公】公認心理師取得 プログラム受講者のみ

【公】公認心理師受験資格に必要な科目、【学】学校心理士受験資格に必要な科目、【発】臨床発達心理士受験資格に必要な科目

修士論文提出予定セメスターの必修科目

修了要件	科目群	授業コード		科目 [授業] 名	単位数	担当者	開講セメスター		曜日	時限	備考
							春	秋			
6単位	必修	研究指導（いずれか一つ選択）									
		春セメスター登録	秋セメスター登録								
		M581	M591	心理学研究法	6	伊藤 武彦	○	○	—	—	
		M582	M592	心理学研究法	6	菅野 恵	○	○	—	—	
		M583	M593	心理学研究法	6	熊上 崇	○	○	—	—	
		M584	M594	心理学研究法	6	高坂 康雅	○	○	—	—	
		M585	M595	心理学研究法	6	坂井 敬子	○	○	—	—	
		M586	M596	心理学研究法	6	末木 新	○	○	—	—	
		—	—	心理学研究法	6	—	—	—	—	—	2021年度休講

2021年度 社会文化総合研究科 社会文化論専攻 現代社会文化論コース
授業一覧表

第1 セメスターから受講可能な科目

修了 要件	科目 群	授業 コード	科目 [授業] 名	単位数	担当者	開講セメスター		曜日	時限	備考
						春	秋			
10 単位	選択必修	弱者・マイノリティー論								
		M201	福祉社会論	2	挽地 康彦	○	—	月	2	
		M202	福祉社会論演習	2	挽地 康彦	—	○	月	2	
		M203	国際人権論	2	藤本 俊明	—	○	金	3	
		—	民族関係論	2	—	—	—	—	—	2021年度休講
		—	民族関係論演習	2	—	—	—	—	—	2021年度休講
		M206	格差社会論	2	—	—	○	月	4	
		M207	ジェンダー関係論	2	杉浦 郁子	○	—	木	2	
		M208	ジェンダー関係論演習	2	杉浦 郁子	—	○	木	2	
		環境論								
		M223	都市景観論	2	上野 隆生	○	—	水	3	
		M224	都市景観論演習	2	上野 隆生	—	○	水	3	
		M225	エコツーリズム論	2	小林 正典	—	○	木	6	
		M226	環境運動論 1	2	岩本 陽児	—	○	水	6	
		M227	環境運動論 2	2	角田 季美枝	○	—	木	4	
		M228	生態文化論	2	堂前 雅史	○	—	火	6	
		M229	生態文化論演習	2	堂前 雅史	—	○	火	6	
		ユーラシア研究								
		M231	中国の社会と文化	2	小林 正典	○	—	木	6	
		—	南アジアの宗教と文化	2	—	—	—	—	—	2021年度休講
		—	南アジアの宗教と文化演習	2	—	—	—	—	—	2021年度休講
		M234	中央ユーラシア遊牧社会の歴史と文化	2	坂井 弘紀	○	—	金	3	
		M235	東西文化交渉史	2	松枝 到	○	—	木	5	
		M236	東西文化交渉史演習	2	松枝 到	—	○	木	5	
		M237	印欧語族の神話の世界	2	松村 一男	○	—	木	4	
		M238	印欧語族の神話の世界演習	2	松村 一男	—	○	木	4	

修士論文提出予定セメスターの必修科目

修了 要件	科目 群	授業コード		科目〔授業〕名	単位数	担当者		開講セメスター		曜日	時限	備考
		春	秋									
6 単位	必修	研究指導（いずれか一つ選択）										
		春セメ スター登録	秋セメ スター登録									
		M251	M281	現代社会文化論研究法	6	上野 隆生	○	○	—	—		
		M252	M282	現代社会文化論研究法	6	小林 正典	○	○	—	—		
		M253	M283	現代社会文化論研究法	6	堂前 雅史	○	○	—	—		
		M254	M284	現代社会文化論研究法	6	松枝 到	○	○	—	—		
		M255	M285	現代社会文化論研究法	6	松村 一男	○	○	—	—		
		M256	M286	現代社会文化論研究法	6	坂井 弘紀	○	○	—	—		
		M257	M287	現代社会文化論研究法	6	挽地 康彦	○	○	—	—		
		M258	M288	現代社会文化論研究法	6	杉浦 郁子	○	○	—	—		

授業一覽表(2020年度以降入学生用)

第1セメスターから受講可能な科目

修了 要件	科目 群	授業 コード	科目〔授業〕名	単位数	担当者	開講セメスター		曜日	時限	備考
						春	秋			
10 単位	選択必修	発達・教育臨床の基礎								
		—	発達臨床心理学	2	—	—	—	—	—	【学】【発】2021年度休講
		M302	教育心理学	2	伊藤 武彦	○	—	水	6・7	隔週開講
		M303	青年心理学特論	2	高坂 康雅	—	○	木	3	
		M311	教育経営論	2	山本 由美	—	○	火	3	
		M312	教育実践史	2	大西 公恵	○	—	月	4	
		M313	生涯学習論	2	岩本 陽児	○	—	木	4	
		—	療育福祉特論	2	—	—	—	—	—	2021年度休講
		M315	教育思想史特論	2	辻 直人	○	—	水	2	
		発達・教育臨床の展開								
		—	学校心理学特論	2	—	—	—	—	—	2021年度休講
		M322	教育実践史演習	2	大西 公恵	—	○	月	4	
		M323	教育思想史演習	2	辻 直人	—	○	月	2	
		発達・教育臨床の実践								
		M331	生涯学習実践論	2	岩本 陽児	—	○	木	4	

【学】 学校心理士受験資格に必要な科目、【発】 臨床発達心理士受験資格に必要な科目

修士論文提出予定セメスターの必修科目

修了 要件	科目 群	授業コード	科目〔授業〕名	単位数	担当者	開講セメスター		曜日	時限	備考	
						春	秋				
6 単位	必修	研究指導（いずれか一つ選択）									
		春セメ スター登録	秋セメ スター登録								
		M361	M381	発達教育臨床研究法	6	岩本 陽児	○	○	—	—	
		M362	M382	発達教育臨床研究法	6	一瀬 早百合	○	○	—	—	
		M363	M383	発達教育臨床研究法	6	大西 公恵	○	○	—	—	
		M364	M384	発達教育臨床研究法	6	辻 直人	○	○	—	—	
		M365	M385	発達教育臨床研究法	6	山本 由美	○	○	—	—	

2021年度 社会文化総合研究科 発達・教育臨床論コース
授業一覧表(2019年度以前入学生用)

第1 セメスターから受講可能な科目

修了 要件	科目 群	授業 コード	科目〔授業〕名	単位数	担当者	開講セメスター 春 秋	曜日	時限	備考
10 単位	選択必修	発達・教育臨床の基礎							
		—	発達臨床心理学	2	—	—	—	—	【学】【発】2021年度休講
		M542	心理支援に関する理論と実践	2	末木 新	○	—	金 2	【公】【学】【発】
		M302	教育心理学	2	伊藤 武彦	○	—	水 6・7	隔週開講
		M303	青年心理学特論	2	高坂 康雅	—	○	木 3	
		M311	教育経営論	2	山本 由美	—	○	火 3	
		M312	教育実践史	2	大西 公恵	○	—	月 4	
		M313	生涯学習論	2	岩本 陽児	○	—	木 4	
		—	幼児教育学特論	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M521	保健医療分野に関する理論と支援の展開	2	大島 裕子	—	○	月 3	【公】
		—	教育社会学	2	—	—	—	—	2021年度休講
		—	療育福祉特論	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M524	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2	熊上 崇	—	○	木 3	【公】
		M315	教育思想史特論	2	辻 直人	○	—	水 2	
		発達・教育臨床の展開							
		—	教育課程論	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M526	言語発達論	2	小野里 美帆	○	—	集中講義	【発】隔年開講 2022年度休講予定
		M527	情動発達論	2	鈴木 ゆみ	○	—	時間割外 オンライン	【発】
		M510	教授・学習心理学	2	馬場 正太郎	○	—	水 3	【学】
		—	学校心理学特論	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M523	教育分野に関する理論と支援の展開	2	高坂 康雅	○	—	木 2	【公】【学】
		M528	教育心理学演習	2	伊藤 武彦	—	○	水 6・7	隔週開講
		M322	教育実践史演習	2	大西 公恵	—	○	月 4	
		—	教育社会学演習	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M529	教育相談・キャリア教育論	2	山田 智之	○	—	集中講義	【学】
		M522	福祉分野に関する理論と支援の展開	2	菅野 恵	—	○	木 1	【公】
		M525	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	坂井 敬子	○	—	木 3	【公】
		M323	教育思想史演習	2	辻 直人	—	○	月 2	
		発達・教育臨床の実践							
		—	発達臨床支援論	2	—	—	—	—	【学】【発】2021年度休講
		—	臨床心理学実習	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M331	生涯学習実践論	2	岩本 陽児	—	○	木 4	
		—	学習援助論	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M541	心理的アセスメントに関する理論と実践	2	松坂 利之	○	—	土 1	【公】【学】
		M546	学校カウンセリング	2	菅野 恵	○	—	木 1	【学】
		—	言語発達支援論	2	—	—	—	—	【発】隔年開講 2021年度 休講 2022年度開講予定
		M548	情動発達支援論	2	鈴木 ゆみ	—	○	時間割外 オンライン	【発】
		M549	特別支援教育論	2	金子 なおみ	○	—	土 3・4	【学】【発】隔週開講
		発達・教育臨床実習							
		M561	発達・教育臨床実習Ⅰ	2	辻 あゆみ	○	—	月 1	【学】【発】
		M562	発達・教育臨床実習Ⅱ	2	辻 あゆみ	○	—	月 2	【学】【発】
		—	心理支援実習Ⅰ	2	—	—	—	—	2021年度休講
		—	心理支援実習Ⅱ	2	—	—	—	—	2021年度休講

【公】公認心理師受験資格に必要な科目、【学】学校心理士受験資格に必要な科目、【発】臨床発達心理士受験資格に必要な科目

修士論文提出予定セメスターの必修科目

修了要件	科目群	授業コード		科目〔授業〕名	単位数	担当者	開講セメスター		曜日	時限	備考
		春	秋								
6単位 必修		研究指導（いずれか一つ選択）									
	春セメスター登録	秋セメスター登録									
	M366	M386	発達教育臨床研究法	6	伊藤 武彦	○	○	—	—		
	M361	M381	発達教育臨床研究法	6	岩本 陽児	○	○	—	—		
	M362	M382	発達教育臨床研究法	6	一瀬 早百合	○	○	—	—		
	—	—	発達教育臨床研究法	6	—	—	—	—	—	2021年度休講	
	M363	M383	発達教育臨床研究法	6	大西 公恵	○	○	—	—		
	M368	M388	発達教育臨床研究法	6	高坂 康雅	○	○	—	—		
	M365	M385	発達教育臨床研究法	6	山本 由美	○	○	—	—		
	M369	M389	発達教育臨床研究法	6	坂井 敬子	○	○	—	—		
	M370	M390	発達教育臨床研究法	6	末木 新	○	○	—	—		
	M371	M391	発達教育臨床研究法	6	菅野 恵	○	○	—	—		
	M372	M392	発達教育臨床研究法	6	熊上 崇	○	○	—	—		
	M364	M384	発達教育臨床研究法	6	辻 直人	○	○	—	—		

2021年度 社会文化総合研究科 社会文化論専攻 現代経済・ビジネスコース
授業一覧表

第1 セメスターから受講可能な科目

修了 要件	科目 群	授業 コード	科目 [授業] 名	単位数	担当者	開講セメスター 春 秋	曜日	時限	備考
10 単位	選択必修	現代経済カリキュラム							
		—	社会政策特論	2	—	—	—	—	2021年度休講
		—	社会政策演習	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M403	財政学特論	2	半谷 俊彦	○	—	月 2	
		M404	財政学演習	2	半谷 俊彦	—	○	月 2	
		M405	国際経済特論	2	加藤 巖	○	—	金 2	
		M406	国際経済演習	2	加藤 巖	—	○	金 2	
		—	経済学史特論	2	—	—	—	—	2021年度休講
		—	経済学史演習	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M409	環境経済学特論	2	清水 雅貴	○	—	火 4	
		M410	環境経済学演習	2	清水 雅貴	—	○	火 4	
		M411	比較法制度特論	2	徳永 貴志	○	—	水 7	2021年度新規科目
		M412	比較法制度演習	2	徳永 貴志	—	○	水 7	2021年度新規科目
		現代ビジネス研究カリキュラム							
		M431	経営管理特論	2	福田 好裕	○	—	金 3	
		M432	経営管理演習	2	福田 好裕	—	○	金 3	
		M433	マーケティング特論	2	丸山 一彦	○	—	水 3	
		M434	マーケティング演習	2	丸山 一彦	—	○	水 3	
		—	情報・技術マネジメント特論	2	—	—	—	—	2021年度休講
		—	情報・技術マネジメント演習	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M439	アジアビジネス特論	2	鈴木 岩行	○	—	水 3	
		M440	アジアビジネス演習	2	鈴木 岩行	—	○	水 3	
		M441	経営情報システム特論	2	小林 稔	○	—	木 6	
		M442	経営情報システム演習	2	小林 稔	—	○	木 6	
		M445	国際協力実践特論	2	バンバン ルディアント	○	—	金 1	
		M446	国際協力実践演習	2	バンバン ルディアント	—	○	金 1	
		—	簿記会計特論	2	—	—	—	—	2021年度休講
		—	簿記会計演習	2	—	—	—	—	2021年度休講
		M449	経営学特論	2	當間 政義	○	—	金 3	
		M450	経営学演習	2	當間 政義	—	○	金 3	

修士論文提出予定セメスターの必修科目

修了 要件	科目 群	授業コード	科目 [授業] 名	単位数	担当者	開講セメスター 春 秋	曜日	時限	備考
6 単位	必修	研究指導 (いずれか一つ選択)							
		春セメ スター登録	秋セメ スター登録						
		—	—	現代経済・ビジネス研究法	6	—	—	—	2021年度休講
		—	—	現代経済・ビジネス研究法	6	—	—	—	2021年度休講
		—	—	現代経済・ビジネス研究法	6	—	—	—	2021年度休講
		M464	M484	現代経済・ビジネス研究法	6	加藤 巖	○	○	—
		M465	M485	現代経済・ビジネス研究法	6	小林 稔	○	○	—
		M466	M486	現代経済・ビジネス研究法	6	清水 雅貴	○	○	—
		M467	M487	現代経済・ビジネス研究法	6	鈴木 岩行	○	○	—
		M468	M488	現代経済・ビジネス研究法	6	當間 政義	○	○	—
		M469	M489	現代経済・ビジネス研究法	6	徳永 貴志	○	○	—
		M470	M490	現代経済・ビジネス研究法	6	バンバン ルディアント	○	○	—
		M471	M491	現代経済・ビジネス研究法	6	半谷 俊彦	○	○	—
		—	—	現代経済・ビジネス研究法	6	—	—	—	2021年度休講
		M473	M493	現代経済・ビジネス研究法	6	福田 好裕	○	○	—
		M474	M494	現代経済・ビジネス研究法	6	丸山 一彦	○	○	—

16 講義要目

●心理学専攻

心理学コース	 P 28
--------	------------

●社会文化論専攻

現代社会文化論コース	 P 37
------------	------------

発達・教育臨床論コース	 P 45
-------------	------------

現代経済・ビジネスコース	 P 49
--------------	------------

《心理学コース》

M302 教育心理学 2単位 春semester

担当 = 伊藤 武彦

テーマと到達目標 = ナラティブアプローチおよびそれにテキストマイニングをくみあわせた混合研究法による「苦労体験学」(Suffering Experience Research)の構想を学ぶ。病いの語り、援助の語り、被災の語り、当事者研究での語りを分析し、それらからどのように意味と情報をくみ取ることができるかを検討する。

概要 = 「苦労体験学」の分析の対象として、認知症とその家族、乳がん、前立腺がん、認知症、大腸がん検診をはじめとする病気とともに生きる人やその家族の映像インタビュー「健康と病いの語り：ディベックスジャパン」のウェブサイト、浦河べてるから発信する当事者研究、NHKの戦争体験のアーカイブ、などがある。春semesterは、これらの語りを質的に分析する。授業は水曜6、7限。初回の授業には必ず参加してください。

成績評価の基準 = 発表を含む授業への積極的参加と、テーマに沿ったレポート。

教科書 = 特になし。

参考文献 = 授業で紹介する。

履修にあたっての留意事項 = Zoomによる同時双方向型によるオンライン授業を予定しています。

M303 青年心理学特論 2単位 秋semester

担当 = 高坂 康雅

テーマと到達目標 = 青年心理学に関わる古典・理論書を輪読し、青年について理解・研究する素養を高めることを目的とする。

概要 = 青年心理学に関する古典・理論書を輪読する。レジュメ担当者は担当箇所について詳細なレジュメを作成し、報告する。レジュメ担当者以外の受講者は簡易なレジュメを作成するとともに、論点・質問を出し、積極的に議論を行う。これらを通して、青年心理学に関する古典・理論書を深く理解することを目指す。

成績評価の基準 = (1) 出席状況(原則毎回出席のこと)、(2) 担当箇所のレジュメ発表、(3) 質疑応答への積極的参加、などを総合的に考慮して評価する。

教科書 = 別途指示する。

履修にあたっての留意事項 = 初回オリエンテーションにて分担・担当者を決定しますので、受講希望者は必ず初回に参加してください。オンライン授業となった場合は、Zoomで行いますので、Zoomを使用できるようにしておいてください。

M510 教授・学習心理学 2単位 春semester

担当 = 馬場 正太郎

テーマと到達目標 = この授業は学校心理士の認定科目であることを踏まえ、学習について様々な心理学的理論や知見に基づきながら、学校現場が抱える課題に対してどのような心理教育的援助ができるのか、考え、提案する力の育成を目指します。特に、自己調整学習と、学習時に使用される道具に着目しながら、(1) 記憶と理解、(2) 動機づけ、(3) 学習指導と授業、(4) 学級集団とその組織化、の4つのテーマについて、重点的に学習します。

概要 = 授業の冒頭では、心理教育的援助サービスを必要とする学習者の事例を取り上げます。次に、心理学理論と最新の研究知見を紹介します。その後、どんな心理教育的援助ができるのか全員で議論します。議論に積極的に参加できるよう、以下の予習・復習の仕方を参考に、十分準備して授業に臨んでください。

【予習の仕方】予習の際は、授業計画のテーマを確認し、そのテーマに関連した援助を求めている学習者を想像してください。そして、どんな援助ができそうか、どんな援助はしてはいけないか考え、メモしておいてください。【復習の仕方】復習の際は、授業で学んだ内容を踏まえ、予習時にメモした援助方法に改善を加えてください。

成績評価の基準 = a. 授業での積極的な発言および授業終了時のコメントシート（40%）とレポート課題の成績（60%）をもとに評価します。b. 予習・復習時のメモは評価対象になりませんが、コメントシートやレポート課題を書くときの資料になりますので、大切に保管してください。c. 遅刻、早退、欠席は減点対象になる場合があります。d. 欠席時数が全授業時数の3分の1を超えた場合（i. e.、6回以上の場合）、単位認定はされません。

教科書 = 配付資料（予定）。教科書を指定する場合は、初回授業時にアナウンスします。

参考文献 = 授業の配布資料で紹介し（購入必須ではありません）。

教科書以外に必要な教材費用 = オンライン授業受講にかかる通信費、パソコン等の機材費、授業資料等の印刷代は受講生負担となります。

履修にあたっての留意事項 = a. 履修希望者は必ず初回授業に出席してください。b. 授業オリエンテーション期間（第1回目）の授業の自宅課題学習については、授業期間中に指示します。c. 無断欠席は禁止します。欠席する場合は、授業開始前までに担当教員にメールしてください。また、教学支援室から発行される「授業・試験欠席連絡票」を担当教員に提出してください（提出されても出席扱いになるとは限りません）。d. 対面授業からオンライン授業に移行した場合、この授業では「Zoomを用いた同時双方向型授業」を採用します。その場合、授業資料は和光ポータルで配信する予定です。e. オンライン授業を受講する際は、担当教員が指示した場合を除き、受講生のカメラはオフにし、マイクはミュートにしてください。f. 担当教員の許可なく、オンライン授業のURL・パスワードや授業配付資料を第三者に配布したり、授業を録音・録画・撮影したりすることは禁止します。g. オンライン授業は、授業改善および履修にあたっての留意事項（h）～（j）のために録画・録音します。h. 通信障害等によりオンライン授業を一部でも受講できなかった場合は、授業の録画を視聴した上で、指定された課題を提出してください。ただし、原則として履修にあたっての留意事項（i）もしくは（j）に該当する場合に限ります。i. オンライン授業中に指名されても発言が確認できなかった場合、欠席していると見なす場合があります。万が一、通信障害等により、担当教員の指名が聞き取れなかった場合は、授業終了後すぐに担当教員にメールしてください。履修にあたっての留意事項（h）を適用し、授業動画の視聴と課題提出を認める場合があります。j. オンライン授業の妨害とみなされる行為をした場合、オンライン授業から退室を求めたり、強制的に退室させる場合があります。その場合、欠席扱いとなり、授業動画の視聴および課題提出は認められません。万が一、機器トラブル等により、カメラ・マイクの操作ができなくなってしまった場合は、落ち着いてオンライン授業の受講を中止し、できるだけ早く担当教員にメールしてください。履修にあたっての留意事項（h）を適用し、授業動画の視聴と課題提出を認める場合があります。k. 履修にあたっての留意事項およびシラバスの内容を変更する場合は、授業もしくは和光ポータルでアナウンスします。

概要＝公認心理師に必要な心理学・心理支援・法律に関する講義を通して知識を習得する。

成績評価の基準＝授業内で扱った知識が十分に習得できていること。

履修にあたっての留意事項＝対面授業ができなくなった場合はZoomによるオンライン授業を行いますので、Zoomが使用できるようにしておいてください。

M521 保健医療分野に関する理論と支援の展開 2単位 秋セメスター

担当＝大島 裕子

テーマと到達目標＝保健医療分野における公認心理師の実践に関わる以下の事項を理解することを目標とする。
①主要な保健医療制度の概要②保健機関での実践の概要③精神科医療機関での実践の概要④代替補完医療の実践の概要⑤当該科目に関係する国家試験の過去問題

概要＝公認心理師カリキュラム等検討会の報告書「公認心理師カリキュラム等について（案）」（平成29年5月）において、当該科目は、「保健医療分野に関わる公認心理師の実践」について扱うこととのみ記載されている。そこで本授業では、私のこれまでの保健機関及び精神科医療機関での心理師としての実践を踏まえて、わかりやすく実践及びそれに関わる理論や知見を概説する。また、標準的な保健医療だけでなく現在世界中でセルフケアとして活用されている代替補完医療についても授業で扱う。さらに当該科目は公認心理師の必須科目であるので、過去国家試験で出題された問題のいくつかをピックアップして、解説する。

成績評価の基準＝成績評価はレポートや授業への積極的な参加を総合評価とする。なお、欠席は減点とする。

教科書＝特に定めず、授業で使用する資料を配付する。

参考文献＝授業において適宜提示する。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合、授業は、資料・動画配信、同時双方向（Zoom）のミックスで実施する。

M522 福祉分野に関する理論と支援の展開 2単位 秋セメスター

担当＝菅野 恵

テーマと到達目標＝1. 福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。2. 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解する。3. 虐待についての基本的知識を身につける。4. 福祉分野に関わる公認心理師の実践について理解する。

概要＝福祉現場では、子どもや貧困家庭、障がい者、高齢者、生きる上でさまざまな困難さに直面している人たちが対象となるが、現代社会において特に心の問題への支援は十分とはいえない。本講義の前半では、福祉現場で生じる心の諸問題の概要に触れながら、虐待の問題を中心に扱う。後半は、受講生自らテーマを設定し、先行研究や支援の実態についてレジュメにまとめ、発表を行う。

成績評価の基準＝授業態度、発表内容、レポート等をふまえ、総合的に判断を行う。

教科書＝菅野恵（2020）. 福祉心理学を学ぶ―児童虐待防止と心の支援― 勁草書房

参考文献＝菅野恵（2017）. 児童養護施設の子どもの家族再統合プロセス―子どもの行動の理解と心理的支援― 明石書店

教科書以外に必要な教材費用＝なし。

履修にあたっての留意事項＝・オンライン授業に移行した場合は同時双方向型授業となる。（Zoomと和光ポータルを併用）・毎回出席を取る。・グループディスカッションを取り入れるため、他の受講生と協力して取り組むこと。

M523 教育分野に関する理論と支援の展開 2単位 春semester

担当＝高坂 康雅

テーマと到達目標＝学校・教育分野に関するガイドライン・手引き等を輪読し、質疑応答を通して、学校・教育分野における心理的支援の方法や課題について理解する。

概要＝学校・教育分野に関するガイドライン・手引き等について、レジュメ担当者がレジュメを作成し、発表する。レジュメ担当者以外の受講者は、該当箇所について論点を挙げ、質疑応答・ディスカッションを行う。

成績評価の基準＝（１）出席状況（原則毎回出席のこと）、（２）レジュメ発表、（３）質疑応答・ディスカッションへの参加、などを総合して評価する。

教科書＝特にありません。

履修にあたっての留意事項＝初回オリエンテーションでレジュメの分担を決めますので、受講希望者は初回オリエンテーションに必ず出席すること。なお、対面での授業が実施できなくなった場合には Zoom でのオンライン授業を行いますので、事前に Zoom が使用できるように準備しておくこと。

M524 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 2単位 秋semester

担当＝熊上 崇

テーマと到達目標＝司法・犯罪心理学について、さまざまな犯罪理論に加えて、そのメカニズム、予防、サポートの方法についての理論と実践について学ぶ。

概要＝司法・犯罪心理学に関するテキストの輪読・討論を通じて、社会的問題に対する要因のアセスメントとそのサポートについての考え方を身につける。また、各自の研究についても討論していく。

成績評価の基準＝平常点100%とする。

教科書＝熊上崇「ケースで学ぶ司法犯罪心理学」明石書店、事前に生協などで購入しておくこと。

参考文献＝授業中に指示する。

教科書以外に必要な教材費用＝特になし。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合は、Zoom による双方向型授業を行う。

M525 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 2単位 春semester

担当＝坂井 敬子

テーマと到達目標＝本科目は、公認心理師を目指すための必修科目の一つである。産業・労働分野における心理ケアを念頭に置きながらも、心理学に限らない広い視野に基づいて、問題を理解する。また、心理学的問題を抱える個人や組織をどのように支援したらよいかも学際的な視点により考える。

概要＝ほぼ毎回、読書会を実施する。読書会のテキストは、教員の選んだものに限らず、履修者からの提案も歓迎する。発表形式はレジュメあるいはパワーポイント。授業計画は状況により変更することがある。

成績評価の基準＝個人発表70%、集団討論への参加30%。

教科書＝なし。

参考文献＝随時、授業で紹介する。

履修にあたっての留意事項＝▶公認心理師資格取得のための必修科目であるが、資格取得を考えない人の履修も歓迎する。▶下記2点を理解・了承のうえで履修希望・登録をお願いしたい。1)履修条件として、これまでの心理学関連修得科目が30単位以上あることを求める。2)全15回の授業で、履修者一人あたり、発表（あるいはショートレポート）を10回以上遂行する。▶履修者への連絡は、Google Classroom や和光ポータル、和光アカウントメールなどを用いる。▶対面授業においても、PCを持参してほしい。▶オンライン授業に移行した場合、同時双方向型授業となる（Zoomを使用）。

M526 言語発達論 2単位 春semester

担当=小野里 美帆

テーマと到達目標=言語発達に関する基礎的な理論について学習する。人間の思考や文化の根幹をなす言語の特徴を、言語発達という切り口を通して考える。具体的には、言語発達の諸理論、言語発達を支える諸領域に加え、言語発達において環境が果たす役割の重要性について学ぶ。また、言語発達にかかわる障害や、言語をとりまく現代社会について考えることを通して、言語及び言語発達に関する理解を深める機会としたい。

概要=人間の思考や文化の根幹をなす言語の特徴について、発達の側面を中心に、生物学的・神経学的側面、社会・文化的側面から多角的に理解する。発達の側面については、社会文化的アプローチを基盤として、言語獲得以前のコミュニケーション発達や相互交渉、言語獲得の様相、会話、ナラティブの発達、書字について、発達プロセスとそのメカニズムについて理解する。同時に、言語発達における社会的環境、特に大人の関与の重要性について理解することを通して、子どもの言語教育の在り方についても議論を行う。

成績評価の基準=成績評価の基準は、秀（100～90点）（自分なりの問題意識をもち、課題を的確に理解し、授業に積極的に参加している）、優（89～80点）（左に次ぐ）、良（79～70点）（授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足している）、可（69～60点）（授業に参加しているが、課題の理解力が不足している）とする。

教科書=なし。

参考文献=秦野悦子ら（2020）発達心理学医歯薬出版株式会社、秦野悦子ら（2017）（講座・臨床発達心理学5）言語発達とその支援 ミネルヴァ書房、岩立志津夫ら（2017）よくわかる言語発達 ミネルヴァ書房、岩立志津夫ら（2002）（シリーズ臨床発達心理学）言語発達とその支援 ミネルヴァ書房、長崎勤・小野里美帆（1996）コミュニケーションの発達と指導プログラム 日本文化科学社 他、必要に応じて授業内で紹介します。

教科書以外に必要な教材費用=なし。

履修にあたっての留意事項=オンライン授業に移行した場合は同時双方向型及び資料配信型（一部、動画配信）授業となります（Zoom と和光ポータルを併用）。

M527 情動発達論 2単位 春semester

担当=鈴木 ゆみ

テーマと到達目標=本講義では、情動に関する主要な心理学的テーマを取り上げます。情動発達に関する基本的な知識の習得を目標としていますが、これらテーマの中から、皆さんが自ら問いを立て、考えていくことができるようになることも目指します。個人的、あるいは臨床的／社会的な興味・関心に応じて学びをすすめてください。

概要=・情動を心理・生物・社会／文化的側面から理解する。・気質とパーソナリティ、共感性、情動調整、遊び、象徴化の視点から情動発達のプロセスを理解する。・アタッチメント概念を理解する。・発達の病理と障害を理解する。

成績評価の基準=資料の視聴後、その中で指示する課題レポート等により評価を行います。

参考文献=講義中に適宜、提示します。

履修にあたっての留意事項=資料配信型授業。質問や連絡については基本的にメールで受け付けます。初回の授業でお知らせします。

M528 教育心理学演習 2単位 秋セメスター

担当 = 伊藤 武彦

テーマと到達目標 = 教育と学校における諸問題について、教育心理学の方法論を習得するための授業です。

今年度は、前期の苦労体験学に関わるテキストデータを量的に分析するテキストマイニングによる研究方法論の知識と技術を習得することを中心とした実習的な授業とします。

概要 = 授業は水曜夜、6・7限です。2回目以降の日程については、初回授業時に受講生と相談の上決定します。初回の授業には、必ず出席するようにしてください。また、最終授業の後に研究発表会を行います。なるべく初回授業までにどのようなテキスト（たとえば闘病記等）に興味があり、分析したいかをあらかじめ考え準備しておくようにしてください。場所はA棟9階心理教育学科資料室で行います。10月末締切の学生研究奨励賞（N T T数理システム）への取り組みをおすすめします。

成績評価の基準 = 実習参加と研究論文課題の提出。

教科書 = なし。

参考文献 = 服部兼敏（2010）『テキストマイニングで広がる看護の世界』ナカニシヤ出版その他はその都度指定する。

履修にあたっての留意事項 = Zoom による同時双方向型のオンライン授業となる可能性があります。

M529 教育相談・キャリア教育論 2単位 春セメスター

担当 = 山田 智之

テーマと到達目標 = 教育相談及びキャリア教育に関する基礎的・基本的な理論や実践に対する理解を深め、講義及び演習を通して教育相談やキャリアカウンセリング、キャリアガイダンスに必要な技術・技能を身につける。

概要 = 教育相談及びキャリア教育は、すべての児童・生徒を対象とする教育活動である。そして、教育相談やキャリア教育に関する知識と技術は、進路指導や教育相談を専門とする教員やスクールカウンセラーだけでなく、すべての教員にとっても必要なものである。この実践のために、本授業では教育相談とキャリア教育及びキャリア発達について、理論と実践を関連づけて概説する。そして、幼小中高・特別支援学校のそれぞれのケースにおける児童生徒や保護者とのコミュニケーションスキルトレーニング・演習を通して、教育相談、キャリア教育をおこなうための知識・態度・技能を習得する。

成績評価の基準 = 授業（発表・論議・演習など）への参加状況及びリアクションペーパー75%、最終課題レポート25%等により総合的に評価する。提出方法など、詳しくは第1回の講義及び各授業の時に説明します。

教科書 = 授業で使用する資料は、Google Classroom を参照のこと。クラスコードは授業ごとに示します。

参考文献 = 必要に応じて適宜紹介する。

履修にあたっての留意事項 = 欠席が6回以上となった場合、発表及び最終課題レポートの提出を認めませんのでご注意ください。オンライン授業に移行した場合、授業配下の通り実施します。第1～11回 動画配信型授業（YouTube と Classroom を使用）、第12～15回 同時双方向型授業（Zoom と Classroom を使用）

M541 心理的アセスメントに関する理論と実践 2単位 春セメスター

担当 = 松坂 利之

テーマと到達目標 = 本講座では、心理査定の基本理念を獲得するばかりでなく、実践を通して、人格、知能および発達等のさまざまな検査における特性を理解し、その施行、分析を行えるようにすることを目的とする。

概要 = 本講座は、「理論」と「実践」の二つに分けることができる。「理論」では、心理査定の定義、機能を

中心に、その基本理念について考えていく。そして、人格・知能など各検査の特性を理解し、実践に向けての幅広い知識を獲得する。「実践」では、技術的にもその施行が難しいとされる検査を中心に、実習を通してその基本的技術の獲得を目指す。そして、単なる施行技術だけにとらわれず、その結果（情報）の収集、分析を適切に行い、事例（被験者など）そのものを的確に表現できるように、心理査定に関する総合的能力の向上をはかる。

成績評価の基準＝「心理査定論」の知識、体験を習得とし、自らの研究に役立てる力を養えていることを課題提出などによって評価する。

教科書＝使用しない。和光ポータルを通じて資料を配布する。

参考文献＝必要に応じて講義中に提示していくこととする。

教科書以外に必要な教材費用＝特になし。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合、この授業は以下の通り実施します。1) 同時双方向型（Zoom、和光ポータルを使用）2) 自宅課題学習については講義内に指示します。

M542 心理支援に関する理論と実践 2単位 春セメスター

担当＝末木 新

テーマと到達目標＝この授業は、臨床心理学の全体像（各種心理療法の理論・アセスメントの理論と方法・援助の実際）を学び、特に学校場面での臨床実践を行うための基礎的な力を養うことを目的としている。

概要＝講義と臨床心理学に関する文献講読を通じて、臨床心理学的援助とその歴史、臨床面接の流れ、異常心理学（DSMを含む）、各種心理療法の概要、学校において生じやすい問題（困難を抱える児童生徒の状況）と専門家との連携について学ぶ。後半では臨床心理学の最近の動向に焦点を当てながら文献講読を行う予定である。講読する文献は受講者と相談の上で決定する。

成績評価の基準＝出席、レジュメ及び発表の内容、ディスカッションへの参加態度、期末レポートを総合的に評価する。

教科書＝「公認心理師をめざす人のための臨床心理学入門」（2021年、大修館書店、¥2,530）

履修にあたっての留意事項＝履修者の学習進捗のレベル、履修者数に応じて授業内容については変更をする可能性があります。オンライン授業に移行した場合は資料配信と動画配信を組み合わせた授業とする予定です（動画は資料に組み込み、資料は和光ポータルからは配信します）。

M543 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 2単位 春セメスター

担当＝一瀬 早百合

テーマと到達目標＝個人に影響をおよぼす対象としての家族、所属集団、組織、地域社会、文化を多次元の連続性として取り上げる。到達目標1. ミクロレベルである家族をシステム理論、ライフサイクル理論から理解する 2. メゾレベルとなる集団や組織における同調や意思決定メカニズムを理解する 3. マクロレベルである社会や文化が個人に与える影響を考察できる。

概要＝テーマに関連する講義および文献購読と受講者の報告により授業を進めてゆく。家族、集団、社会に関する基本的な理論を学び、家族療法やグループセラピー、コミュニティ・アプローチなど公認心理師が対象とする実践についても事例検討などを交えて理解を深める。

成績評価の基準＝・レポーターとなる発表資料およびプレゼンテーション 40%・期末レポート 60%

教科書＝千田有紀著「日本型近代家族」（2011） 勁草書房 浅野智彦著「自己への物語論接近 家族療法から社会学へ」（2001） 勁草書房

参考文献＝「シンボリック相互作用論」ハーバート・ブルーマー著 訳後藤将之 勁草書房 2007、「近代家族のゆくえ 家族と愛情のパラドックス」山田昌弘 新曜社 1994、「ナラティブの臨床社会学」野口裕二著 勁草書房 2006

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合は同時双方向型授業となります（Zoom と和光ポータルを併用）。

M546 学校カウンセリング 2単位 春セメスター

担当＝菅野 恵

テーマと到達目標＝学校現場にカウンセリングを活用するためには、カウンセリングの基本的な技法だけでなく、コンサルテーションやコーディネーションといった組織内や組織間の協力を得ながら支援を進めていく必要がある。学校教育相談との関連を踏まえながら、学校カウンセリングを実践的な観点で検討を進める。

概要＝担当教員がスクールカウンセラーとして経験してきた実践例の紹介や、VTR視聴を行いながら理解を進めていく。また、発表やディスカッションを通して理解を深める。

成績評価の基準＝授業への参加姿勢・発表（50%）、学期末レポート（50%）

参考文献＝菅野恵・藤井靖（編著）（2019）. スクールカウンセリングの「困った」を解決するヒント48 大修館書店 石隈利紀（1999）. 学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス 誠信書房

教科書以外に必要な教材費用＝随時お伝えする。

履修にあたっての留意事項＝・オンライン授業に移行した場合は同時双方向型授業となる。（Zoom と和光ポータルを併用）・授業計画に変更が生じる場合がある。その際には受講生へその都度説明を行う。・発表やディスカッションへの積極的な姿勢を求める。

M548 情動発達支援論 2単位 秋セメスター

担当＝鈴木 ゆみ

テーマと到達目標＝本講義では、支援者としての姿勢や態度の基本を身に付け、支援者に必要な具体的な知識や方法を学びます。前半は、心理アセスメント、カウンセリングを中心とした心理支援および領域別の支援の実践について解説します。後半は事例を紹介し、演習として支援者（カウンセラー）としての態度やアセスメントについて考えてもらいます。

概要＝・情動発達支援のためのアセスメント・情動発達支援の実践（発達段階別、領域別、外的マネジメント）・愛着障害、発達障害の情動発達支援（事例紹介と演習）・子どものトラウマ、PTSDの情動発達支援（事例紹介と演習）・子どもの不安、抑うつ、問題行動の情動発達支援（事例紹介と演習）

成績評価の基準＝資料の視聴後、その中で指示する課題レポート等により評価を行います。

参考文献＝講義中に適宜、提示します。

履修にあたっての留意事項＝資料配信型授業。質問や連絡については基本的にメールで受け付けます。初回の授業でお知らせします。

M549 特別支援教育論 2単位 春セメスター

担当＝金子 なおみ

テーマと到達目標＝特別支援教育の技法を実践的に学びます。到達目標は1. 支援を必要とする子どもの見立てができる、2. 特別支援の教材（ゲーム・カードなど）の知識があり活用できる、3. 本人、家族、教師に起こり得る心理的な問題を理解する。

概要＝この講義では、特別支援教育の基礎的な知識を、発達心理学、教育学、障害心理学などの理論を用いて、理解していきます。また、さまざまな事例を検討しながら、この領域で起こりがちな問題の種類を知り、解決方法を探っていきます。学校教育の現場では、自閉症スペクトラム障害、ADHD、LDの子どもが増え続けていて、アセスメントが追いつかず、支援の開始まで半年以上かかってしまうことも少なくありません。コロナ禍で知能検査の予約が3か月先まで取れないという自治体もあるほどです。その間、まったく支援なしで放置される子をなくすために、この講義で特別支援のポイントだけでもつかんでいってください。

成績評価の基準＝ディスカッションへの参加態度、発表内容によって総合的に評価する。

教科書＝授業内で関連する資料を配布する。

参考文献＝授業中に提示する。

教科書以外に必要な教材費用＝特に想定していない。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合は、同時双方向型授業（Google meet と和光ポータルを併用）となります。一部、資料配信型授業（和光ポータルを使用）を併用します。なお、第1回「オリエンテーション」は対面形式では実施せず、「自宅課題学習」となります。自宅課題学習については授業中に指示します。

M561 発達・教育臨床実習Ⅰ 2単位 春semester

担当＝辻 あゆみ

テーマと到達目標＝心理教育的アセスメントの目的、ならびに、実施方法を学んだうえで、アセスメントの限界と問題点について理解を図ります。さらに、アセスメントに基づく指導と指導計画の立案の仕方を学び、子どもや人を捉える視点を深めます。

概要＝1・個別心理検査の利点、ならびに、実施の留意点について学ぶ。2・各種検査法を実演し、体験する。3・各種検査法の分析と結果の解釈について学び、その結果から指導案・指導計画の立案を試みる。

成績評価の基準＝授業中に取り組む課題（50％）と学期末レポート（50％）によって評価する。

教科書＝使用しない。

参考文献＝必要に応じて授業中に紹介する。

教科書以外に必要な教材費用＝特に指定していない。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合、この授業は以下の通り実施します。a. この授業は、資料配信型授業となります（和光ポータルを使用）。b. 自宅課題学習については、授業内で指示します。

M562 発達・教育臨床実習Ⅱ 2単位 春semester

担当＝辻 あゆみ

テーマと到達目標＝事例を通して、各種検査の結果の解釈の仕方を学びます。ここでは、結果を伝える上での留意点、ならびに、その活かし方について理解を深めます。また、相談者の心のあり方、ならびに、相談される自己の内面を内省する力を身につけられるようにしていきます。

概要＝1・相談者との関わり方を学ぶ。2・事例を通して、相談者の内面の読み取り方を学ぶ。3・カウンセリングプロセスの分析、解釈の仕方を学ぶ中で、自己の内面を省みる力をつける。4・事例を通して、コンサルテーション、コーディネーションの仕方を学ぶ。

成績評価の基準＝講義への積極的参加とレポートで評価。

教科書＝授業中に紹介。

参考文献＝授業中に紹介。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合、この授業は以下の通り実施します。a. この授業は、資料配信型となります（和光ポータルを使用）。b. 自宅課題学習については、授業内で指示します。

M563 心理実践実習A 2単位 春セメスター

担当＝高坂 康雅、末木 新、菅野 恵、一瀬 早百合、熊上 崇

テーマと到達目標＝実習を通して心理支援の専門職として活躍するための態度や技能を習得する。

概要＝保健医療、教育、福祉などの分野における実習と振り返り及びスーパービジョンを継続的に行う。

成績評価の基準＝実習を通して心理支援の専門職としての態度や技能が習得できていること。

履修にあたっての留意事項＝実習の進め方については適宜担当教員の指示を受けてください。

M564 心理実践実習B 2単位 秋セメスター

担当＝高坂 康雅、末木 新、菅野 恵、一瀬 早百合、熊上 崇

テーマと到達目標＝実習を通して心理支援の専門職として活躍するための態度や技能を習得する。

概要＝保健医療、教育、福祉などの分野における実習と振り返り及びスーパービジョンを継続的に行う。

成績評価の基準＝実習を通して心理支援の専門職としての態度や技能が習得できていること。

履修にあたっての留意事項＝実習の進め方については適宜担当教員の指示に従ってください。

《現代社会文化論コース》

M201 福祉社会論 2単位 春セメスター

担当＝挽地 康彦

テーマと到達目標＝現代世界に将来不安と恐怖が蔓延するなかで掲げられる「福祉国家から福祉社会へ」というスローガンは何を示唆するのか。福祉社会は、われわれの生（lives）の領域とどのようにかかわっているのか。これらの問いを読み解くために、福祉国家に関する基本的な知識（歴史・制度・思想）を学びながら、「福祉社会」への批判的知性を養っていく。

概要＝17世紀以降のヨーロッパ社会がたどった歴史を踏まえながら、人間の生命の安全という観点から福祉国家の歩みを系譜学的に繙いていく。そのうえで、20世紀半ばから始まる先進諸国の福祉国家への収斂、その後の危機と分散を概観し、今日の福祉社会へと至る流れを整理していく。これらの作業を通じて、功利主義的な福祉の経済思想・モデルを批判的に検討し、新たな福祉思想の可能性を探っていく。

成績評価の基準＝輪読における文献報告（70%）と期末レポート（30%）によって評価する。

教科書＝特に指定しないが、講読用のリーディング・リストを配布する。

参考文献＝ポール・スピッカー『福祉国家の一般理論』（勁草書房）、ロベール・カステル『社会の安全と不安』（萌書房）、ナンシー・フレイザー『中断された正義』（御茶の水書房）、ピエール・ロザンヴァロン『連帯の新たなる哲学』（勁草書房）、アラン・カイエ『功利的理性批判』（以文社）など。

履修にあたっての留意事項＝1. オンライン授業の場合は、同時双方向型（Zoom）を主として授業を行う。必要に応じて、資料配信型（Google Classroom）を併用する。Zoom、Google Classroomの参加方法は、Gメール、もしくは和光ポータルから受講者へ通知する。2. 授業計画は一部変更する。

M202 福祉社会論演習 2単位 秋セメスター

担当＝挽地 康彦

テーマと到達目標＝この授業は、福祉社会のリアリティを考察するための重要な研究領域、分析的アプローチ、具体的な課題について演習形式で学び、習得することを目的とする。

概要＝授業計画としては、まず「福祉社会論」で培った福祉国家から福祉社会への系譜学と功利主義的な福祉モデルへの批判的検討という二軸の知見をもとに、福祉社会学や福祉政治学、福祉の社会思想や経済思想などの福祉研究の方法論をいっそう掘り下げて習得していく。そのうえで、福祉社会の個別のテーマにそった受講者による研究報告を設定し、実践的な課題にどのように応えていくのかを議論していく。

成績評価の基準＝文献・研究報告(30%)、ディスカッション(20%)、研究レポート(50%)によって評価する。

教科書＝特に指定しない。

参考文献＝講読用のリーディング・リストを配布する。

履修にあたっての留意事項＝1.「福祉社会論」を受講しておくことが望ましい。1. オンライン授業の場合は、同時双方向型(Zoom)を主としながら、資料配信型(Google Classroom、和光ポータル)を併用して行う。2. Zoom、Google Classroomへの参加方法は、和光ポータルから受講者へ通知する。3. 授業計画は一部変更する。改訂版の授業計画は初回授業で配信する予定である。

M203 国際人権論 2単位 秋セメスター

担当＝藤本 俊明

テーマと到達目標＝国際人権法は、子ども、女性、外国人、難民、労働者、高齢者、障害者、先住民族、HIV感染者、セクシュアル・マイノリティなど、一人一人の生活に関連するさまざまな人権を規定しています。現代社会において国際的な人権保障が果たす役割あるいは果たすべき役割について、国際人権法の観点からの考察力を養うことを目標とします。「人権の主流化」との言葉が示すように、現代社会への基本的視座を提供する機会ともなるでしょう。

概要＝前半：具体的な人権問題を交えながら、国際人権法の基礎について、受講者による報告形式によりすすめていきます。後半：受講者の関心に対応したテーマについて、必要に応じて外国語文献を使用しながら、報告形式によりすすめていきます。その他詳細は、開講時に受講者と相談します。

成績評価の基準＝主に「国際人権法」を基礎とした授業となりますが、必ずしも法学系の知識等が必須というわけではありません。成績評価は、出席、報告内容、期末レポート等により行います。試験は行いません。

教科書＝阿部浩己・今井直・藤本俊明『テキストブック国際人権法(第3版)』(日本評論社)

参考文献＝『条約集』 *出版社の指定なし。六法は不可。 松井芳郎 他編『国際人権条約・宣言集(第3版)』(東信堂) 松井芳郎『国際法から世界を見る 市民のための国際法入門』(東信堂) その他については、授業時に適宜指示します。

履修にあたっての留意事項＝☆オンライン授業に移行した場合は資料配信型授業(和光ポータルを使用)となります。☆授業に関すること以外でも困っていることなどがあれば遠慮なく相談・連絡してください(メール: camille1969@i.softbank.jp)。★例えば、国際公務員、NGO職員、留学・進学、その他各種試験受験など、(力はまだなくとも)具体的な目標を決めている人(これから決めたい人)を特に歓迎します。もちろん未定の人とも一緒に考えていきたいと思います。★意欲のある学生には他大学の学生との自主ゼミ(Global Peace Studies 研究会)も紹介します(アジア圏スタディツアーあり)。★e-mailなどを主な質問・連絡手段とします。授業終了後にも質問等を受付けます。

M206 格差社会論 2単位 秋セメスター

担当 = 岩間 暁子

テーマと到達目標 = 社会学における階級・階層論、ジェンダー論、民族・エスニシティ研究で蓄積されてきた不平等や格差に関する理論や知見を踏まえつつ、現代社会における貧困や社会的排除の問題を取り上げた文献購読とディスカッションを通じて、現状把握、こうした問題が生み出される社会的経済的政治的背景、求められる政策的対応などについての理解を深めることを目標とする。

概要 = 先進諸国ではグローバリゼーションのさらなる進行、少子高齢化、情報社会・知識社会への移行などによって雇用の流動化（非正規雇用化など）、格差の拡大、家族の不安定化、移民・難民の増加などが進行している。こうした変化を受けて、多様性や流動性を前提とした、普遍主義的な社会保障システムの構築が求められている。この授業では日本に焦点をあてるが、韓国やヨーロッパ諸国、アメリカなどとの国際比較もおこないつつ、不平等、社会的排除、社会的包摂といったキーワードに関連する文献を講読し、議論する。取り上げる文献については受講生と相談の上、決める。

成績評価の基準 = 出席、レポーター担当時に作成するレジュメやプレゼンテーション、関連する参考資料の準備、討論への積極的参加に基づいて総合的に評価する。

教科書 = 1 回目の授業で相談の上、決定する。

参考文献 = 担当者は以下の本を執筆していますので、参考にしてください。岩間暁子・大和礼子・田間泰子、2015、『問いからはじめる家族社会学—多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣。岩間暁子、2008、『女性の就業と家族のゆくえ—格差社会のなかの変容』東京大学出版会。岩間暁子／ユ・ヒョジョン編著、2007、『マイノリティとは何か—概念と政策の比較社会学』ミネルヴァ書房。

履修にあたっての留意事項 = オンライン授業に移行した場合は同時双方向型授業とします（Zoom と和光ポータルを併用）。1 回目の授業をオンラインで実施する場合、Zoom のリンクを授業前に伝える必要があるため、履修希望者は1 回目の授業の前日までに担当教員にメールで連絡してください（a-iwama@rikkyo.ac.jp）。なお、1 回目の授業の説明を聞いたうえで、「履修しない」という選択ももちろん認められます。

M207 ジェンダー関係論 2単位 春セメスター

担当 = 杉浦 郁子

テーマと到達目標 = ジェンダー／セクシュアリティに関する理論的・経験的研究の成果を学び、現代日本におけるジェンダー／セクシュアリティ秩序の有り様を理解するとともに、具体的な研究方法を身につける。

概要 = ジェンダー／セクシュアリティの領域で蓄積されてきた様々な個別研究をとりあげる。どのような現象がどのような方法で記述され、どのような概念や理論で説明されているのかに着目しながら関連文献を読み、議論する。文献講読を通じて、経験的研究の方法について理解を深めたい。

成績評価の基準 = 文献報告、討論への参加、期末レポートの内容を総合評価する。

教科書 = 受講者の興味関心にもとづいて決定する。

参考文献 = 適宜紹介する。

履修にあたっての留意事項 = ・昼休みまで延長することが多い。・資料の配布、出席の確認、コメントの提出などは、Google Classroom を通じて行う。・オンライン授業に移行した場合は、同時双方向型の授業となる（Zoom を使用）。

M208 ジェンダー関係論演習 2単位 秋セメスター

担当 = 杉浦 郁子

テーマと到達目標 = ジェンダー／セクシュアリティに関する個別研究を行う。

概要＝個別研究に関する中間報告、論文作成を行う。

成績評価の基準＝報告、討論への参加、論文の内容を総合評価する。

教科書＝なし。

参考文献＝適宜紹介する。

履修にあたっての留意事項＝・昼休みまで延長することが多い。・資料の配布、出席の確認、コメントの提出などは、Google Classroom を通じて行う。・オンライン授業に移行した場合は、同時双方向型の授業となる (Zoom を使用)。

M223 都市景観論 2単位 春セメスター

担当＝上野 隆生

テーマと到達目標＝「外」から見た近代日本の都市景観

概要＝19世紀末から20世紀初頭の世紀転換期における、外国人の目からみた日本の都市景観に関する叙述を受講者とともに読み進めながら、近代日本の都市景観に関する検討を行う。

成績評価の基準＝課題への取り組みや発表、レジュメ (詳細は授業の中で説明する) の提出などを総合的に見て評価する。

教科書＝エゴン・クンハルト『若きハンブルク商人の歴訪の日々』1898年 (翻訳、受講者にはプリントして配布予定) ほか。

参考文献＝適宜授業中に指示する。

教科書以外に必要な教材費用＝適宜授業中に指示する。

履修にあたっての留意事項＝教室での授業が可能になった時点以降については、参加者の発表を中心に授業を進める。和光大学図書・情報館のHPなどを授業でも使用するので、インターネットでアクセスできるようにしておくことが望ましい。オンライン授業の場合には、原則として Zoom での授業を行う。

M224 都市景観論演習 2単位 秋セメスター

担当＝上野 隆生

テーマと到達目標＝比較文化史的にみた都市景観とその変容

概要＝外国人の目からみた近代日本の都市景観と日本人の目から見た外国の都市景観とを比較検討する。指定文献を中心に受講者に報告をしてもらう。

成績評価の基準＝課題への取り組みや発表、レジュメ (詳細は授業の中で説明する) の提出などを総合的に見て評価する。

教科書＝久米邦武編・田中彰校注『特命全権大使米欧回覧実記』全5冊、岩波文庫。また、教科書に準ずる「指定文献リスト」を配布する。

参考文献＝適宜授業中に指示する。

教科書以外に必要な教材費用＝適宜授業中に指示する。

履修にあたっての留意事項＝教室での授業が可能になった時点以降については、参加者の発表を中心に授業を進める。和光大学図書・情報館のHPなどを授業でも使用するので、インターネットでアクセスできるようにしておくことが望ましい。オンライン授業の場合には、原則として Zoom での授業を行う。

M225 エコツーリズム論 2単位 秋セメスター

担当＝小林 正典

テーマと到達目標＝この授業では、新しい観光形態としてのエコツーリズム (Ecotourism) について概観し、日本のエコツーリズム推進法とエコツーリズム推進基本計画を学び、日本および近隣諸国・地域のエコツ

ーリズムの事例について理解を深めることをねらいとする。

概要 = 基本文献およびWeb上の参考資料を読みながら、新しい観光形態とエコツーリズムについて学習し、具体的な地域の事例について理解を深め、各自で関心のあるテーマを見つけて研究発表を行う。

成績評価の基準 = 研究報告と課題レポートの内容によって評価する。

教科書 = 授業中に適宜指示する。

参考文献 = 授業中に適宜指示する。

教科書以外に必要な教材費用 = 授業中に適宜指示する。

履修にあたっての留意事項 = ・オンライン授業になった場合、この授業は同時双方向型授業（Zoom と和光ポータルを併用）の形態となる。・資料の配信は、和光ポータルの機能を使って行い、資料の形式はPDFファイルを基本とする。・課題の提示と提出受付、質疑応答についても、和光ポータルの機能を使って行う。

M226 環境運動論1 2単位 秋semester

担当 = 岩本 陽児

テーマと到達目標 = 欧米におけるNPOは教育、福祉、文化、環境等の分野で約150年に及ぶ歴史をもち、戦後約30年間の自由主義世界を特徴づけた政府部門による「福祉国家」建設をリードしてきました。この授業は、学生が産業革命と自然破壊だけでない「西洋文明」のもうひとつの姿を理解することを支援します。

概要 = ゼミ形式で、イギリスに起源をもち、今や日本も含めて世界的に影響の大きい民間の環境NPO「ナショナル・トラスト」の環境保全運動を中心に見ていきます。その母団体とされる入会地保存協会等、先行する環境保全諸団体が、19世紀末におけるナショナル・トラストの創立や、その後の運営、政策決定にどのような影響を及ぼしたかを検証します。20世紀の環境団体の資料もふんだんにあります。委細については受講生の関心の持ち方とも相談のうえ、調整しましょう。

成績評価の基準 = 遅刻・欠席をしない。授業中の発表を元に、8000字程度の期末レポートを提出。

教科書 = ありません。

参考文献 = 学生の関心に応じ、授業中に指示します。

教科書以外に必要な教材費用 = 学外見学の交通費、コピー代等の実費は学生負担とする。

履修にあたっての留意事項 = 学期第一週の授業時に出席できなかった場合には、必ず第二週の授業日より前にiwamoto@wako.ac.jpに連絡すること（授業名を標題とする）。不明な点は必ず相談するように。なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況いかによってはsemester途中でオンライン授業に切り替えなくてはならない可能性もあるが、その場合の授業形態については、受講生と相談して決めたいと考えている。事前に相談のうえ、英語文献を使用することがある。使い慣れた辞書を用意すること。

M227 環境運動論2 2単位 春semester

担当 = 角田 季美枝

テーマと到達目標 = 本演習では、戦後の日本で代表的な環境運動をテキストなどから検討し、環境問題が起きている社会構造を考えます。検討の視点は社会運動論、環境政策論、環境社会学ですが、経済学、経営学、法学、社会福祉論、まちづくり論など、関連分野に関心のある受講生も歓迎します。事例の検討を通じて、環境運動の多様性、意義などの理解を深めます。環境運動の必要性や課題を公共性や自らの関心にひきつけて語る力の習得も目指します。

概要 = ゼミ形式で「環境運動」を検討する視点を社会運動論、環境政策論や環境社会学のテキストの輪読に

よって視点を共有します。その後、代表的な事例をテキストや映像などをふまえた発表をおこない、環境運動の活動の意義などを考察・検討します。環境運動の活動やイベントへの参加体験も試みます。事例としては公害運動、住民・市民による環境運動、企業など多様な主体のパートナーシップによる環境運動、グローバルな課題に取り組む環境運動などです。受講生の関心も組み込んで進めます。そのため実施内容は変更もありえます。

成績評価の基準 = 遅刻・欠席をしない。授業中の発表・討論などをふまえて、8000字程度の期末レポートを提出。

教科書 = ありません。

参考文献 = 大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人編著 (2004)『社会運動の社会学』有斐閣その他、演習内容や学生の関心に応じ、授業中に指示します。

教科書以外に必要な教材費用 = 学外見学・体験等の交通費、発表資料のコピー代等の実費は学生負担とします。

履修にあたっての留意事項 = 第1回で内容や進め方などの具体的な相談をしたいので、必ず出席してください。第1回の授業に出席できなかった場合、必ず tsunoda@wako.ac.jp に連絡すること（授業名を件名としてください）。不明な点は必ず相談してください。新型コロナウイルスの対策状況によってはオンライン授業（資料配信、Zoom）になる可能性があります。了解願います。

M228 生態文化論 2単位 春セメスター

担当 = 堂前 雅史

テーマと到達目標 = 環境問題を考える上では、物質循環や生物多様性のような自然環境が持続可能であることと、コミュニティが持続可能であることが両立しなくてはならない。時として矛盾しかねない二つの課題を共に解いていくための文化を創り出すための理論や課題を考える。

概要 = 具体的にはアメリカ環境思想の Bioregionalism や、日本の流域思考（岸由二 2002）を参照して考えるために、関連文献の購読をしながら、都市における生物多様性、自然災害対策を織り込んだ都市生活文化を考えていく。教科書欄にある文献の購読を行う予定であるが、詳細は受講者と相談して決める。

成績評価の基準 = 参加発表状況とレポートから総合的に評価する。

教科書 = Cheryll Glotfelty & Eve Quesnel (eds.) (2014) "The Biosphere and the Bioregion: Essential Writings of Peter Berg" Routledge Environmental Humanities. Christopher Plant & Judith Plant (eds.) (2009) "Home!: A Bioregional Reader" New Catalyst Books. Ramon Folch (ed.) (2000) "Encyclopedia of the Biosphere Vol. 11: The Biosphere Concept" Gale / Cengage Learning.

履修にあたっての留意事項 = 対面授業の予定であるが、もしもオンライン授業になった場合は、Zoom を使った双方向型のオンラインセミナーを行う予定である。

M229 生態文化論演習 2単位 秋セメスター

担当 = 堂前 雅史

テーマと到達目標 = 環境問題を考える上では、物質循環や生物多様性のような自然環境が持続可能であることと、コミュニティが持続可能であることが両立しなくてはならない。時として矛盾しかねない二つの課題を共に解いていくための文化を創り出すための理論や課題を考える。

概要 = 前期の「生態文化論」の研究成果を踏まえて、アメリカ環境思想の Bioregionalism や、日本の流域思考（岸由二 2002）を参照して都市の生態文化を考えるために、関連文献の購読をしながら、都市における生物多様性、自然災害対策を織り込んだ都市生活文化を考えていく。具体的には教科書欄や参考文献

欄にある文献の購読を行う予定であるが、詳細は受講者と相談して決める。

成績評価の基準 = 参加発表状況とレポートから総合的に評価する。

教科書 = Christopher Plant & Judith Plant (eds.) (2009) "Home!: A Bioregional Reader" New Catalyst Books.
Tom Lynch & Cheryll Glotfelty (2012) "The Bioregional Imagination: Literature, Ecology, and Place" University of Georgia Press.
Ramon Folch (ed.) (2000) "Encyclopedia of the Biosphere Vol. 11: The Biosphere Concept" Gale / Cengage Learning.

参考文献 = Cheryll Glotfelty & Eve Quesnel (eds.) (2014) "The Biosphere and the Bioregion: Essential Writings of Peter Berg" Routledge Environmental Humanities.

履修にあたっての留意事項 = 対面授業の予定であるが、もしもオンライン授業になった場合は、Zoom を使った双方向型のオンラインセミナーを行う予定である。

M231 中国の社会と文化 2単位 春semester

担当 = 小林 正典

テーマと到達目標 = 清朝末期には、中国から多くの留学生が日本を訪れた。彼らは日本で接した西洋の書籍を本国に紹介し、それまでの中国にはなかった新しい思想を伝播する役割を果たした。この授業では、清朝末期の中国人留学生が日本で何を学び、それをどのように中国に伝播させ、中国の社会と文化にどんな影響を与えたのかを概観する。

概要 = 日本語、中国語（漢語）の基本文献およびWeb上の文献を読みながら、清朝末期の中国人留学生が新しい思想や専門用語を本国に伝播した経緯を概観し、最後にその中から関心のある分野をとり上げて各自研究発表を行う。

成績評価の基準 = 研究報告と課題レポートの内容によって評価する。

教科書 = 授業中に適宜指示する。

参考文献 = さねとうけいしゅう『増補版 中国人日本留学史』くろしお出版、1981年。その他、授業中に適宜指示する。

教科書以外に必要な教材費用 = 授業中に適宜指示する。

履修にあたっての留意事項 = ・オンライン授業になった場合、この授業は同時双方向型授業（Zoom と和光ポータルを併用）の形態となる。・資料の配信は、和光ポータルの機能を使って行い、資料の形式はPDF ファイルを基本とする。・課題の提示と提出受付、質疑応答についても、和光ポータルの機能を使って行う。

M234 中央ユーラシア遊牧社会の歴史と文化 2単位 春semester

担当 = 坂井 弘紀

テーマと到達目標 = 中央ユーラシアに古来展開した騎馬遊牧民の歴史と文化を専門的に学ぶ授業である。また、シベリア、モンゴル、中国から中央アジア、ロシア、コーカサス、西アジアなどの口承文芸・歴史・言語・文学・社会などについて学ぶことが可能である。

概要 = 中央ユーラシアを舞台に、古来騎馬遊牧民が大きな役割を果たした。それは東アジア、南・西アジア、地中海世界、ヨーロッパなどの歴史や文化の発展に強い影響を及ぼしたことからもわかる。本授業では、院生の専門テーマや興味・関心に基づきながら、中央ユーラシアの遊牧社会の歴史と文化について学ぶ。受講生の毎回の報告を中心に議論を交わしながら、授業を進めていく。外国語（英語・ロシア語・テュルク諸語）の文献講読も行う。

成績評価の基準 = 毎回の発表、もしくはレポートと学期末のレポートにて成績評価を行う。

教科書＝使用する教科書は履修学生と相談の上決定する。

参考文献＝授業の中で指示する。

教科書以外に必要な教材費用＝特になし。

履修にあたっての留意事項＝対面授業を予定しているが、資料配布型授業になる可能性もあるので、こちらからの指示に注意してください。

M235 東西文化交渉史 2単位 春semester

担当＝松枝 到

テーマと到達目標＝ユーラシア大陸においては、旧石器時代すでに東西の道は開かれ、アフリカ大陸にはじまる人類の経路として世界にあまねく道を開いた。そこに往還した物産・人物・思想の流れは、そのまま人類の文化史の骨幹を形作るものである。本講座では、時代・地域・文化を越えるさまざまな人間の活動を追ってきた。その範囲は広いが、現代の社会情勢から見た歴史的な文化交錯をたどり、さらなる意識の交差点を求めてゆきたい。

概要＝個々のテーマからわきあがるテキストを参加者で共有し、深めてゆく。それぞれの問題意識の交錯が新たな問題を導き出すよう、討議を進めてゆく。今年度は特に共通のテキストを事前に指定しないが、討議の中からテキストとフィールドを探ることにする。

成績評価の基準＝出席と報告により評価する。

教科書＝必要に応じて指示する。

参考文献＝必要に応じて指示する。

教科書以外に必要な教材費用＝配布データの性質からいって、PC使用できる環境が望ましい。それが困難な学生は相談すること。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業としては「資料配信型授業」とする。授業登録者が確定した後に、授業の展開について協議する機会を設けるので、メール、ポータル、ラインなどに注意すること。

M236 東西文化交渉史演習 2単位 秋semester

担当＝松枝 到

テーマと到達目標＝あらゆる研究データは、いかに抽象的であっても具体性を媒介としなければ意味を発生させない。ことに文化研究にあつては、もっとも広義におけるフィールドワークを欠くことはできない。ここでは思考の物質性が試される。最終的に論文にまとめる作業をおこなう。

概要＝個々のテーマの現実的な課題と、そこから導き出される抽象的な論理との隔たりを測り確かめる方法を学ぶ。問題によってどのようなフィールドワークが可能なのか、それを確認し実践するなかで、論文という表現法を身につける。語ることと書くこと、発表報告と記述の連関性を探る。

成績評価の基準＝論文への取り組み、成果

教科書＝そのつど指示する。

参考文献＝そのつど指示する。

教科書以外に必要な教材費用＝配布データの性質からいって、PC使用できる環境が望ましい。それが困難な学生は相談すること。

履修にあたっての留意事項＝この講座は「資料配信型授業」とする。授業の進め方については、受講登録者の確定後に協議する機会を設けるので、メール、ポータル、ラインなどの情報に注意すること。

M237 印欧語族の神話の世界 2単位 春セメスター

担当＝松村 一男

テーマと到達目標＝テーマは印欧語族の言語、文化、歴史、神話の概要をその背景とともに学び、理解すること。マロリーの著作の購読を通して、それぞれの地域の言語、文化、歴史、神話について一通りの知識を獲得し、後期の研究論文購読に向けた準備ができることが到達目標である。

概要＝印欧語族についての言語学、考古学、歴史学における研究史、印欧語族と他の語族との関係、印欧語族内部での諸語派の関係など基本的な事項について学ぶ。英語で文献を読むことに不自由しない程度の語学力が求められる。

成績評価の基準＝毎回の課題レポート提出（100％）。

教科書＝J. P. Mallory, In Search of the Indo—Europeans: Language, Archaeology and Myth, Thames and Hudson, £16.95.

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合、この授業は資料配布型授業（和光ポータルを使用）となります。第一回の授業の課題として、教科書の第一章「言語学、考古学、歴史学の学際的研究」を読むこと。教科書については授業開始後に教員から受講生に直接に受け取りについて指示する（ただし受講生との相談の上で教科書を変更する可能性もある）。

M238 印欧語族の神話の世界演習 2単位 秋セメスター

担当＝松村 一男

テーマと到達目標＝テーマは前期の続き。前期に印欧語族の言語、文化、歴史、神話の概要をその背景とともに学び、理解したのを受けて、個別問題の原典や著作の購読を通して、それぞれの地域の言語、文化、神話伝承についての知識を深め、期末に研究論文を書いて発表することが到達目標である。毎回、学生にその回の文献の報告をしてもらい、討議する。

概要＝ゲルマン、ケルト、ギリシア、ローマ、インド、イランの原典資料、研究書、研究論文を読んで討議する。

成績評価の基準＝成績は期末の提出レポート（5000字以上）による。

教科書＝使用する原典、研究書、研究論文は受講生が用意すること。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合、この授業は資料配信型授業（和光ポータルを使用）となります。第一回の授業課題は、谷口幸男訳『エッダ』を読んで、内容について教員と討議すること。

《発達・教育臨床論コース》

M500番台の科目については心理学コースの講義要目を参照してください。

M302 教育心理学 2単位 春セメスター

担当＝伊藤 武彦

テーマと到達目標＝ナラティブアプローチおよびそれにテキストマイニングをくみあわせた混合研究法による「苦労体験学」(Suffering Experience Research) の構想を学ぶ。病いの語り、援助の語り、被災の語り、当事者研究での語りを分析し、それらからどのように意味と情報をくみ取ることができるかを検討する。

概要＝「苦労体験学」の分析の対象として、認知症とその家族、乳がん、前立腺がん、認知症、大腸がん検診をはじめとする病気とともに生きる人やその家族の映像インタビュー「健康と病いの語り：ディベックスジャパン」のウェブサイト、浦河べてるから発信する当事者研究、NHKの戦争体験のアーカイブ、などがある。春セメスターは、これらの語りを質的に分析する。授業は水曜6、7限。初回の授業には必ず

参加してください。

成績評価の基準＝発表を含む授業への積極的参加と、テーマに沿ったレポート。

教科書＝特になし。

参考文献＝授業で紹介する。

履修にあたっての留意事項＝Zoomによる同時双方向型によるオンライン授業を予定しています。

M303 青年心理学特論 2単位 秋セメスター

担当＝高坂 康雅

テーマと到達目標＝青年心理学に関わる古典・理論書を輪読し、青年について理解・研究する素養を高めることを目的とする。

概要＝青年心理学に関する古典・理論書を輪読する。レジュメ担当者は担当箇所について詳細なレジュメを作成し、報告する。レジュメ担当者以外の受講者は簡易なレジュメを作成するとともに、論点・質問を出し、積極的に議論を行う。これらを通して、青年心理学に関する古典・理論書を深く理解することを目指す。

成績評価の基準＝(1)出席状況(原則毎回出席のこと)、(2)担当箇所のレジュメ発表、(3)質疑応答への積極的参加、などを総合的に考慮して評価する。

教科書＝別途指示する。

履修にあたっての留意事項＝初回オリエンテーションにて分担・担当者を決定しますので、受講希望者は必ず初回に参加してください。オンライン授業となった場合は、Zoomで行いますので、Zoomを使用できるようにしておいてください。

M311 教育経営論 2単位 秋セメスター

担当＝山本 由美

テーマと到達目標＝新自由主義教育改革のもとでの公教育における教育改革の在り方を考える。(1)新自由主義教育改革の現在の段階とは(2)新しい教育経営の在り方(3)公教育の民営化とは(4)改革の対抗軸を考える教育改革に関わる政策文書を読み分析し、実際の改革のデータなどを検討して新自由主義教育の現段階、教育経営に現れたその姿について検証し考察を加える。

概要＝(1)新自由主義教育改革とは何か教育基本法改正、新旧対照表から、教育再生実行会議全提言から(2)平成の学制改革とは何か(3)新しい教育経営の在り方、NPM型経営とは(4)公教育の民営化公設民営学校とアメリカのチャータースクール(5)対抗軸を考える具体的な学校のケースから

成績評価の基準＝出席・授業参加50% プレゼンテーション50%

教科書＝適宜プリント配布

履修にあたっての留意事項＝参加者の研究関心を重視して課題を設定します。プレゼンテーション、報告が入りますゲスト講師も考えます状況によって同時双方型授業(Zoom使用)と動画配信型授業を行ないます。

M312 教育実践史 2単位 春セメスター

担当＝大西 公恵

テーマと到達目標＝日本の小学校教師たちが行ってきた様々な教育実践を取り上げ、子どもの発達保障を目指す教育のありかたについて考える。特に、経験を通じた学び、総合性、共同的な学びを重視した実践を取り上げ、教師による授業づくりの技について考察する。

概要＝文献講読と参加者の報告により授業を進めていく。まず、田中耕治編著『戦後日本教育方法論史』上・下(ミネルヴァ書房、2017年)の講読を通して教育方法史の論点整理を行う。次いで、以下の内容のうち、受講者の関心によってテーマおよび共通文献を選定し、講読を行う。戦後の教育実践のあゆみ、生活

綴方と作文教育、算数・数学教育、仮説実験授業、いのちの学習、総合学習、「学びの共同体」ほか。

成績評価の基準＝報告およびレポートにより総合的に評価する。

教科書＝田中耕治編著『戦後日本教育方法論史』上・下、ミネルヴァ書房、2017年。後半の講読文献は受講者と相談の上、決定する。

参考文献＝田中耕治編著『時代を拓いた教師たち』日本標準、2005年、田中耕治編著『時代を拓いた教師たちⅡ』日本標準、2009年ほか

履修にあたっての留意事項＝この授業は基本的に学内での対面講義とするが、状況によっては遠隔授業（Zoomを使用した同時双方向型）を行う。具体的な授業方法・自宅学習については、初回授業時に説明する。

M313 生涯学習論 2単位 春semester

担当＝岩本 陽児

テーマと到達目標＝日本の小学校教師たちが行ってきた様々な教育実践を取り上げ、子どもの発達保障を目指す教育のありかたについて考える。特に、経験を通じた学び、総合性、共同的な学びを重視した実践を取り上げ、教師による授業づくりの技について考察する。

概要＝文献講読と参加者の報告により授業を進めていく。まず、田中耕治編著『戦後日本教育方法論史』上・下（ミネルヴァ書房、2017年）の講読を通して教育方法史の論点整理を行う。次いで、以下の内容のうち、受講者の関心によってテーマおよび共通文献を選定し、講読を行う。戦後の教育実践のあゆみ、生活綴方と作文教育、算数・数学教育、仮説実験授業、いのちの学習、総合学習、「学びの共同体」ほか。

成績評価の基準＝報告およびレポートにより総合的に評価する。

教科書＝田中耕治編著『戦後日本教育方法論史』上・下、ミネルヴァ書房、2017年。後半の講読文献は受講者と相談の上、決定する。

参考文献＝田中耕治編著『時代を拓いた教師たち』日本標準、2005年、田中耕治編著『時代を拓いた教師たちⅡ』日本標準、2009年ほか

履修にあたっての留意事項＝学期第一週の授業時に出席できなかった場合には、必ず第二週の授業日より前にiwamoto@wako.ac.jpに連絡すること（授業名を標題とする）。不明な点は必ず相談するように。なお、新型コロナの感染拡大状況いかにによってはsemester途中でオンライン授業に切り替えなくてはならない可能性もあるが、その場合の授業形態については、受講生と相談して決めたいと考えている。

M315 教育思想史特論 2単位 春semester

担当＝辻 直人

テーマと到達目標＝雑誌『生活学校』所収の記事より、執筆者たちの考える「生活教育」「生活観」について検討する。「生活が陶冶する」というペスタロッチの言葉を当時の教育者たちはどのように理解し、どう実践に反映させていたのか、生活と教育の結びつきをどう捉えていたのか、理解することを目標とする。

概要＝この特論では、「生活学校」に焦点を当てて、その実践に当たった教育者たちの思想について考察する。

「生活学校」という用語は、1935年1月に創刊された雑誌『生活学校』の名称としても知られるが、この雑誌を編集していた野村芳兵衛と戸塚廉が教師を務めていた「池袋児童の村小学校」での実践を支える教育思想を指すとも考えられ、野村と戸塚の著作にも頻繁に登場する表現である。この特論では、野村と戸塚の著作を中心に「生活学校」という概念を検討し、日本の新教育運動における位置づけを行いたい。

成績評価の基準＝授業態度（30%）、発表内容（30%）、最終レポート（40%）

教科書＝『生活学校』（復刻版、日本読書刊行会、1983年、全13巻、別冊1巻）

参考文献＝適宜授業内で紹介する。

教科書以外に必要な教材費用＝特になし。

履修にあたっての留意事項＝先行研究や関連史料にも目を配り、自らの研究テーマとも結び合わせながら、史料の検討を行うこと。オンライン授業に移行した場合は同時双方向型授業となります（Zoom と和光ポータルを併用）。

M322 教育実践史演習 2単位 秋セメスター

担当＝大西 公恵

テーマと到達目標＝日本の学校における教育評価の諸実践について取り上げ、教育における教育評価の意義、評価をめぐる現代的課題について検討する。学力論・評価論に関する基礎的な理論についての理解を深めるとともに、今日の評価を巡る研究動向について押さえた上で、教育評価のあり方について検討する。

概要＝文献講読を中心に授業を進めていく。まず、教育評価の理論と実践に関する研究動向を押さえた上で、歴史的な教育実践を取り上げて教育評価の観点から検討、議論を行う。検討する教育実践は、受講者の関心に応じて選定する。

成績評価の基準＝報告およびレポートにより総合的に評価する。

教科書＝西岡加名恵・石井英真・田中耕治編『新しい教育評価入門』有斐閣、2015／田中耕治『教育評価研究の回顧と展望』日本標準、2017／日本教育方法学会編『学習指導要領の改訂に関する教育方法学的検討―「資質・能力」と「教科の本質」をめぐる―』図書文化社、2017／松下佳代編著『〈新しい能力〉は教育を変えるか―学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房、2010、ほか。初回授業で指示する。

履修にあたっての留意事項＝この授業は基本的に学内での対面講義とするが、状況によっては遠隔授業（Zoom を使用した同時双方向型）を行う。具体的な授業方法・自宅学習については、初回授業時に説明する。

M323 教育思想史演習 2単位 秋セメスター

担当＝辻 直人

テーマと到達目標＝テーマは教育実践における「生活」概念の検討である。日本の教育者による教育実践記録や彼等の文献を分析し、彼等の「生活」概念を分析し明らかにする。到達目標は、受講生がそれぞれ取り上げる教育者の思想を分析することができること。また、その思想分析を「生活」を軸に考察してまとめることができること。

概要＝この演習では、新教育運動を支えた思想の整理を行うと共に、特に重要な柱である「生活」概念についての検討を行う。戦前の新教育を支えた教育者たちとして、パーカー・ストヤデューイ、日本においては沢柳政太郎、赤井米吉、羽仁もと子、野口援太郎、野村芳兵衛など、戦後にも東井義雄、若狭蔵之助、金森俊朗などといった実践家たちがおり、彼らの教育実践とその理念を綴った文献が多数ある。また戦後は青年を対象とした生活記録運動も一時活発に展開された。この演習ではこうした文献から、受講生の関心も考慮しつつ、いくつかを講読した上で、思想の分析を行うこととする。

成績評価の基準＝各回課題（50％）、最終レポート（50％）

教科書＝必要文献は授業内で配布する。

参考文献＝適時授業内で紹介する。

教科書以外に必要な教材費用＝特になし。

履修にあたっての留意事項＝教育者の思想を多角的に分析するように、多くの文献に実際に当たりながら考察すること。オンライン授業に移行した場合は同時双方向型授業となります（Zoom と和光ポータルを併用）。

M331 生涯学習実践論 2単位 秋semester

担当 = 岩本 陽児

テーマと到達目標 = 社会教育・生涯学習およびNPO等の現場からのフィードバックにもとづきながら、ワークショップ形式で実践的な課題の解決に必要とされるスキルの修得を目指します。情報収集、会議の進行と議事録の作成、広報、教育、キャンペーン活動等の諸場面での経験を持ち寄り、検討します。邦文・英文の文献を使用します。受講学生の要望に応じ、内容を調整することもあり得ます。

概要 = よりよい実践に求められるものとは何か、その条件をとともに探りましょう。初回の授業で、今後の進め方と発表の分担等について相談。当初の数回は、担当教員によるプレゼンテーションをもとに、討議を進めます。その後は、受講生が生涯学習の現場から各自持ち寄った情報をもとに、報告と全員による討議を行います。英語を含めた情報リテラシー能力向上のためのインターネット活用法についても、具体例に即しながら習熟していきます。

成績評価の基準 = 遅刻・欠席をしない。主体的に学ぶ。学期末に8000字程度のレポートを提出する。

教科書 = ありません。

参考文献 = 授業中に指示します。

教科書以外に必要な教材費用 = 学外に出かけることがあれば、交通費などは自己負担となります。

履修にあたっての留意事項 = 学期第一週の授業時に出席できなかった場合には、必ず第二週の授業日より前にiwamoto@wako.ac.jpに連絡すること(授業名を標題とする)。不明な点は必ず相談するように。なお、新型コロナの感染拡大状況いかによってはsemester途中でオンライン授業に切り替えなくてはならない可能性もあるが、その場合の授業形態については、受講生と相談して決めたいと考えている。春semesterの「生涯学習論」を事前に受講しておくことを勧めます。

《現代経済・ビジネスコース》**M403 財政学特論 2単位 春semester**

担当 = 半谷 俊彦

テーマと到達目標 = 財政とは、政府が活動するための資金を調達し、管理することをいう。財政制度と財政政策についてあるべき姿を考え、日本の財政状況を踏まえた上で、今後の財政の在り方について考える力を身に着ける。

概要 = 主な授業内容は以下の通り。1. 日本の財政状況、2. 予算制度の在り方、3. 日本の予算制度、4. 租税制度の在り方、5. 日本の租税制度、6. 公債制度の在り方、7. 日本の公債制度、8. 地方財政制度の有高、9. 日本の地方財政制度。受講生が予習に基づいて発表する形式で進める。

成績評価の基準 = 毎回の授業で課題の提出を求め、その目標達成度により評価する。

教科書 = 受講生と相談の上で決定する。

履修にあたっての留意事項 = オンライン授業へ移行した場合は、同時双方向型で授業を実施する (Zoom と和光ポータルを併用)。

M404 財政学演習 2単位 秋semester

担当 = 半谷 俊彦

テーマと到達目標 = 財政を巡る諸問題について議論し、理解を深める。

概要 = 学生による研究発表と議論を通じて授業を進める。取り上げる論題は以下の通り。1. 積極財政の正当性、2. 緊縮財政の正当性、3. プライマリーバランスの目標、4. 累積債務の解消、5. 消費税の問題点、6. 消費税における逆進性の解決策、7. 法人税の在り方、8. 所得税の再分配機能、10. 所得税

の問題点、11. 民営化の功罪、12. 三位一体改革の功罪、13. 地方交付税の改革、14. 地方分権の正当性、15. 農山村の財政問題。受講生が予習に基づいて発表する形式で進める。

成績評価の基準＝授業中の発表や討論の内容で評価します。

教科書＝受講生と相談の上で決定する。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業へ移行した場合は、同時双方向型で授業を実施する（Zoom と和光ポータルを併用）。

M405 国際経済特論 2単位 春semester

担当＝加藤 巖

テーマと到達目標＝本講義では、先進国と発展途上国の抱える現代的課題について解説する。それぞれの問題を解説しながら、その相互関係にも注意を払っていく。講義では、解説に引き続き、受講者との議論を行う。議論を通して、受講者各自の研究テーマに関する分析を深めてもらいたい。

概要＝現代のグローバル社会では様々な課題が指摘される。先進国では急速に進む少子高齢化により、将来世代の負担の増大が懸念されている。一方、発展途上国では経済成長に伴う所得格差や自然破壊が問題視されている。一つ一つの課題はそれぞれの特徴を示しながらも、互いに相関関係を持っている。古い枠組みだけでは対処できないことも多い。本講義では、現代のグローバル社会が抱える課題をできるだけ新しいデータや情報を利用して解説する。同時に、受講者と共に解決策を議論していく。

成績評価の基準＝講義への積極的な参加と期末試験の結果を総合的に判断して成績評価を行う。随時小テストも行い、その点数も成績評価に加味する。

教科書＝指定教科書はない。適時、レジュメおよび資料を配布する。

参考文献＝安田信之助（編著）『新国際経済論』八千代出版、佐久間信夫（編著）『現代の多国籍企業論』学文社

教科書以外に必要な教材費用＝和光ポータルの利用方法に習熟しておくこと。

履修にあたっての留意事項＝（１）授業の連絡事項は掲示板、和光ポータル、和光大学メールのいずれかでを行う。（２）資料配布には印刷物配布ないしは和光ポータルの＜授業資料＞機能を使う。（３）対面授業を予定しているが、もし、オンライン授業に移行した場合には、同時双方向型授業（Zoom と和光ポータルを併用）とする。（４）自宅課題学習については授業期間中に指示する。

M406 国際経済演習 2単位 秋semester

担当＝加藤 巖

テーマと到達目標＝本科目は演習科目である。そこで、受講者の能動的な授業参加を求める。各参加者には複数回にわたるプレゼンテーションを求める。各受講者のプレゼンテーションを受けて、受講者同士でも議論を進めていく。また、海外経験豊富な外部スピーカーも招き、お話を伺う予定である。

概要＝現代のグローバル社会が抱える様々な課題について議論する。切り口は、世界経済、人口動態、環境問題を予定している。取り上げる地域は、日本はもちろんのこと、本授業担当者の調査地でもある東南アジアの事例を積極的に用いる。授業の進行とともに、受講者から関心の強いテーマを取り上げて議論していく。

成績評価の基準＝演習への積極的な参加とプレゼンテーションの結果を総合的に判断して成績評価を行う。随時小テストも行い、その点数も成績評価に加味する。

教科書＝指定教科書はない。適時、レジュメおよび資料を配布する。

教科書以外に必要な教材費用＝個別指導を Zoom などで行う可能性がある。そこで、安定的なネット環境の

確保が望ましい。

履修にあたっての留意事項 = (1) 授業の連絡事項は掲示板、和光ポータル、和光大学メールのいずれかで行う。(2) 資料配布には印刷物配布ないしは和光ポータルの＜授業資料＞機能を使う。(3) 対面授業を予定しているが、もし、オンライン授業に移行した場合には、同時双方向型授業（Zoom と和光ポータルを併用）とする。(4) 自宅課題学習については授業期間中に指示する。(5) 受講者へ研究課題に関するプレゼンテーション（報告）を求める。(6) 受講者の希望があれば、英語を使用してのプレゼンテーションを認める。

M409 環境経済学特論 2単位 春semester

担当 = 清水 雅貴

テーマと到達目標 = 日々、我々が直面する環境問題について、経済学アプローチから読み解くことを本講義のテーマとする。具体的には、環境汚染や被害のコストをだれが支払うべきか、また、環境問題を発生させないための手段とはなにかを、経済理論を用いて分析できるようになることが到達目標である。

概要 = 環境経済学の理論と分析手法について、専門書の精読を通じて学修する。具体的には、資本主義と環境問題、費用便益分析、市場の失敗と外部費用、政府の失敗、コースの定理、コモンズの悲劇と資源管理、汚染者負担の原則、直接規制、環境税、排出量取引制度、固定価格買取制度、環境影響評価などについて学修する。

成績評価の基準 = 授業内での議論への参加・発言内容と、担当した精読報告内容、第5回、第10回、第15回で課す予定の「レポート」を総合して評価する（レポート未提出者は評価できないことをあらかじめ申し添える）。

教科書 = { 諸富徹、浅野耕太、森晶寿（2008）『環境経済学講義—持続可能な発展をめざして』 有斐閣ブックス【必携】、https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS00934815 }

参考文献 = { 植田和弘（1996）『環境経済学（現代経済学入門）』 岩波書店、https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS00803667 } 宮本憲一（2007）『環境経済学 新版』 岩波書店、https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS00923650 } 浜本光紹（2017）『環境経済学入門講義 [改訂版]』 創成社、https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS01099562 } そのほか邦語、外国語文献を適宜指示する。

履修にあたっての留意事項 = 履修にあたっては、学部レベル「経済学（基礎）」および「環境経済学（入門）」を修得している、あるいは、{ 日引、有村（2002）『入門 環境経済学—環境問題解決へのアプローチ』、https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS00581265 } または、{ 八木、関（2019）『地域から考える環境と経済：アクティブな環境経済学入門』、https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS01121315 } を精読し内容を理解していることが望ましい。オンライン授業に移行した場合、この授業は以下の通りで実施します。a：この授業は同時双方向型授業となります（Zoom と和光ポータルを併用）。b：自宅課題学習については授業内で指示します。

M410 環境経済学演習 2単位 秋semester

担当 = 清水 雅貴

テーマと到達目標 = 日々、我々が直面する環境問題について、経済学アプローチから読み解くことを本演習のテーマとする。具体的には、環境汚染や被害のコストをだれが支払うべきか、また、環境問題を発生させないための手段とはなにかを、経済理論を用いてディスカッション（議論・討論）できるようになることが到達目標である。

概要 = 環境経済学の理論と分析手法を用いて、環境問題によって発生する費用の負担方法や、未然に防ぐ手

段についてディスカッション（議論・討議）する。具体的には、毎回特定の環境問題（公害、酸性雨、気候変動、廃棄物、再生可能エネルギー、森林保全など）を取り上げ、加害者、被害者、政府、市民などそれぞれの立場から、発生する費用を誰が負担すべきか、どのような環境政策手段を選択するべきかについて、国内外の研究論文を参照しながら分析結果を発表、討議する。

成績評価の基準＝すべての演習への出席（事前連絡のあった特別事情と認める欠席を除く）と、担当したテーマ分析の報告内容、議論への参加・発言内容と、第15回で課す予定の「レポート」によって評価する（レポート未提出者は評価できないことをあらかじめ申し添える）。

教科書＝{諸富、浅野、森（2008）『環境経済学講義—持続可能な発展をめざして』 有斐閣ブックス、
https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS00934815}

参考文献＝{植田和弘（1996）『環境経済学（現代経済学入門）』 岩波書店、https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS00803667}{宮本憲一（2007）『環境経済学 新版』 岩波書店、https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS00923650}{浜本光紹（2017）『環境経済学入門講義〔改訂版〕』創成社、
https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS01099562} そのほか邦語、外国語文献を適宜指示する。

履修にあたっての留意事項＝履修にあたっては、春セメスター（前期）開講の「環境経済学特論」を修得済みであることが望ましい。また、学部レベル「経済学（基礎）」および「環境経済学（入門）」を修得している、あるいは、{日引、有村（2002）『入門 環境経済学—環境問題解決へのアプローチ』、https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS00581265} または {八木、関（2019）『地域から考える環境と経済：アクティブな環境経済学入門』、https://libweb.wako.ac.jp/opac/opac_link/bibid/SS01121315} を精読し内容を理解していることが望ましい。オンライン授業に移行した場合、この授業は以下の通りで実施します。a：この授業は同時双方向型授業となります（Zoom と和光ポータルを併用）。b：自宅課題学習については授業内で指示します。

M411 比較法制度特論 2単位 春セメスター

担当＝徳永 貴志

テーマと到達目標＝国内外で生起する重要な法制度に関する問題の所在を見出し、それらを論理的に整理し、そして、それらの問題にどう対処すればよいか、あるいはどのような道筋でその問題を解決することができるのかについて、自分なりの方法論を組み立てることができるようになることを目指す。

概要＝各国統治制度の特殊性だけでなく、それらの共通性・普遍性をより深く掘り下げて考察するため、憲法だけでなく、選挙制度、議院議事規則、行政法規といった憲法に附属する法令や、それらの法令に関する分析や解説がなされた外国語（特にフランス語）の文献を輪読し、その内容について議論する。

成績評価の基準＝出席、報告内容、発言内容等により総合的に評価する。

教科書＝特に指定しない。授業の際に適宜紹介する。

参考文献＝中村紘一ほか編訳『フランス法律用語辞典』（三省堂）

教科書以外に必要な教材費用＝出版社は特に指定しないが、仏和辞典を1冊用意すること。

履修にあたっての留意事項＝フランス語文献を輪読するため、フランス語の文章をある程度読める必要がある。オンライン授業に移行した場合、この授業は以下の通り実施する。・同時双方向型授業とする（Zoom と和光ポータルを併用）。・自宅課題学習については授業期間中に指示する。

M412 比較法制度演習 2単位 秋セメスター

担当＝徳永 貴志

テーマと到達目標＝国内外で生起する重要な法制度に関する問題の所在を見出し、それらを論理的に整理し、

そして、それらの問題にどう対処すればよいか、あるいはどのような道筋でその問題を解決することができるのかについて、自分なりの方法論を組み立てることができるようになることを目指す。

概要＝各国統治制度の特殊性だけでなく、それらの共通性・普遍性をより深く掘り下げて考察するため、憲法だけでなく、選挙制度、議院議事規則、行政法規といった憲法に附属する法令や、それらの法令に関する分析や解説がなされた外国語（特にフランス語）の文献を輪読し、その内容について議論する。

成績評価の基準＝出席、報告内容、発言内容等により総合的に評価する。

教科書＝特に指定しない。授業の際に適宜紹介する。

参考文献＝中村紘一ほか編訳『フランス法律用語辞典』（三省堂）

教科書以外に必要な教材費用＝出版社は指定しないが、仏和辞典を1冊用意すること。

履修にあたっての留意事項＝フランス語文献を輪読するため、フランス語の文章をある程度読める必要がある。オンライン授業に移行した場合、この授業は以下の通り実施する。・同時双方向型授業とする（Zoomと和光ポータルを併用）。・自宅課題学習については授業期間中に指示する。

M431 経営管理特論 2単位 春semester

担当＝福田 好裕

テーマと到達目標＝マネジメントの中核課題である企業組織の戦略行動の解明を目指す。修士論文を作成するのに必要な理論解釈とケース分析の手法を身につける。当該分野の研究は英語論文によるものも多く、抵抗なく英語論文にも接することができるようにする。

概要＝この科目においては、マネジメントの基礎的体系を理解・修得済みとして、経営戦略のパースペクティブ、組織と戦略の相互行為過程、経営組織のデザイン、チーム・マネジメント、モチベーションとリーダーシップなどの内容を含んだ経営管理論の中心的領域である経営戦略・経営組織における本質的な課題を考察する。

成績評価の基準＝出席、報告等から総合的に評価する。

教科書＝教科書：服部泰宏（2020）『組織行動論の考え方・使い方』有斐閣 I S B N 978-4-641-16566-3
本体3,900円＋税その他、文献の詳細は、開講時に指示する。

参考文献＝適宜指示する。

履修にあたっての留意事項＝・毎回受講者全員が課題提出後、討議を行う。・課題の提出や資料の配布は、和光ポータル上で行うので、授業の際にはパソコンやタブレット等を毎回携帯すること。

M432 経営管理演習 2単位 秋semester

担当＝福田 好裕

テーマと到達目標＝春semesterの特論を基にして、受講生自らテーマを設定してマネジメントに関する課題を探究する。修士論文作成のための理論的実証的基礎を身につける。

概要＝受講生は、各自のテーマで研究したものを輪番で発表し、発表内容について受講生同士で議論する。同時に担当教員がコメントを加え次回の発表につなげるようにしていく。

成績評価の基準＝レポート、討論、出席などによる平常点の総合評価

教科書＝適宜支持する。

参考文献＝必要に応じて適宜支持する。

履修にあたっての留意事項＝発表・ディスカッションが授業の中心。課題の提出や資料の配布は、和光ポータル上で行うので、授業の際にはパソコンやタブレット等を毎回携帯すること。

M433 マーケティング特論 2単位 春semester

担当=丸山 一彦

テーマと到達目標=現在世の中にはヒット商品（サービスも含む）よりも失敗商品の方が多く、技術的に優れていても売れないという課題をかかえる企業が多い。そして商品づくりの結果は、大きく企業に影響し、企業の未来を大きく変えてしまう重要事項である。そこでプロダクト・マーケティングに焦点をあて、価値創りににおけるマーケティング理論と技法を巡る諸問題を専門的に研究する。

概要=マーケティング論の父として知られる Philip Kotler、ブランド論の提唱者として知られる David Aaker、ラグジュアリー論の大家として知られる Kapferer の著書を輪読し、価値創りににおけるマーケティング理論と技法を巡る諸問題を探究する。約400頁程度の書籍を毎回資料にまとめ、発表し、問題点や課題を検討していく。15回の講義の中で8冊を輪読発表し、15回目に、問題点や課題のまとめを提出する。

成績評価の基準=輪読発表内容、輪読時の配布資料、問題点・課題のまとめ資料にて成績評価を行う。

教科書=・David A. Aaker:『ブランド・エクイティ戦略 (4104円)』、『ブランド優位の戦略 (4752円)』、『ブランド・ポートフォリオ戦略 (4104円)』の計3冊・Philip Kotler:『コトラーの戦略的マーケティング (2376円)』、『市場戦略論 (2376円)』、『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版 (9180円)』の計3冊・Jean-Noël Kapferer:『ラグジュアリー戦略 (5184円)』、『カプフェレ教授のラグジュアリー論 (3024円)』の計2冊。

参考文献=全てを列挙することは紙面の関係でできないが、Aaker, Kotler, Kapferer に関連する他の文献も相当数読み込まないと、指定教科書の内容を確実に理解することは難しい。そのため、指定教科書以外の参考文献も相当数読むことになる。参考文献は授業の中で説明する。

履修にあたっての留意事項=・学部レベルのマーケティング論の知識を有することを必須とする。そのため、履修に対しては初回にマーケティング理論の知識を有しているか確認テストを行い、受講の可否を検討する。・大学院レベルの輪読授業のため、授業以外の時間もほぼ毎日テキストを読み、発表資料を作り上げる時間と努力が必要である。・受講者の修士論文の研究テーマと本授業の内容が関連することが望ましい。
※新型コロナウイルス感染症が拡大し、オンライン授業に移行した場合は、「同時双方向型 Zoom」を用いて授業を行います（機材も含め、この授業展開に対応できる準備をしてください）。

M434 マーケティング演習 2単位 秋semester

担当=丸山 一彦

テーマと到達目標=マーケティング特論で検討した、価値創りににおけるマーケティング理論と技法を巡る諸問題から、各受講者の興味・関心のあるテーマを抽出し、研究を行う。

概要=15回の講義の中で、前半の10回は、各受講者の設定したテーマについて、毎回研究成果を発表し、議論を行っていく。後半の5回は研究成果をまとめる論文作成を行っていく。

成績評価の基準=研究成果の発表内容と論文にて、成績評価を行う。

教科書=授業内で紹介する。

履修にあたっての留意事項=・マーケティング特論を単位認定できた者。・授業以外の時間もほぼ毎日研究し、発表資料と論文を作り上げる時間と努力が必要である。・履修は、研究テーマ、研究内容の概要、研究計画を提出してもらい、受講者と面談をしっかりと行った上で判断する。※新型コロナウイルス感染症が拡大し、オンライン授業に移行した場合は、「同時双方向型 Zoom」を用いて授業を行います（機材も含め、この授業展開に対応できる準備をしてください）。

M439 アジアビジネス特論 2単位 春semester

担当＝鈴木 岩行

テーマと到達目標＝アジア諸国の企業経営・ビジネスと現地に進出している日本企業の経営の現状近年日本企業の海外、特にアジア諸国への進出が激増しており、それに伴い日本企業はアジア現地で様々な課題に直面している。アジア諸国の企業経営・ビジネスの現状と進出している日本企業の課題を各国ごとに理解することを目標とする。

概要＝近年アジア地域は急速に経済成長を遂げ、世界経済的に見ても大きな地位を占めるようになった。日本企業が多く進出しており、歴史的・政治的に日本との関係が深い地域である。本授業では、アジア各国（東アジア諸国、ASEAN諸国、南アジア諸国）の企業経営の実態と当該国での日本企業の経営状況を講義する。

成績評価の基準＝毎回の授業時に提出するコメントペーパーで評価する。

教科書＝開講時に指示する。

参考文献＝適時指示する。

教科書以外に必要な教材費用＝特になし。

履修にあたっての留意事項＝対面授業を行う予定であるが、オンライン授業となった場合は、動画配信型で行う予定である。

M440 アジアビジネス演習 2単位 秋semester

担当＝鈴木 岩行

テーマと到達目標＝アジア諸国の企業経営・ビジネスの現状と現地に進出している日本企業の経営課題近年日本企業の海外、特にアジア諸国への進出が激増しており、それに伴い日本企業はアジア現地で様々な課題に直面している。現地の状況を勘案しながら、日本企業の経営課題をいかに解決すべきかを考察できるようにすることを目標とする。

概要＝アジア地域は近年急速に経済成長を遂げ、世界経済的に見ても大きな地位を占めるようになっている。日本企業も多く進出しており、日本との関係も深い地域である。本演習では、まずアジア諸国の企業経営・ビジネスの現状について講義する。次に、学生はそこから自分の興味ある国を選び、その国の企業がその国に進出している日本企業または第三国企業に関して調べて発表する。

成績評価の基準＝毎回授業時のコメントペーパーと各自の発表

教科書＝開講時に指示する。

参考文献＝適時指示する。

教科書以外に必要な教材費用＝特になし。

履修にあたっての留意事項＝対面授業を行う予定であるが、オンライン授業となった場合は、同時双方向型で行う予定である。

M441 経営情報システム特論 2単位 春semester

担当＝小林 稔

テーマと到達目標＝最先端の情報通信技術（ICT）の実態を把握するとともに、Pythonのプログラミングを通して人工知能について学習する。また、情報を高度に活用した組織マネジメントや新たなビジネスモデルについて考究する。

概要＝以下の内容について実習形式で授業を行う。

Pythonのプログラミング

Pythonと人工知能

人工知能の経済社会への応用

成績評価の基準＝履修条件：情報通信技術に興味を持って学習できること 成績評価の基準：授業内に必ず数回の発表を行うこと。成績は、出席、発表、レポートなどの課題を総合して決定する。

教科書＝「現代社会の情報・通信マネジメント」舩富順久、廣松毅、小林稔 中央経済社、2009年10月。ISBN 978-4-502-67160-9 その他は授業時間内に指示する。参考文献授業時間内に指示する。

参考文献＝授業の中で指定する。

教科書以外に必要な教材費用＝授業の中で指定する。オンライン授業となった場合は、実習用のPCとPythonの環境構築が必要である。詳細は授業で説明する。

履修にあたっての留意事項＝まじめに出席すること オンライン授業に移行した場合は、資料配信型を基本とするが、動画配信型、同時双方向型も必要に応じて実施する予定である。動画配信型はYouTube、同時双方向型はZoomを使用する。

M442 経営情報システム演習 2単位 秋セメスター

担当＝小林 稔

テーマと到達目標＝経営情報に関する各種の分析手法について演習形式で学習する。コンピュータ演習室で、統計処理パッケージRを使用して、様々な経営情報の分析手法について研究する。

概要＝統計学の基礎、線形計画法、各種のシミュレーションなど経営情報の多様な分析手法を統計パッケージRを使用して実習を通して学習する。また、得られた分析結果を検討して新たな知見を見出すことを練習する。授業の進め方：受講生は、各自が担当する項目について調査・研究を行い、授業内に発表を行う。なお、各自が担当する項目は、授業計画に記されている項目の中から授業時間内に決定する。

成績評価の基準＝履修条件：経営情報の分析に興味を持って学習できること 成績評価の基準：授業内に出席する課題を必ず提出すること。成績は、出席、授業内での課題、レポートなどを総合して決定する。

教科書＝「現代社会の情報・通信マネジメント」舩富順久、廣松毅、小林稔 中央経済社、2009年10月。ISBN 978-4-502-67160-9 (2,800円(税別)) その他は授業時間内に指示する。

参考文献＝授業中に指定する。

教科書以外に必要な教材費用＝オンライン授業となった場合には、各自で実習を行うためのPCを用意する必要があります。その他、Microsoft Office が必要です。また、RおよびRStudioのインストールが必要です。初回の授業で方法などを解説します。

履修にあたっての留意事項＝PCの実習を中心とした授業です。必ず出席して課題の提出を行うこと。オンライン授業の方法としては、資料配信型を基本とするが、動画配信型、同時双方向型も必要に応じて実施する予定である。動画配信型はYouTube、同時双方向型はZoomを使用する。

M445 国際協力実践特論 2単位 春セメスター

担当＝バンバン ルディアント

テーマと到達目標＝本授業は、開発途上国の開発問題を取り上げながら国際協力を理解する。持続可能な開発などが本当に実現するのか政府開発援助(ODA)問題などから検討していく。授業は一方的な授業だけではなく、学生参加型地域開発のモデル事業も実施する方針。状況によってオンラインでも受講できる。

概要＝国際協力について実践から学ぶ授業。開発途上国の問題、それに対する先進国からの援助の実態を把握できる。そして、自分の住んでいる地域の周辺にどのような問題が存在するかというのを見つけ出す。学生達の積極的な参加も期待される。他分野で広げる知識を目標とされる。

成績評価の基準＝課題提出状況、発表及びレポートによって最終的な評価を行う。

教科書＝特になし。

参考文献＝授業中に提示する。

教科書以外に必要な教材費用＝なし。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合、この授業は以下の通り実施します。a. 同時双方向型授業となります（Zoom と和光ポータルを併用） b. 自宅課題学習については授業期間中に指示します。

M446 国際協力実践演習 2単位 秋semester

担当＝バンバン ルディアント

テーマと到達目標＝国際協力の実態を身に付くための授業。国際機関への就職なども支援する。授業の内容はディスカッションなどで積極的な参加が求められ、発表なども実施する。また参考文献の他に、データベースの構築の実践も取り入れる。状況によってオンラインでも受講できる。

概要＝国際協力の現場から知識を得るために、映像なども用いる。そして、国際機関訪問、実際のプロジェクト結成の体験も取り入れる。

成績評価の基準＝課題提出状況、発表及びレポートによって最終的な評価を行う。

教科書＝特になし。

参考文献＝授業中に開示する。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合、この授業は以下の通り実施します。a. 同時双方向型授業となります（Zoom と和光ポータルを併用） b. 自宅課題学習については授業期間中に指示します。

M449 経営学特論 2単位 春semester

担当＝當間 政義

テーマと到達目標＝「経営学」の基礎的な理論を理解することを本講義の目標とします。受講生に応じて英語で行う場合もあるため、授業の計画は英語で表記します。

概要＝経営学の基礎となる理論のポイントを理解することを目標とします。

成績評価の基準＝出席および平常点およびレポートで総合的に評価します。

教科書＝開講時に指示します。

参考文献＝適時指示します。

教科書以外に必要な教材費用＝特になし。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合は同時双方向型授業（Zoom と和光ポータルを併用）となります。基本的に、毎回、出席することが前提です。欠席の際には事前連絡をとり許可を得てください。また、質問や相談がある場合には、オフィスアワー（火・水・金曜日のお昼休み時間、研究室）が設けられていますのでその時間を利用してください。事前にメール＜tomaseminar2019wako@yahoo.co.jp＞等で、連絡をとっておくとスムーズです。

M450 経営学演習 2単位 秋semester

担当＝當間 政義

テーマと到達目標＝「経営学」の基礎的な理論を理解すること、および自ら説明できることを本講義の目標とします。受講生に応じて英語で行う場合もあるため、授業の計画は英語で表記します。

概要＝企業論分野、経営戦略論分野、経営管理論分野、経営組織論分野において、理論の要点を理解するとともに、それぞれの論点と現代的な課題を議論します。授業は、受講生自ら発表を中心に進めることが基

本的なスタンスとします。

成績評価の基準＝出席および平常点およびレポートをもって、総合的に評価する。

教科書＝開講時に適時指示します。

参考文献＝適時指示します。

教科書以外に必要な教材費用＝適時指示します。

履修にあたっての留意事項＝オンライン授業に移行した場合は同時双方向型授業（Zoom と和光ポータルを併用）となります。基本的に、毎回、出席することが前提です。欠席の際には事前連絡をとり許可を得てください。また、質問や相談がある場合には、オフィスアワー（火・水・金曜日のお昼休み時間、研究室）が設けられていますのでその時間を利用してください。事前にメール＜tomaseminar2019wako@yahoo.co.jp＞等で、連絡をとっておくとスムーズです。

17 修士論文および修士論文要旨の作成・提出について

1 修士論文の体裁について

修士論文は、以下の要領に従い、計4部作成し、締切りまでに教学支援室に提出してください。

うち1部が正本、残り3部が副本となります。正本は図書・情報館に収蔵されます。副本のうち1部が主査用、2部が副査用となります。

下記をよく読み、受領票の記入と貼付まで含めて、締切りまでに体裁を整えてください。締切りまでに指定の体裁が整っていないものは、提出を受け付けられません。

- (1) 氏名は学生証記載の表記としてください。
- (2) 用紙はA4判を使用してください。
- (3) プリンターで印字する場合は、左側の余白を4cm以上あげ、12ポイントを標準としてください。手書きの場合は指導教員と相談してください。
- (4) 4部とも2穴バインダーファイルで仮綴してください。レバー押さえバインダーは使わないでください。
- (5) ファイルを開いた扉ページおよびファイルの背表紙には下記の情報を記載してください。

2021年度 修 士 論 文 〈題目〉 〈サブタイトル〉 社会文化総合研究科 〈専攻名〉 〈コース名〉 〈学籍番号〉 〈氏名〉	21 〈主査名〉 〈サブタイトル〉 〈学籍番号〉 〈氏名〉	←提出年度の下2桁を記入
---	---	--------------

- (6) 修士論文の要旨は、本体に準じた体裁とし、1ページで作成してください。なお、使用する言語は、日本語または英語とします。両方の言語で要旨を作成する場合は、それぞれ1ページにまとめてください。
- (7) ファイルに扉ページ、要旨、目次、本文の順に綴じて提出してください。
- (8) 教学支援室で受領票を受け取り、必要事項を記入の上、副本3部のうちの1部のファイルの表に貼ってください。以後これが、主査用となります。
- (9) 題目はあらかじめ届け出たものと相違してはなりません。届け出た題目と受領票・背表紙・扉ページの題目が一致しない場合は、提出を受け付けられません。ただし、サブタイトルについては、指導教員と相談の上で追加、削除、変更してもかまいません。

2 修士論文の提出に伴う手続きについて

正本を図書・情報館に収蔵すると、図書・情報館では、それを安全かつ良好に保管するとともに、執筆者の許諾を得た上で閲覧・複写等の利用提供を行います。

そのための手続きとして、論文提出時に教学支援室窓口で「修士論文閲覧・複写許諾書」の記入が必要となります。

修士論文提出の際は、必ず印鑑を持参してください。

18 教職課程(專修免許) 授業一覧表

2021年度 社会文化総合研究科 教職課程授業一覧表

対象＝2019年度以降入学生用

〈中学校教諭専修免許状 社会科〉		
単位取得年度の専修免許課程カリキュラム表（中学校教諭免許状 社会科）に記載されている科目から合計24単位以上を取得すること。		
免許法施行規則に定める科目区分	科目〔授業〕名	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	ジェンダー関係論	2単位
	ジェンダー関係論演習	2単位
	生涯学習論	2単位
	生涯学習実践論	2単位
	南アジアの宗教と文化	2単位
	南アジアの宗教と文化演習	2単位
	民族関係論	2単位
	経済学史特論	2単位
	経済学史演習	2単位
	社会政策特論	2単位
	社会政策演習	2単位
	生態文化論	2単位
	生態文化論演習	2単位
	都市景観論	2単位
	都市景観論演習	2単位
	エコソールリズム論	2単位
	東西文化交渉史	2単位
	東西文化交渉史演習	2単位
	福祉社会論	2単位
教育の基礎的理解に関する科目	発達臨床心理学	2単位
	教育心理学	2単位
	教育心理学演習	2単位
	発達臨床支援論	2単位
	青年心理学特論	2単位
	教育経営論	2単位
	教育実践史	2単位
	学校心理学特論	2単位
	教育実践史演習	2単位

〈高等学校教諭専修免許状 地理歴史科〉		
単位取得年度の専修免許課程カリキュラム表（高等学校教諭専修免許状 地理歴史科）に記載されている科目から合計24単位以上を取得すること。		
免許法施行規則に定める科目区分	科目〔授業〕名	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	南アジアの宗教と文化	2単位
	南アジアの宗教と文化演習	2単位
	経済学史特論	2単位
	経済学史演習	2単位
	都市景観論	2単位
	都市景観論演習	2単位
	エコソールリズム論	2単位
	東西文化交渉史	2単位
	東西文化交渉史演習	2単位
	発達臨床心理学	2単位
教育の基礎的理解に関する科目	教育心理学	2単位
	教育心理学演習	2単位
	発達臨床支援論	2単位
	青年心理学特論	2単位
	教育経営論	2単位
	教育実践史	2単位
	学校心理学特論	2単位
	教育実践史演習	2単位

〈高等学校教諭専修免許状 公民科〉		
単位取得年度の専修免許課程カリキュラム表（高等学校教諭専修免許状 公民科）に記載されている科目から合計24単位以上を取得すること。		
免許法施行規則に定める科目区分	科目〔授業〕名	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	ジェンダー関係論	2単位
	ジェンダー関係論演習	2単位
	生涯学習論	2単位
	生涯学習実践論	2単位
	民族関係論	2単位
	社会政策特論	2単位
	社会政策演習	2単位
	生態文化論	2単位
	生態文化論演習	2単位
	福祉社会論	2単位
教育の基礎的理解に関する科目	発達臨床心理学	2単位
	教育心理学	2単位
	教育心理学演習	2単位
	発達臨床支援論	2単位
	青年心理学特論	2単位
	教育経営論	2単位
	教育実践史	2単位
	学校心理学特論	2単位
	教育実践史演習	2単位

2021年度 社会文化総合研究科 教職課程授業一覧表

対象 = 2018年度以前入学生用

〈中学校教諭専修免許状 社会科〉		
単位取得年度の専修免許課程カリキュラム表（中学校教諭免許状 社会科）に記載されている科目から合計24単位以上を取得すること。		
免許法施行規則に定める科目区分	科目〔授業〕名	単位数
教科に関する科目	ジェンダー関係論	2単位
	ジェンダー関係論演習	2単位
	生涯学習論	2単位
	生涯学習実践論	2単位
	南アジアの宗教と文化	2単位
	南アジアの宗教と文化演習	2単位
	民族関係論	2単位
	経済学史特論	2単位
	経済学史演習	2単位
	社会政策特論	2単位
	社会政策演習	2単位
	生態文化論	2単位
	生態文化論演習	2単位
	都市景観論	2単位
	都市景観論演習	2単位
	エコツーリズム論	2単位
	東西文化交渉史	2単位
	東西文化交渉史演習	2単位
	福祉社会論	2単位
教職に関する科目	発達臨床心理学	2単位
	教育心理学	2単位
	教育心理学演習	2単位
	発達臨床支援論	2単位
	青年心理学特論	2単位
	教育経営論	2単位
	教育実践史	2単位
	学校心理学特論	2単位
	教育実践史演習	2単位

〈高等学校教諭専修免許状 地理歴史科〉		
単位取得年度の専修免許課程カリキュラム表（高等学校教諭専修免許状 地理歴史科）に記載されている科目から合計24単位以上を取得すること。		
免許法施行規則に定める科目区分	科目〔授業〕名	単位数
教科に関する科目	南アジアの宗教と文化	2単位
	南アジアの宗教と文化演習	2単位
	経済学史特論	2単位
	経済学史演習	2単位
	都市景観論	2単位
	都市景観論演習	2単位
	エコツーリズム論	2単位
	東西文化交渉史	2単位
	東西文化交渉史演習	2単位
	発達臨床心理学	2単位
教職に関する科目	教育心理学	2単位
	教育心理学演習	2単位
	発達臨床支援論	2単位
	青年心理学特論	2単位
	教育経営論	2単位
	教育実践史	2単位
	学校心理学特論	2単位
	教育実践史演習	2単位

〈高等学校教諭専修免許状 公民科〉		
単位取得年度の専修免許課程カリキュラム表（高等学校教諭専修免許状 公民科）に記載されている科目から合計24単位以上を取得すること。		
免許法施行規則に定める科目区分	科目〔授業〕名	単位数
教科に関する科目	ジェンダー関係論	2単位
	ジェンダー関係論演習	2単位
	生涯学習論	2単位
	生涯学習実践論	2単位
	民族関係論	2単位
	社会政策特論	2単位
	社会政策演習	2単位
	生態文化論	2単位
	生態文化論演習	2単位
	福祉社会論	2単位
教職に関する科目	発達臨床心理学	2単位
	教育心理学	2単位
	教育心理学演習	2単位
	発達臨床支援論	2単位
	青年心理学特論	2単位
	教育経営論	2単位
	教育実践史	2単位
	学校心理学特論	2単位
	教育実践史演習	2単位

19 和光大学大学院学則 履修規程等

和光大学大学院学則 P 66

和光大学大学院履修規程 P 72

和光大学学位規程 P 74

和光大学大学院退学取扱規程
除籍取扱規程 P 76
休学・復学取扱規程

和光大学大学院再入学規程 P 78

和光大学大学院科目等履修生規程 P 79

和光大学大学院学則

第1章 総 則

第1節 目的および使命

- 第1条 本大学院は、教育基本法に則り、学術の理論と応用とを研究・教授すると共に、人文的・社会的教養と新時代の知見・技術とが高度に調和し統一した人間の育成をはかり、以って社会の発展と文化の進展に寄与することを目的とする。
2. 本大学院は、その教育研究水準の向上を図り、前項に掲げる目的および使命を達成するため、その教育研究活動等の状況について自ら点検し、評価を行うとともに、改善に努める。

第2節 大学院の構成

(研究科および課程)

- 第2条 本大学院につぎの研究科および専攻を設け、研究科に修士課程を置く。

社会文化総合研究科	社会文化論専攻	修士課程
	心理学専攻	修士課程

第3節 教 員 組 織

(教 員)

- 第3条 本大学院の授業および研究指導は、本学の大学院担当専任教員が行う。ただし、必要ある場合は、兼任講師または兼任講師が担当することができる。

第4節 運 営 組 織

(研究科委員会)

- 第4条 本大学院に研究科委員会を置く。
2. 研究科委員会は、研究科の専任教員をもって構成する。
3. 研究科に研究科委員長を置く。研究科委員長は、大学院担当専任教員の中から選出する。
4. 研究科委員長は、研究科委員会を招集し、その議長となる。
5. 研究科委員会は、学長が掌る次に掲げる事項について審議し、学長に意見を述べるものとする。
- ① 教育および研究に関すること。
 - ② 課程修了ならびに修士の学位に関すること。
 - ③ 学位論文の審査に関すること。
 - ④ 入学試験に関すること。
 - ⑤ 学生の入学・退学・修了等の身分に関すること。
 - ⑥ 学生の厚生補導および賞罰に関すること。
 - ⑦ 規則および規程等の改廃に関すること。
 - ⑧ 前各号に定めるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。
6. 研究科委員会は、前項に定めるもののほか、学長が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。
7. 研究科委員会に関する規則は、別にこれを定める。

第5節 学生定員

(学生定員)

- 第5条 本大学院の学生定員は次のとおりとする。

			入学定員	収容定員
社会文化総合研究科	社会文化論専攻	修士課程	10名	20名
	心理学専攻	修士課程	10名	20名

第2章 研 究 科 通 則

第1節 修業年限、学年、学期および休業日

(修業年限)

- 第6条 本大学院の修業年限は次のとおりとする。

2年課程生 4セメスター以上

3年課程生 6セメスター以上

4年課程生 8セメスター

各課程の在学期間は8セメスターを越えることができない。

2. 第24条に定める休学の期間は在学期間に算入しない。

(学 年)

第7条 学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

(学 期)

第8条 1年を2セメスターに区分する。

春セメスター 4月1日から9月30日まで

秋セメスター 10月1日から翌年3月31日まで

(休 業 日)

第9条 休業日については、和光大学学則の規定を準用する。

第2節 教育課程および履修基準・履修方法

(教育方法)

第10条 本大学院の教育は、授業科目の授業および学位論文の作成等に対する指導によって行うものとする。

(授業科目および単位数)

第11条 本大学院に開設する授業科目および単位数は、別に定める。

(履修基準)

第12条 本大学院の授業科目の履修基準は別表(2)のとおりとする。学生は、在学中に履修基準に定められた単位を修得しなければならない。

2. 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかによりまたはこれらの併用により行うものとする。

3. 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができるものとする。

4. 履修基準に定められた単位のうち、学生が本大学院に入学する以前の大学院において修得した単位および大学院設置基準第15条に規定する科目等履修生として修得した単位について、学長は、研究科委員会の議を経て、10単位を限度として換算認定できるものとする。

(課程修了の要件)

第13条 課程の修了要件は、大学院に4セメスター以上在学し、所定の授業科目について

30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査および最終試験に合格することとする。

ただし、3年課程生は6セメスター以上、4年課程生は8セメスター在学することとする。

2. 課程修了の認定についての細則は別にこれを定める。

(教育職員免許状の取得)

第14条 教育職員専修免許状の資格を取得する場合の教育課程および各授業科目ごとの単位数は別にこれを定める。

2. 大学院において取得できる教育職員専修免許状は次のとおりとする。

社会文化論専攻

社会(中学校専修)

地理歴史(高等学校専修)

公民(高等学校専修)

(履修方法)

第15条 授業科目の履修にあたっては、受講科目届を毎学年所定の期間内に所定の手続きを経て届け出るものとする。

2. 第1項に定める履修方法の細則は別に定める。

第3節 入学、転入学、休学、留学

(入学の時期)

第16条 入学の時期は学年の始めとする。ただし、研究科が特別の必要があり、かつ教育上支障がないと認めるときは、秋セメスターの始めに入学させることができる。

(入学の資格)

第17条 本大学院に入学することのできる者は、次の各号の1に該当する者とする。

① 大学を卒業した者

② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

④ 文部科学大臣の指定した者

⑤ その他大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学の許可)

第18条 学長は、入学志願者について、選考の上、研究科委員会の議を経て、入学を許可する。

(転入学)

第19条 他の大学院から転入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は、選考の上、研究科委員会の議を経て、相当年次に入学を許可することがある。

2. 第1項の規定により入学を許可された者が既に修得した単位数の取扱いについては、研究科委員会の議を経て学長が決定する。

(退学)

第20条 退学を希望する者は、その理由を明記し、保証人連署の上、学長に願い出て許可を受けなければならない。

(再入学)

第21条 退学者または除籍者が再入学を願い出た場合は、学長は、研究科委員会の議を経て相当年次に再入学を許可することがある。

(諭旨退学)

第22条 学生が次の各号に該当するときは、学長は、研究科委員会の議を経て退学させることができる。

① 正当な理由なく出席が常でない者

② 病気その他の理由によって修学の見込みがないと認められた者

(除籍)

第23条 学生が次の各号に該当するときは、学長は、研究科委員会の議を経て除籍することができる。

① 許可がなく授業料を滞納し、催告してもこれに応じない者

② 第6条に定める在学年限を超えた者

③ 第24条に定める休学期間を超えてなお復学できない者

(休学)

第24条 病気その他の理由により引き続き3か月以上修学することができないときは理由を明記し保証人連署の上、学長に願い出てその許可を得て休学することができる。

2. 休学期間は2セメスター以内とする。ただし、事情により引き続き休学することができる。

3. 休学は通算して4セメスターを超えることはできない。

(復学)

第25条 病気その他の理由により休学している者が復学を願い出たときは、学長の許可を得て復学することができる。

(留学)

第26条 国外留学など離学研修制度を利用して学外の研究を願い出た者については、研究科委員会の議を経て学長がこれを許可することができる。

2. 離学研修期間中の登録料については、別表(4)のとおりとする。

3. 第1項に定める国外留学など学外の研究に関する細則は、別に定める。

第4節 修了および学位

(修了)

第27条 大学院の課程を修了した者には、研究科委員会の議を経て、学長は、修了証書・学位記を授与する。

(学位)

第28条 大学院の課程を修了した者には、次の区分によって修士の学位を授与する。

社会文化総合研究科 社会文化論専攻 修士(学術)

心理学専攻 修士(学術)

2. 学位の授与に関し必要な事項は、別に定める。

第5節 入学検定料・入学金および授業料その他

(入学検定料)

第29条 入学試験を受けようとする者は、入学検定料を納めなければならない。

2. 入学検定料の額は、別表(3)の1のとおりとする。

(入学金)

第30条 入学を許可された者は、入学金を納めなければならない。

2. 入学金の額は、別表(3)の2のとおりとする。

(施設設備資金)

第31条 入学を許可された者は、施設設備資金を納めなければならない。

2. 施設設備資金の額は、別表（3）の3のとおりとする。

（授業料）

第32条 入学を許可された者は、在学中毎学年度の始めに授業料を納めなければならない。

2. 授業料の額は、別表（3）の4のとおりとする。

3. 4セメスター以上在学して修士課程を修了するために必要な単位を修得した者のうち、学位論文の審査および最終試験に合格するために在学期間を延長する者の授業料の額は、別表（3）の4のとおりとする。

（授業料の分納・延納）

第33条 授業料の分納または延納を願い出た者については、審査の上許可することがある。

（休学の授業料等）

第34条 休学中の授業料および施設設備資金は半額とする。

（納付金の返還）

第35条 一旦納入した学生納付金等は、一切返還しない。ただし、第31条および第32条に定める納付金については、一旦納入後に入学を辞退し、納入した学期の末日までに納入者から返還の請求が行われたときに限り、審査の上これを返還する。

（授業料の免除）

第36条 特別事情のある者については本人の願い出により、審査の上、その授業料の全額またはその一部を免除することがある。

2. 授業料の免除に関する規則は別にこれを定める。

第6節 大学院研究生、科目等履修生、委託研究生

（大学院研究生）

第37条 本大学院において特定の研究を希望する場合には、本学の研究および教授に支障のない限り選考の上大学院研究生たることを許可することがある。

2. 大学院研究生の履修料は、大学学則の規定を準用する。

（科目等履修生）

第38条 第17条に定める入学資格をもっている者で、本大学院の授業科目のうち、1または数科目の履修を希望する者があるときは、本大学院の研究および教授に支障のない限り選考の上科目等履修生たることを許可することがある。

2. 科目等履修生がその履修した科目について試験その他により合格したときは、単位を与える。

3. 科目等履修生の履修料は、大学学則の規定を準用する。

（委託研究生）

第39条 特定の機関または団体等から1セメスター以上にわたって所属職員を本学に委託する願い出があった場合には、本大学院の研究および教授に支障のない限り選考の上、委託研究生たることを許可することがある。

2. 委託研究生の委託教授料は、大学学則の規定を準用する。

（大学院研究生等の規則）

第40条 大学院研究生、科目等履修生、委託研究生に関する規則は別にこれを定める。

第7節 賞 罰

（表彰）

第41条 学生が学業その他の活動において優れた成績を挙げたときは、学長は、研究科委員会の議を経てこれを表彰することがある。

（懲戒）

第42条 次の各号のいずれかに該当するものは、研究科委員会の議を経て、学長がこれを懲戒する。

① 本大学院の秩序を乱した者

② 学生の本分に反した行為のあった者

（懲戒の種類）

第43条 懲戒は戒告、停学、退学とする。

第8節 奨 学 制 度

（奨学制度）

第44条 本大学院に次の奨学制度を置く。奨学の方法は学資の補助とする。

① 和光大学奨学制度

② 和光大学学生研究助成金制度

2. 奨学制度運営に関する規則は別にこれを定める。

第9節 雑 則

(大学学則の準用)

第45条 この大学院学則に定めのない事項については、大学学則の規定を準用する。

(改正)

第46条 この学則の改正は、第29条、第30条、第31条、第32条、第37条第2項、第38条第3項および第39条第2項を除き研究科委員会の議決を経て、学長がこれを行う。

付 則

この学則は平成15年4月1日から施行する。

付 則

この学則平成15年7月16日から施行する。

付 則

この学則平成16年4月1日から施行する。

付 則

この学則平成17年4月1日から施行する。

付 則

この学則平成18年4月1日から施行する。

付 則

この学則平成19年4月1日から施行する。

付 則

この学則平成20年4月1日から施行する。

付 則

この学則平成20年7月15日から施行する。

付 則

この学則平成21年6月1日から施行する。

付 則

この学則平成22年4月1日から施行する。

また、大学院学則第12条第1項の定めにかかわらず、平成20年度秋学期以前の入学者については従前のとおりとする。

付 則

この学則平成23年4月1日から施行する。

付 則

この学則平成27年4月1日から施行する。

付 則

この学則令和2年4月1日から施行する。

付 則

この学則令和3年4月1日から施行する。

別表（１） （削 除）

別表（２） 履修基準

研究科・専攻・コース		科目	必修科目	選択科目	合 計
社会文化総合研究科 社会文化論専攻	現代社会文化論コース	6 単位	14単位	30単位以上	
	発達・教育臨床論コース				
	現代経済・ビジネスコース				
社会文化総合研究科 心理学専攻	心理学コース				

別表（３） 入学検定料、入学金、施設設備資金、授業料その他の納付金の額

番号	種 別		金 額	備 考
1	入 学 検 定 料		35,000円	本学の卒業生及び卒業見込者の場合は、30,000円とする。
2	入 学 金		入学時 200,000円	再入学及び本学卒業生の場合は半額とする。
3	施設設備資金		1 セメスター 25,000円	
4	授 業 料		1 セメスター 300,000円	3年課程生 1 セメスター 200,000円
				4年課程生 1 セメスター 150,000円
				修了に必要な単位を 修得し、学位の資格 取得のために在学期 間を延長する学生 1 セメスター 100,000円
5	その他の 学生 納付金	実習費	50,000円	社会文化総合研究科心理学専攻に在籍し、公認心理師取得プログラム受講者に選抜された院生のみ。選抜時のみ納入とする。

別表（４） 離学登録料

番号	種 別	金 額	備 考
1	離 学 登 録 料	1 セメスター 30,000円	

和光大学大学院履修規程

第1章 授業科目

第1条 授業科目は、別表（1）に定める。

第2章 単 位

第2条 各授業科目の単位数は、原則として1時限（1コマ）1セメスターをもって2単位とする。ただし、研究指導（研究法）は、セメスターを問わず6単位とする。

第3章 授 業

第3条 1セメスターの授業日数は、15週（15回）とする。

第4条 授業科目は、必修科目、共通科目、選択必修科目及び研究指導から成る。

第5条 授業は、各授業科目の内容によって、講義、演習、実験、実習及び研究指導のいずれかによって行う。

第4章 履修方法

第6条 課程の修了要件は、2年課程生は大学院に4セメスター以上在学し、次の表に定める履修基準により、研究指導6単位を含め、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査に合格しなければならない。ただし、3年課程生は6セメスター以上、4年課程生は8セメスター在学しなければならない。

2. 研究科委員会が学修及び研究上必要と認めた場合には、上記30単位に、指導教員と相談の上学部開講科目を8単位まで含めることができる。

研究科・専攻・コース		科目	必修科目	選択科目	合 計
社会文化総合研究科 心理学専攻	心理学コース		6単位	14単位以上	30単位以上
社会文化総合研究科 社会文化論専攻	現代社会文化論コース		6単位	14単位以上	30単位以上
	発達・教育臨床論コース				
	現代経済・ビジネスコース				

第5章 履修登録

第7条 大学院学生は、授業科目及び授業時間制に基づき、指導教員の指導の下に履修科目を決定し、所定の期間に履修登録及び訂正をするものとする。履修登録は、春セメスターは4月、秋セメスターは9月に行う。

第8条 大学院学生は、入学後に指導教員を決定する。ただし、所定の手続きにより、その後の変更は可能とする。

第6章 単位認定

第9条 単位の認定は、試験、論文及び研究報告等により行う。

第10条 単位の認定は、原則として各セメスター末に行い、次セメスター始めに通知する。

第11条 単位認定の評価は、次の基準による。

	評価区分
90～100点	秀
80～89点	優
70～79点	良
60～69点	可
59点以下	不可

第7章 論文審査

第12条 論文の審査は、研究科委員会から委任された審査員によって行う。

第8章 留学・離学研修制度

第13条 在学中に、外国の大学に留学を希望する者は、その学修内容及び方法等を、所定の手続きによってあらかじめ届け出るものとする。

第14条 在学中に、離学研修制度を利用して、留学又はフィールド研究をすることができる。離学研修制度を希望する者は、その学修内容及び方法等を、所定の手続きによってあらかじめ届け出て、研究科委員会の承認を得なければならない。

付 則

この規程は、平成15年7月1日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

付 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成18年10月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2020年4月1日から施行する。

ただし、第6条の規定にかかわらず、2019年度以前の入学者については、履修基準を次のとおりとする。

入学年度	研究科・専攻・コース		科目	必修科目	選択科目	合 計
2003年度～ 2006年度春	社会文化総合研究科 社会文化論専攻	現代社会関係論コース		8単位	12単位以上	30単位以上
		発達・教育臨床論コース		8単位	12単位以上	30単位以上
2006年度秋	社会文化総合研究科 社会文化論専攻	現代社会関係論コース		6単位	14単位以上	30単位以上
		発達・教育臨床論コース		6単位	14単位以上	30単位以上
2007年度春～ 2009年度秋	社会文化総合研究科 社会文化論専攻	現代社会関係論コース		6単位	14単位以上	30単位以上
		発達・教育臨床論コース				
		現代経済・ビジネスコース				
2010年度春～ 2019年度秋	社会文化総合研究科 社会文化論専攻	現代社会文化論コース		6単位	14単位以上	30単位以上
		発達・教育臨床論コース				
		現代経済・ビジネスコース				

和光大学学位規程

(趣 旨)

第1条 和光大学（以下「本学」という。）が学位を授与するについては、学位規則（昭和28年文部省令第9号）及び和光大学学則（以下「学則」という。）、和光大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、この規程に定めるところによる。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士及び修士とする。

2. 学士の学位は、次のとおりとする。

学 部	学 科	学位（専攻分野）
現代人間学部	心理教育学科	学士（人間関係学）
現代人間学部	人間科学科	学士（人間関係学）
表現学部	総合文化学科	学士（表現学）
表現学部	芸術学科	学士（表現学）
経済経営学部	経済学科	学士（経済学）
経済経営学部	経営学科	学士（経済学）

3. 修士の学位は、次のとおりとする。

研究科	専攻	学位（専攻分野）
社会文化総合研究科	心理学専攻	修士（学術）
社会文化総合研究科	社会文化論専攻	修士（学術）

(学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、本学学則の定めるところにより、本学に4年以上在学して、所定の単位を修得した者に授与する。

2. 修士の学位は、本学大学院学則の定めるところにより、修士課程に2年（通算4セメスター）以上在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格した者に授与する。

(学位論文の審査)

第4条 本学大学院における学位の授与に関する論文の審査は、研究科委員会から委任された審査委員が行なう。

(学位論文の提出)

第5条 学位論文を提出しようとする場合は、学位論文提出の前セメスターに、論文の題目を指導教員の承認を得て、当該研究科委員会に提出しなければならない。

2. 論文は、在学期間中に、所定の期日までに提出しなければならない。

3. 論文題目の提出期限及び論文提出期限に遅れた場合は、その学位論文を受理しない。

(学位論文の受理)

第6条 第5条の規定により提出された学位論文が所定の手続きを経て受理されたときは、当該研究科委員会は、その論文の審査を審査委員会に付託する。

(審査委員会)

第7条 第6条の規程により学位論文の審査を付託された審査委員会は、主査委員及び2名の委員によって構成される。主査委員は当該研究科専任教員から、他の委員は当該研究科科目担当教員から研究科委員会が選任する。ただし、他の委員のうち1名は、研究科科目担当教員に代えて、和光大学の専任教員、非常勤講師または、学外の有識者を選任することができる。この場合には、研究科委員会の議を経て決定する。

(最終試験)

第8条 審査委員会は、学位論文の審査が終わった後に、学位論文に関わる内容について最終試験を行う。

2. 最終試験は、口頭又は筆答により行う。

3. 学位論文及び最終試験の成績は、合格又は不合格とする。

(審査期間)

第9条 修士の学位論文の審査は、在学期間中に終了するものとする。

（審査委員会の報告）

第10条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験を終了したときには、直ちに論文審査及び最終試験の結果の要旨を研究科委員会に報告しなければならない。

（研究科委員会の議決）

第11条 研究科委員会は、第10条の報告に基づいて審議し、学位授与の可否を議決する。

（研究科委員長の報告）

第12条 研究科委員会において、学位を授与できる者と議決したときは、研究科委員長は学長に報告しなければならない。

（学位の授与）

第13条 学長は、前条の規定に基づいて学位を授与すべきものには、所定の学位記を授与する。

（学位記）

第14条 学位記は、別表のとおりとする。

（学位名称の使用）

第15条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、和光大学名を明記するものとする。

（学位授与の取消）

第16条 学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は当該研究科委員会の議決を経て、学位を取り消し、学位記を返還させることができる。

付 則

この規程は平成16年12月1日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

付 則

この規程は平成17年9月28日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

付 則

この規程は平成19年4月1日から施行する。

ただし、第2条第2項の規程にかかわらず、人間関係学部人間関係学科および人間発達学科を卒業した者には学士（人間関係学）の学位を、表現学部文学科、表現文化学科、芸術学科およびイメージ文化学科を卒業した者には学士（表現学）の学位を授与する。

付 則

この規程は平成23年4月1日から施行する。

ただし、第2条第2項の規程にかかわらず人文学部文学科および芸術学科を卒業した者には、学士（人文学）の学位を、経済学部経済学科および経営学科を卒業した者には学士（経済学）の学位を授与する。

付 則

この規定は平成25年4月1日から施行する。

ただし、第2条第2項の規程にかかわらず、経済経営学部経営メディア学科を卒業した者には、学士（経済学）の学位を授与する。

付 則

この規程は2020年4月17日から施行し、2020年4月1日から適用する。

ただし、第2条第2項の規定にかかわらず、現代人間学部現代社会学科および身体環境共生学科を卒業した者には、学士（人間関係学）の学位を授与する。

和光大学大学院退学取扱規程

第1条 退学を希望する者は、和光大学大学院学則第20条により、当該セメスターの授業料を納入している者に限り、研究科委員会の議を経て学長がこれを許可する。

第2条 秋セメスター末（3月31日）をもって、退学を希望する場合は、次セメスターの4月20日までに退学の願い出があれば、これを承認することがある。

第3条 春セメスター末（9月30日）をもって、退学を希望する場合は、次セメスターの10月31日までに退学の願い出があれば、これを承認することがある。

付 則

この規程は平成24年4月1日から施行する。

和光大学大学院除籍取扱規程

第1条 授業料を滞納し、催告してもなおこれに応じない者は、和光大学大学院学則第23条の定めにより、研究科委員会の確認を経て学長が除籍を決定する。

第2条 除籍の確認は、7月および翌年2月研究科委員会で行なう。

第3条 7月研究科委員会において除籍を確認する者は、当該年度春セメスター授業料を滞納していて、催告に応じない者とする。この場合の除籍年月日は、8月31日とする。

第4条 2月研究科委員会において除籍を確認する者は、当該年度秋セメスター授業料を滞納していて、催告に応じない者とする。この場合の除籍年月日は、2月28日とする。

第5条 和光大学大学院退学取扱規程に定められた期日を超えて退学を希望する者は、除籍とする。

第6条 復籍しようとする場合は、和光大学大学院学則第21条（再入学）を適用する。

付 則

この規程は平成24年4月1日から施行する。

和光大学大学院休学・復学取扱規程

第1条 休学を希望する者は、和光大学大学院学則第24条、25条の定めにより、研究科委員会の議を経て学長がこれを許可する。

第2条 休学期間は次のとおりとする。

春セメスター 4月1日から9月30日

秋セメスター 10月1日から翌年3月31日

春セメスターと秋セメスター 4月1日から翌年3月31日

秋セメスターと春セメスター 10月1日から翌年9月30日

第3条 4月1日からの休学を希望する場合は、3月1日までに休学の願い出があれば、これを承認することがある。

2. 10月1日からの休学を希望する場合は、9月1日までに休学の願い出があれば、これを承認することがある。

第4条 休学していた者は、休学期間の満了をもって、学長が復学を許可する。

第5条 春セメスターと秋セメスターの休学を認められた者が、秋セメスターからの復学を希望する場合は、9月1日までに復学の願い出があれば、これを承認することがある。ただし復学日は10月1日とする。

2. 秋セメスターと春セメスターの休学を認められた者が、春セメスターからの復学を希望する場合は、3月1日までに復学の願い出があれば、これを承認することがある。ただし復学日は4月1日とする。

付 則

この規程は平成24年4月1日から施行する。

和光大学大学院再入学規程

（目 的）

第1条 この規程は、和光大学大学院学則第21条に基づき、再入学に関する規則を定めることを目的とする。

（再入学）

第2条 退学者または除籍者が当該者の在籍した研究科専攻コースに、再入学を希望する場合は、研究科委員会の承認に基づき、学長がこれを許可する。

2. 再入学希望者の退学年月日または除籍年月日は、問わない。

3. 当該者の在籍した研究科専攻コースが、廃止または廃止の予定のあるときには、再入学の申し出を認めない場合がある。

（受 付）

第3条 再入学を希望する者は、春セメスター入学の場合は直前のセメスターの2月末日までに、秋セメスター入学の場合は直前のセメスターの8月末日までに、所要の手続きを経たうえで再入学願を教学支援室に提出することとする。

（再入学年次）

第4条 再入学する年次ならびにセメスターは研究科委員会が決定し、再入学後の在学可能セメスター数は残存の期間とする。

（履修規程）

第5条 履修規程は、原則として再入学年次のものを適用する。

（単位認定）

第6条 退学または除籍までの既得単位は、その範囲で認める。

2. 退学または除籍した後、和光大学大学院の科目等履修生で取得した単位は、その範囲で認める。
ただし、在籍期間の変更は行わない。

（納付金）

第7条 授業料、入学金、施設設備資金その他の納付金は、大学院学則別表（3）の定めによる。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は、第7条を除き、研究科委員会の議決を経て学長がこれを定める。

付 則

1. この規程は、平成22年4月1日から施行する。

和光大学大学院科目等履修生規程

（目 的）

第1条 この規程は、和光大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第38条及び第40条に基づき、和光大学大学院科目等履修生（以下「履修生」という）に関する規則を定めることを目的とする。

（出願資格）

第2条 本大学院の授業科目（以下「科目」という。）の単位を修得するために履修を志願できる者は、大学院学則17条に定める入学資格を有する者とする。

（出願手続）

第3条 履修生を志願する者は、本学が指定する書類に検定料を添えて出願しなければならない。

（出願期間）

第4条 履修生の出願期間は、別にこれを定める。

（履修生選考）

第5条 履修生の選考は、書類審査及び他の方法により行う。

2. 志願者の可否及び履修科目の決定は、当該科目を開講する研究科委員会の議を経て学長が行う。
3. 志願者の選考に関する必要事項は、別にこれを定める。

（履修科目）

第6条 履修生の選考に合格した者は、履修を認める授業科目の中から、希望する授業科目担当の教員の承認を得た上で、履修料を添えて所定の申請書類を教学支援室に提出するものとする。履修を認める授業科目は、別に定めるものとする。

（在学期間）

第7条 履修生の在学期間は、当該科目の履修期間とし、原則として半年とする。

2. 在学の開始時期は、許可を得たセメスターの始めとする。
3. 第1項にかかわらず、引き続き履修生を希望する者は、選考を経て継続して在学することができる。

（履修料）

第8条 履修生の履修料は、大学院学則第38条第3項のとおりとする。

2. 既納の履修料は理由のいかんを問わず返還しない。

（履修生証）

第9条 履修生の身分を証明するものとして履修生証を交付する。

（単位の認定）

第10条 履修生は、履修した科目の試験を受けることができる。試験に合格した科目については所定の単位を認定し、願い出により成績証明書又は単位修得証明書を交付する。

（資格の取消）

第11条 履修生が大学の秩序を乱したとき、授業の妨げとなる行為をしたと認められるとき、あるいは理由なく長期にわたって授業に出席しないときは、履修生の資格を取り消すことがある。

（諸規程の準用）

第12条 この規程に定めのない事項については、大学院学則並びに諸規程を準用する。

（規程の改廃）

第13条 本規程の改廃は、第8条第1項を除き、研究科委員会の議を経て学長がこれを定める。

付 則

この規程は、平成22年10月1日から施行する。

20 2021年度大学院 履修登録マニュアル

2021年度 大学院 履修登録マニュアル

履修登録は本学のWebシステム
「和光ポータル」で行います

◎和光ポータルの利用について

- ・和光ポータルはインターネットにつながったパソコンのみでなく、スマホからも利用できます。
- ・和光ポータルを利用する際、入学時に交付している和光大学アカウント（ユーザ名とパスワード）が必要となります。

大学メールアドレス u21m999e@wako.ac.jp の場合 ⇒ [u21m999e](#) がユーザ名です。

パスワードが分からない場合は、図書・情報館3階のメディアサロンにて再発行（有料）が必要です。

◎和光ポータルへのログイン方法

①スマホでのログイン

<https://portal.wako.ac.jp/sp> もしくは右のQRコードからアクセス



②パソコンでのログイン

Windows/MacにてInternet Explorer、Google Chrome、Safari、Firefoxのいずれかから、

<https://portal.wako.ac.jp/> もしくは和光大学ホームページの「在学学生の方へ」からアクセス

⇒①②とも「和光大学アカウント」を入力してログインしてください。

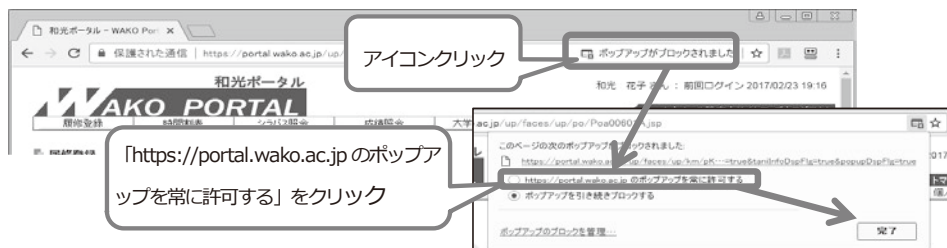
※注意※ ブラウザの「戻る」「進む」「更新」は使用しないでください！

正常に画面が表示されなくなることがあります。誤って押した場合はログインしなおしてください。

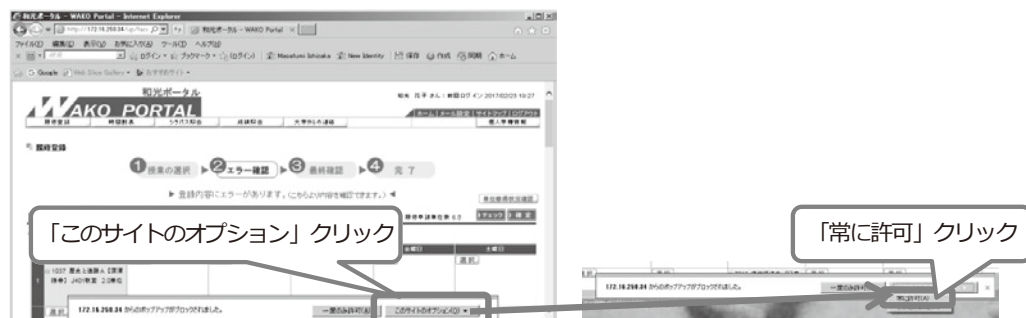
※注意※ ポップアップブロックに注意！

和光ポータルは「ポップアップ」を利用しています。マニュアル通りに操作してもうまく操作できない場合は「ポップアップブロック」の設定を確認してください。

Google Chrome の場合



Internet Explorer の場合



◎履修登録の手順

①和光ポータル「授業時間割表」から、履修したい授業を見つける

和光ポータル **時間割表** > **授業時間割表** を開くと、本年度開講されている授業が曜時ごとに表示されます（学部の開講授業も表示されます）。各授業をクリックするとシラバス（授業計画）が表示されます。自分の学びたいことと合致しているかよく確認しましょう。

パソコンの場合

シラバスが表示される

クリック

クリック

※画面は学部生の例です。



※画面は学部生の例です。

②履修登録期間

実際に登録を行えるのは、履修登録期間だけです。この期間中は、自由に削除訂正ができます。

春セメスター（前期）：4月9日（金）～15日（木）、22日（木）～23日（金）、5月1日（土）～6日（木）

※4月16日（金）～21日（水）、24日（土）～30日（金）は、学部の制限付き授業の処理期間のため、履修登録画面が閉鎖されます。この期間は履修登録ができません。

※5月6日（木）をもって追加・訂正・削除は一切できなくなります。

秋セメスター（後期）：9月13日（月）～18日（土）

※9月18日（土）をもって追加・訂正・削除は一切できなくなります。

※注意※

履修登録画面には、当該年度の春セメスター・秋セメスター両方の授業が表示されますが、履修登録は必ずそれぞれのセメスターごとに行ってください。但し、学部の授業については学部の履修登録のルールに従ってください。

春セメスターの履修登録時には秋セメスターの授業も表示されていますが、登録は秋セメスターになってから行ってください。春セメスターに履修登録した秋セメスター授業の登録は無効となります。

和光ポータル履修登録>履修登録画面にて登録を行います。

※おことわり 以下の例は学部生用の画面です。「前期」「後期」となっている箇所は、実際には「春セメスター」「秋セメスター」と表示されます。

The screenshot shows the 'Wako Portal' course selection interface. It features a navigation bar at the top with links like '履修登録' (Course Registration) and '履修登録画面' (Course Registration Screen). Below the navigation bar, there are four steps: 1. 授業の選択 (Course Selection), 2. エラー確認 (Error Confirmation), 3. 最終確認 (Final Confirmation), and 4. 完了 (Completed). The main area displays a grid of course selection options for the 2017 academic year, divided into '前期' (First Semester) and '後期' (Second Semester). The grid shows days of the week (月曜日 to 日曜日) and course numbers (e.g., 6401, 7013, 8553). Annotations highlight specific features: a callout points to a course with no '[削除]' (Delete) button, stating that such courses cannot be deleted or changed; another callout points to a course with no '[選択]' (Select) button, stating that such courses cannot be registered; a third callout points to a course with no '[曜日・時限]' (Day/Period) specified, stating that such courses cannot be registered; and a fourth callout points to a course with no '[曜日・時限]' specified, stating that such courses cannot be registered.

和光ポータル

履修登録

履修登録画面

1 授業の選択 2 エラー確認 3 最終確認 4 完了

履修する授業を選択してください。

2017年度 前期 前期単位 18.0

月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日

1 2 3 4 5 6

集中講義

曜日・時限に定めのない授業の入力欄
※研究指導・修士論文

[削除]ボタンのない授業は削除や変更はできません。

[選択]ボタンのある曜日・時限には授業を登録できます。

春セメスター授業

秋セメスター授業

・授業の入力方法

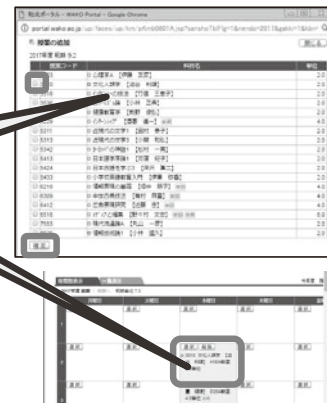
パソコンの場合

履修したい授業のある開講期(春semester or 秋semester)・曜日・時限の[選択]ボタンを押してください。



授業の追加画面が表示されます。履修したい授業に☐チェックを入れ、[確定]ボタンを押します。

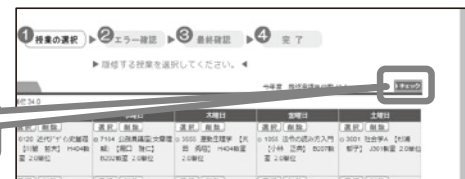
授業名を押すとシラバスが表示されます。



当該の曜日・時限に授業が入力されました。

履修したい授業をすべて入力したあと、[チェック]ボタンを押します。

全ての授業を入力したら[チェック]



履修チェック結果画面が表示され、エラーがあった場合の対象となる授業とその理由が表示されます。

エラー内容



履修チェック結果画面で「エラー」となった授業が赤くなって表示されます。必要に応じて削除したり、正しく登録し直してください。

すべてのエラーを解決したら[確定]を押します。



学生時間割表の印刷用画面が表示されます。内容を確認してください。



※登録期間中は[確定]を押しても、再度入力直すことができます。入力・修正後は必ず[チェック]を押して、エラーがないことを確認し、[確定]を押してください。

スマホ版の場合

[履修登録]を押して、履修登録画面を開きます。それから履修したい授業の開講期(春semester or 秋semester)・曜日・時限を指定します。

当該の開講期・曜日・時限に開講する授業が表示されます。上下にスクロールして当該授業を探し、履修したい授業に□チェックを入れます。

履修したい授業をすべて選んだあと、[チェック]ボタンを押します。

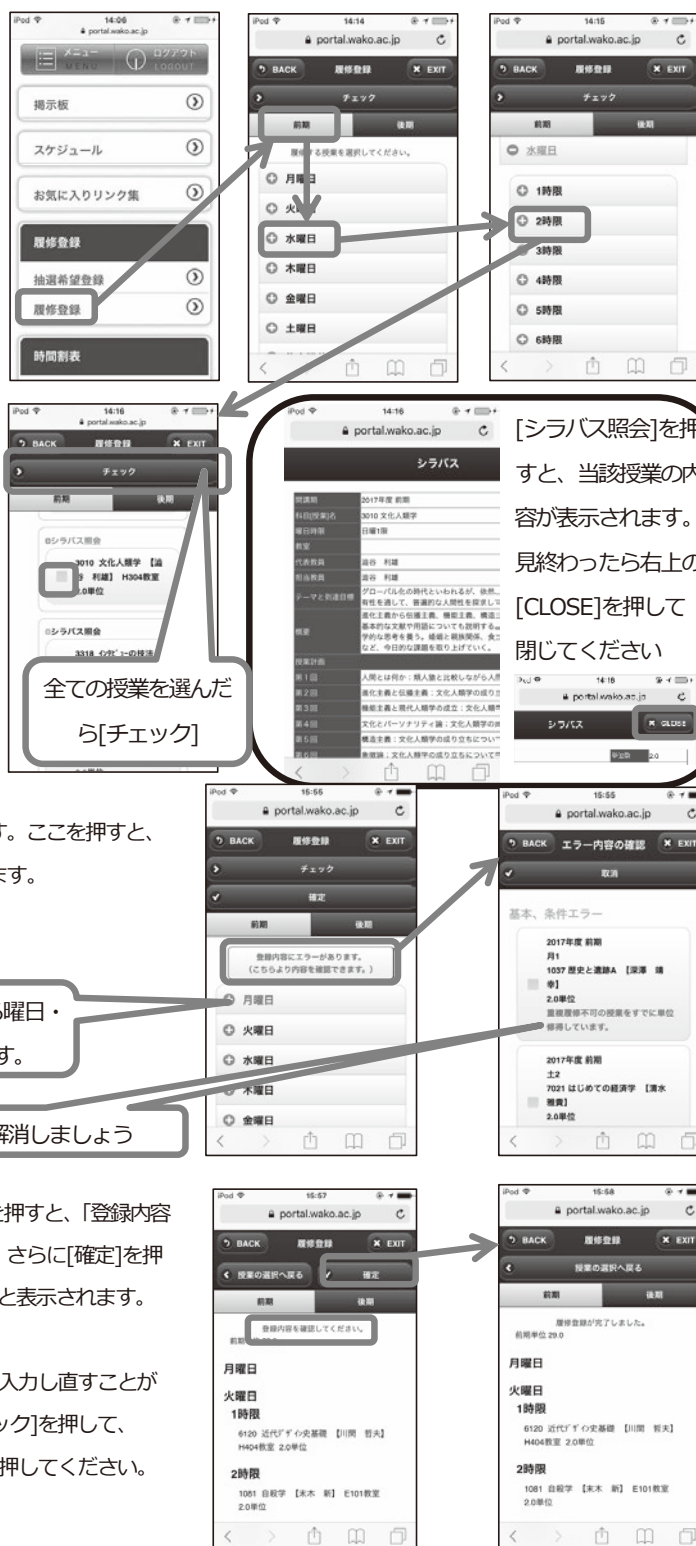
エラーがある場合「登録内容にエラーがあります」と表示されます。ここを押すと、エラー内容の確認画面が表示されます。

エラーとなった授業がある曜日・時限が赤くなっています。

エラーを解消しましょう

エラーが無い状態で[チェック]を押すと、「登録内容を確認してください」と表示され、さらに[確定]を押すと、「履修登録が完了しました」と表示されます。

※登録期間中は[確定]を押しても、再度入力直すことができます。入力・修正後は必ず[チェック]を押して、エラーがないことを確認し、[確定]を押してください。



・履修登録入力時の諸注意

i) 2コマ授業（例：水曜2・3限の『連続2コマ』授業）では、2コマのどちらか片方を[選択]し入力すると、両方のコマに自動的に入力されます。また、2コマ授業を[削除]した時も両方同時に削除されます。

2コマ授業にはというアイコンが表示されます。

ii) 集中講義は「曜日」「時限」の設定はありません。集中講義欄から履修登録を行ってください。

iii) 集中講義以外の授業で「曜日」「時限」の定まっていない授業は、全て「実習」欄から履修登録を行ってください。

・研究指導について

「実習」欄に登録します。

2年課程生は4セメスター目

3年課程生は6セメスター目

4年課程生は8セメスター目

に届け出てある指導教員の「研究指導」があらかじめ表示されます。

休学した場合は、休学セメスター分後に繰り延べられます。

研究指導の評価が「不可」になった場合は、次のセメスターにも改めて表示されます。

あらかじめ表示された「研究指導」は、削除することができます。修士論文の提出を延期予定の方、題目届の提出や中間発表を延期している方は、「研究指導」を削除してください。※但し、一旦削除すると戻せません。

・修士論文について

授業科目ではなく、単位もありませんが、修了判定の要件として必要なため、履修登録が必要になります。

2年課程生は4セメスター目

3年課程生は6セメスター目

4年課程生は8セメスター目

に「実習」欄にあらかじめ表示されます。

休学した場合は、休学セメスター分後に繰り延べられます。

「修士論文」は削除することができません。

修士論文を提出しなかったり、提出しても不合格になった場合は、次のセメスターにも改めて表示されます。

・学部授業の履修について

学部授業には、「人数制限(抽選)」「許可」「条件付」等いろいろな履修制限「種別」が設けられているものがあります。これらの授業を履修するには、各種別ごとの履修手続きを行わないと履修登録できません。詳しくは教学支援室の窓口で確認してください。

また、大学院の授業と違い、学部の後期授業については全て4月に履修手続きをすることになりますので注意してください（その授業を開講する学部の掲示板も確認してください）。

履修登録を認められた授業は、履修登録画面に表示されます（後期授業は「秋セメスター」の欄に表示されます）。

※学部の授業を履修したい方は、必ず予め学部用の「学修の手びき」を入手し、熟読の上、記載事項に従ってください。詳しくは教学支援室の窓口で確認してください。

履修登録を確定する前に「単位修得状況」欄を確認してください。

「卒業要件単位」には学修の手びき 9 ページの「修了要件」表と同様のことが記されています（画面上は「卒業要件」となっていますが、「修了要件」のことを指しています）。

「修得済単位」にこれから履修登録を行う分である「履修中単位」を加えたものが、「合計単位」となります。「卒業要件単位」と「合計単位」を見比べて、修了を見据えた履修登録となっているかを確認してください。

（「修得済単位」「合計単位」には 8 単位を超えて修得した学部専門科目の単位数も含まれていますが、修了要件で認められる学部専門科目の単位数は 8 単位までですので注意してください）

★「単位修得状況」の見方★

2 行目左から

「必修科目」：研究指導です。

「選・自」：選択必修科目及び自由選択科目です。

3 行目（「選択必修科目及び自由選択科目」の内訳）左から

「◆心理学」「◆現社文」「◆発教臨」「◆現経ビ」：各自の所属コースから修得する（した）「選択必修科目」です。

「◆他コス」「◆学部」：他コースの科目・学部専門科目から修得する（した）単位です。

上記の合計で 24 単位が必要です。

※履修登録期間が終了した時に、「エラー」を残さない様に履修登録を行ってください。万が一、エラーとなった授業が残ったままの場合、当該授業は削除され履修ができなくなります。

③履修登録内容について指導教員の確認を得る

履修登録内容については、必ず指導教員の確認を得る必要があります。

和光ポータルから印刷した時間割表と「履修登録内容確認申請書」を指導教員に提出し、履修登録内容についての確認と押印を得て、履修登録期間中に教学支援室の窓口へ提出してください。提出がなかったり期限を過ぎたりした場合は、履修登録は無効となります。

「履修登録内容確認申請書」は新年度資料、または教学支援室の窓口で受け取ってください。

◎成績の確認ができます

各セメスターの成績評価は、和光ポータル成績照会で公開されます。

春セメスター：9月6日（月）から公開開始

秋セメスター：3月8日（火）から公開開始

公開後は、いつでも入学時～最新セメスターの成績が確認できます。

パソコンの場合の例



スマホ版の場合の例



※上は、学部为例です。操作は同じです。

◎その他、和光ポータルでできること

- ・履修登録すると、自分の時間割や履修授業の休講・教室変更情報が確認できます。
- ・大学に登録されている住所、保証人等をいつでも確認できます。
- ・住所等の変更を和光ポータル上から申請できます。
- ・学内の掲示の補助として、各種お知らせを和光ポータル上で確認できます。

※現在使用しているメーリングリストは、将来的には廃止を検討中ですが、当面運用します。メーリングリストもチェックしてください。

◎よくある質問（FAQ）

《ログインについて》

Q. パスワードが分かりません。

A. 入学時に配付されたバインダー(学生証が入っていたもの)に「和光大学アカウント発行通知書」が入っています。この通知書にユーザ名とパスワードが記されています。

Q. 和光ポータルにログインできません。

A. UserIDにメールアドレス「(例)u21m999y@wako.ac.jp」を入力していませんか？ユーザ名「(例)u21m999y」のみ入力してください。

Q. パソコンもスマホも持っていませんが、どうしたらよいでしょうか。

A. 図書・情報館3階のメディアサロンが利用できます。

《登録する/したい授業の選び方について》

Q. シラバス検索をしたのですが、目的の授業を見つけられません。

A. 授業名は以下のルールとなっています。全角や半角が異なっていると検索できないことに注意してください。

半角を用いる文字：英字、数字、カタカナ、丸括弧()

全角を用いる文字：ひらがな、漢字、ローマ数字(I・II・III…)・以下の記号類(・、:、/)・ダッシュ(ー)

Q. どの授業を履修すればよいかわかりません。

A. 履修登録の前に必ず指導教員と相談してください。

《履修登録時の操作について》

Q. 和光ポータルでの操作が分からなくなりました。

A. 教学支援室窓口(A棟2階 9:15~13:00 14:00~16:30)にて相談してください。時間外の問い合わせや電話・メール等での問い合わせには応じることができません。

Q. 履修登録画面で「チェック」したら「エラー」が表示されました。エラーの意味が分からないので放置してもよいですか。

A. 「エラー」の内容が分からない場合は必ず教学支援室窓口にて確認し、解決してください。万が一、「エラー」状態のまま履修登録期間が終了した場合、「エラー」状態の授業は登録が削除されます。削除されてしまったために修了に必要な授業を履修できなかったというケースも考えられますが、学生の自己責任となりますので、このようなことの無いよう十分に確認を行ってください。

Q. 和光ポータルの「履修登録」画面には表示される授業を選択したのに、「チェック」したら「エラー」になりました。

A. 大学院の授業にはほとんどありませんが、学部授業では、過去に単位を修得していると重複して履修できない授業などもあります。エラーの表示を見て修正のうえ「確定」するようにしてください。

Q. 履修登録画面で[チェック]や[確定]ボタンを押したときに時間がかかるので何度も押しましたが、まずかったですか。

A. [チェック]や[確定]ボタンは連打しないでください、余計に時間がかかってしまいます。20~30秒程度かかることがありますので、しばらく待ってください。

《和光ポータル全般について》

Q. 自分の出欠状況は和光ポータルで見られますか。

A. いいえ、出欠状況を表示する画面はありません。

Q. クラスプロファイルのQ&Aで先生に質問をしたのですが、返事がありません。

A. クラスプロファイルの各機能(課題提出・アンケート・Q&A・授業資料・クラスフォーラム)を利用するかどうかは、各授業担当教員の判断に委ねられているため、利用しない場合は返事が無いこともあります。授業時間内に担当の教員にこれらの機能を利用するか尋ねてみてください。

《その他》

Q. 履修登録した時間割表は自宅に郵送されますか。

A. いいえ、郵送はしません。いつでも和光ポータルで確認できますので、パソコン・スマホなどで確認してください。

Q. 成績表は自宅に郵送されますか。

A. いいえ、郵送はしません。いつでも和光ポータルで確認できますので、パソコン・スマホなどで確認してください。

Q. 「成績照会」画面を見ましたが、かつて履修した学部の「通年」授業が無くなっています。

A. 「学期」欄は評価が付く学期が記されるようになったため、「通年」授業は「後期」と表記されます。

memo

和光大学 大学院
学修の手びき 2021

編集・発行／和光大学教学支援室

〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘5-1-1

TEL 044-989-7488